



第58回  
日本理学療法学会

第  
10  
回

# 日本予防 理学療法学会 学術大会

函  
館

【共催】第6回日本産業理学療法研究会学術大会



## 予防理学療法学の学際性



会期

2023年  
10/28 SAT • 29 SUN

第10回日本予防理学療法学会学術大会

大会長 >> 大淵 修一 [東京都健康長寿医療センター研究所]

副大会長 >> 新井 武志 [目白大学]

第6回日本産業理学療法研究会学術大会

大会長 >> 佐藤 友則 [東北労災病院治療就労両立支援センター]

会場 >> 函館市民会館・函館アリーナ

プログラム  
抄録集

※ 本学術大会は、第58回理学療法学会の1つとして開催されます。

Designed by Rawpixel.com - jp.freepik.com <https://jp.freepik.com/photos/abstract>



# CONTENTS

第10回日本予防理学療法学会学術大会  
第6回日本産業理学療法研究会学術大会

2023年10月28日(土)・29日(日)

大会長あいさつ	4	一般演題一覧	89
開催概要	6	・セレクション [予防]	90
参加者の皆様へ	7	・一般演題口述 [予防]	90
演者の方へ	11	・一般演題ポスター [予防]	96
座長の方へ	14	・セレクション [産業]	106
交通案内図	15	・一般演題口述 [産業]	106
会場案内図	16	・一般演題ポスター [産業]	107
タイムテーブル	18	自由集会一覧	111
大会長基調講演	24	イベント紹介	116
シンポジウム	27	協賛ご芳名	117
スポンサードセミナー	53	広告	118
市民公開講座	69	準備委員会	132
オーガナイズドセッション一覧	71		
・オーガナイズドセッション [予防・産業]	72		

# 大会長あいさつ

---



第10回日本予防理学療法学会

大会長

大淵 修一

東京都健康長寿医療センター研究所

第10回日本予防理学療法学会を2023年10月28日(土)から29日(日)まで北海道函館市で開催するにあたり、皆様にご挨拶を申し上げます。

予防理学療法学の対象の一つに高齢期のフレイルがあります。フレイルは様々な機能が低下することによる恒常性の破綻を特徴とします。すなわち、フレイルには多面的、すなわちホリスティックな理解が必要になります。高齢期のフレイルは一例ですが、予防理学療法学の領域は小児から成人も含みます。さらには健康増進、スポーツによる傷害予防、再発予防に資する運動習慣・行動変容などが対象となり、予防理学療法はその学際性に特徴があると言ってもいいでしょう。このようなことから本学術では、テーマを「予防理学療法学の学際性」とし、多職種、多領域の参加ができるものにしたと考えました。

開催地となる函館市は人口24万人超の北海道の中核市であり、東京から約1時間20分で訪れることができます。空路の利便性が高いですが、北海道新幹線も開通しており鉄道の旅も楽しむこともできます。函館は世界三大夜景の一つに数えられる函館山をはじめ、古くからの港町として栄えた美しい街並みなど観光名所が多いことでも有名です。また、会場近くの湯の川温泉は、湯量が豊富な温泉として知られ、函館山を眺めながらの入浴は皆さんの良い思い出になることでしょう。

これまでCOVID-19の影響で、第7回から第9回までWEB開催、もしくはハイブリッド開催してきました。しかし、第10回の記念となる本学術大会は完全対面での開催を予定しております。「学際性」をテーマに様々な職種の方が参加いただけるよう、オーガナイズドセッションなど新しい企画も用意いたしました。函館市様のご厚意で函館市民会館および函館アリーナの大きな施設をお借りすることができましたので360演題、参加者1,200名を予定とする盛大な学術大会にしたいと考えています。

第10回大会をきっかけに、予防理学療法学が更にステップアップすることを願って我々準備委員一同、精一杯皆様をお迎えする環境を整えたいと考えております。皆様、最先端の知見を持ち寄ってお集まりください。たくさんの議論をしましょう！

心より、お待ちしております。



第6回日本産業理学療法研究会学術大会  
大会長  
佐藤 友則  
東北労災病院治療就労両立支援センター

この度、2023年10月28日(土)・29日(日)に第6回日本産業理学療法研究会学術大会を函館市民会館・函館アリーナにて開催する運びとなり、ご挨拶をさせていただきます。

日本の平均寿命は過去最高を更新して、今後さらに超高齢社会になると予測されています。「人生100年時代」という言葉が話題にのぼるなか、高年齢者雇用安定法の改正で定年を70歳まで引き上げることが企業に求められ、今後さらに高年齢労働者の増加が見込まれます。高年齢労働者は、雇用継続に際してこれまで培った経験や知識などの強みがある一方で、加齢に伴う身体機能の低下を背景とした転倒や腰痛などの作業行動に起因する労働災害が多く、喫緊の課題となっています。2023年3月に、労働災害を減少させるために国が重点的に取り組む事項を定めた中期計画である「第14次労働災害防止計画」が策定・公示され、2023年4月から2028年3月までの5年間を計画期間とすることが決まりました。この計画の本文に、労働者の作業行動に起因する労働災害防止対策の推進のために、国等が取り組むこととして、「理学療法士等を活用した事業場における労働者の身体機能の維持改善の取組を支援する」という文言が、初めて明記されました。これらのことから、産業保健分野での理学療法の社会からのニーズの高まりを感じるとともに、理学療法士が労働災害防止や疾病予防で活躍するチャンスであると考えています。

そこで今回の学術大会のテーマは、「産業保健における理学療法のポシビリティ」としました。ポシビリティとは可能性を表す言葉ですが、高年齢労働者の健康づくりや労働災害防止に、理学療法士が社会貢献できる可能性や職域拡大の可能性など、さまざまな可能性を討論する学術大会にしたいと考えています。また、ポシビリティには、将来性という意味もあります。この分野の将来性にもフォーカスが当たる機会になればと思います。

シンポジウムでは、産業保健における理学療法の先進国であるアメリカ、イギリス、オーストラリア、オランダ、北欧などの国際調査から、海外の現状や実態を知るとともに、日本との違いや海外から学ぶべきことなどをディスカッションできればと考えています。また、オーガナイズドセッションでは、「治療と仕事の両立支援」や「産業保健分野における理学療法の事例・活動報告」を通して、産業理学療法の可能性や課題について深掘りしていきたいと思っています。

一人でも多くの皆様の参加を歓迎するとともに、良い研鑽の機会として頂けますよう、関係者一同心よりお待ちしております。

# 開催概要

---

## 1. 学会名

第10回日本予防理学療法学会学術大会  
第6回日本産業理学療法研究会学術大会

## 2. 大会テーマ

第10回日本予防理学療法学会学術大会  
「予防理学療法学の学際性」

第6回日本産業理学療法研究会学術大会  
「産業保健における理学療法のポシビリティ」

## 3. 会期

2023年10月28日(土)・29日(日)(現地開催)

## 4. 会場

函館市民会館(〒042-0932 函館市湯川町1-32-1)  
函館アリーナ(〒042-0932 函館市湯川町1-32-2)

## 5. 大会長

第10回日本予防理学療法学会学術大会  
大会長 大渕 修一(東京都健康長寿医療センター研究所)  
副大会長 新井 武志(目白大学)

第6回日本産業理学療法研究会学術大会  
大会長 佐藤 友則(東北労災病院治療就労両立支援センター)

## 6. 準備委員長

河合 恒(東京都健康長寿医療センター研究所)  
森山 武(市立函館病院)

# 参加者の皆様へ

## 【事前参加登録期間】

### <日本予防理学療法学会会員・日本産業理学療法研究会会員・日本理学療法士協会会員>

マイページより申込み……………クレジット：7月28日（金）～10月22日（日）

口座振替：7月28日（金）～9月17日（日）

### <日本理学療法士協会非会員理学療法士・他職種・学生>

大会ホームページより申込み……………クレジット：7月28日（金）～10月22日（日）

※事前参加登録期間を過ぎた場合は、当日参加の手続きとなります。当日参加については、「当日参加の会員の皆様へ」または「当日参加の非会員理学療法士・他職種・学生の皆様へ」をご参照ください。

## 【事前参加登録方法】

### <日本予防理学療法学会会員・日本産業理学療法研究会会員・日本理学療法士協会会員>

- 上記の事前参加登録期間内に日本理学療法士協会マイページより、「第10回日本予防理学療法学会学術大会」または「第6回日本産業理学療法研究会学術大会」への参加登録を行ってください。なお、「第10回日本予防理学療法学会学術大会」と「第6回日本産業理学療法研究会学術大会」の**重複参加登録**はなさないようご注意ください（誤って重複登録をされた場合のキャンセルや返金はできません）。

### <日本理学療法士協会非会員理学療法士・他職種・学生>

- 上記の事前参加登録期間内に大会ホームページから事前参加登録を行ってください。
- 事前参加登録につきましては、クレジットカード決済サービスPayventにて行います。事前参加登録方法の詳細については、大会ホームページをご参照ください。

<https://10congress.webgakkai.com/registration>

※大会当日に、クレジットカード決済サービスPayventより発行される領収書とQRコード（決済後に送られるメールに記載）の2点を必ずご持参ください。

※参加をご希望される学生の方は参加費無料となりますが、クレジットカード決済サービスPayventにて事前参加登録ができます。学生での事前参加登録をされた場合は、当日、必ず学生証をご持参いただき、当日に会場の「参加登録受付」にて学生証をご提示ください。

## 必ずご確認ください

マイページにご登録のアドレスが、携帯メール（@docomoや@ezweb等）の場合、メールがエラーで届きません。携帯メールではないメールアドレスへ登録変更ください。メールが届かない場合に生じる、いかなる不利益も本会や大会準備委員会は責任を負えません。

- 事前参加登録完了後は、キャンセル、返金のご請求はお受けできません。
- 決済方法により締切りが異なります。
- 演題発表者（オーガナイズドセッション・一般演題形式共に）・座長は参加登録が必須です。
- 学生とは、医療・保健・福祉系養成校在学者を指しますが、理学療法士の資格のある方は該当しません。



は日本理学療法士協会システムより請求します(参加費はマイページにご自身が登録している年会費決済方法で後日参加費を請求いたします。ただし、年会費口座振替の方はバーコード式請求書による現金振込になります)。

#### **【事前参加登録の非会員理学療法士・他職種・学生の皆様へ】**

当日、参加受付窓口にて受付をお済ませください。「参加受付窓口」にて、クレジットカード決済サービスPayventの領収書とQRコード(決済後に送られるメールに記載)を提示して、受付をしてください。受付時に、Payventの領収書とQRコードのご提示をいただけない方や事前の学会参加費の入金が確認できなかった方には、当日学会参加費の入金がわかるものを提示していただきます。入金が確認されない場合、学会に参加できないので、ご注意ください。

学生の方は、併せて学生証もご提示ください。学生証のご提示がない場合、学会に参加できないので、ご注意ください。

#### **【当日参加登録の非会員理学療法士・他職種・学生の皆様へ】**

日本予防理学療法学会または日本産業理学療法研究会の「参加受付窓口」に、当日参加申込書を提出していただき、クレジットカード決済サービスPayventにて参加登録および参加費の決済をしていただきます。クレジットカード決済サービスPayventのご利用につきましては、ご自身のスマートフォン等で行っていただきます。また、決済につきましては、クレジットカードと一部の電子決済のみとなりますのでご注意ください(VISA, MasterCard, American Express, JCB, ダイナース, Discover, Apple Pay, Google Payがご利用可能です)。現金および銀行振り込みでの決済はできませんので、ご注意ください。なお、当参加申込書は、受付会場にて配布いたします。申込書の必要事項をご記入いただき、ご提出ください。また、Payventの利用方法については、「参加受付窓口」の係員が説明いたしますので、お声かけください。

当日参加受付をご希望される学生につきましても、当日参加申込書を提出していただき、クレジットカード決済サービスPayventにて参加登録をしていただきます。参加費は無料となりますので、クレジットカード情報は不要ですが、必ず学生証はご提示ください。学生証のご提示がない場合、学会に参加できないので、ご注意ください。

#### **【カメラ・ビデオ撮影・録音について】**

撮影許可証を持たない方のプログラム(ポスター演題含む)のカメラ・ビデオ撮影(カメラ付き携帯電話を含む)・録音などは、講演者や発表者の著作権保護や対象者のプライバシー保護のために禁止します。万が一、撮影・録音をしている方を見かけましたらデータの削除をお願いします。また、撮影・録音をしている方を見かけましたら近くのスタッフにお声掛けください。

#### **【会場内での呼び出し】**

会場内での呼び出しはできません。携帯電話の使用について会場内では必ず電源を切るかマナーモードに設定してください。また、プログラム中の通話は禁止です。



# 演者の方へ

## オーガナイズドセッション・一般演題 (セレクション・口述)

### 【発表について】

オーガナイズドセッション：発表7分・質疑応答3分を基本としますが、オーガナイザー（座長）の指示に従ってください。

一般演題 (セレクション)：予防 発表7分・質疑応答3分  
産業 発表12分・質疑応答3分

一般演題 (口述)：予防産業ともに発表7分・質疑応答3分

シンポジウム：各セッションごとに異なります。

スポンサードセミナー：各セッションごとに異なります。

- ・セッション開始30分前までに総合受付の座長・演者受付にお越しください。
- ・セッション開始10分前までに各会場内の次演者席にご着席ください。

### 【質疑応答について】

- ・質問用マイクの前に立ってご質問をいただきます。

### 【スライドについて】

- ・オーガナイズドセッション、一般演題 (セレクション・口述) のご発表データは、事前にお預かりいたします (スライドの事前受付の締切日：10月16日 (月))。詳細については大会ホームページ <https://10congress.webgakkai.com> をご参照ください。なお、当日のスライド受付はありません。
- ・基調講演、スポンサードセミナーは各会場にUSBで直接お持ち込みください。詳細は総合受付 (セッション開始30分前まで) でご案内の予定です。
- ・PowerPoint (できる限り最新Version) にて、スライドサイズは16:9で作成してください。動画は使用できません。またアニメーションも、動作遅延が予想されますので可能な限り避けてください。
- ・大会で用意しているPCのOSはWindows10、アプリケーションソフトはoffice365 (PowerPoint2021) です。
- ・データを作成したPC以外で正常に動作するか事前にご確認ください。
- ・Macintosh版PowerPointで作成したデータは、互換性が損なわれる場合があります。事前にWindows版PowerPointにて文字のずれ、動作確認等を行ってください。
- ・Windows10 OSに標準搭載されているフォントのみ使用可能です。
- ・発表者ツールは使用できません。発表原稿等のデータは事前に印刷の上お持ちください。
- ・本大会では、COIに関する開示をお願いいたします。スライド内にCOIに関する情報を必ず記載して下さい (P13参照)。

## 一般演題 (ポスター)

### 【発表について】

- ・発表5分・質疑応答3分を基本としますが、自由な議論のみとするなど進行は座長に一任いたします。座長はセッション開始前の待機時間で演者と発表方法について打ち合わせを行って下さい。
- ・演者リボンをポスターパネルに準備しております。発表の際は胸の辺りの見えるところに必ず付け、該当セッションの開始時刻10分前に各自のポスター前で待機してください。
- ・指定されたセッション時間中は、その場を離れないようお願いいたします。



## 利益相反 (COI) の開示について

### 【利益相反 (COI) とは】

COIとは、外部との経済的な利益関係等によって、公的研究で必要とされる公正かつ適正な判断が損なわれる、または損なわれるのではないかと第三者から懸念が表明されかねない事態をいいます。公正かつ適正な判断が妨げられた状態としては、データの改ざん、特定企業の優遇、研究を中止すべきであるのに継続する等の状態が考えられます。（「厚生労働科学研究における利益相反 (Conflict of Interest : COI) の管理に関する指針」より抜粋）(<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10600000-Daijinkouboukouseikagakuka/0000152586.pdf>)。

### 【本学会の利益相反の開示への対応】

日本理学療法士学会では2017年より利益相反の開示について統一した基準を設けて運用しています。本学会事業に関わる研究活動において利益相反が発生する場合は、「利益相反の開示に関する基準」をご確認いただき、それぞれの事業において指定されている利益相反の開示に対する対応をお願いします。スライドの2頁目にCOIの宣言のスライドを入れてください。詳細は、一般社団法人日本理学療法学会連合のホームページ (<http://jspt.japanpt.or.jp/shinsa/coi/>) をご覧ください。

## 著作権に関する注意事項

ご発表の際に使用されるスライドや、スライド内の画像などのコンテンツは著作権上問題のないものに限るよう、ご注意ください。

## 個人情報保護法に関するお願い

2006年4月より、上記法律が施行されております。個人が識別され得る症例の提示に関しては、ご発表内容に関して演者が患者のプライバシー保護の観点から十分な注意を払い、ご発表いただくようお願いいたします。

# 座長の方へ

## オーガナイズドセッション・一般演題(セレクション・口述)

オーガナイズドセッション：発表7分・質疑応答3分を基本としますが、進行はオーガナイザー（座長）に一任いたします。事前に演者と発表方法について打ち合わせを行ってください。

一般演題(セレクション)：予防 発表7分・質疑応答3分  
産業 発表12分・質疑応答3分

一般演題(口述)：予防産業ともに発表7分・質疑応答3分  
シンポジウム：各セッションごとに異なります。  
スポンサードセミナー：各セッションごとに異なります。

- 当日は担当セッション開始30分前までに総合受付の座長・演者受付にお越しくください。
- 担当セッションの開始10分前までに各会場内の次座長席にご着席ください。
- 担当セッションの進行に関しては座長に一任します。
- 必ず予定の時刻までに終了するようにお願いいたします。

### 【質疑応答について】

- 質問用マイクの前に立ってご質問をいただきますので、質問者のご指名をお願いいたします。
- 質疑応答時間は限られておりますので、できる限り時間通りに円滑な運営をお願いいたします。

## 一般演題(ポスター)

- 発表5分・質疑応答3分を基本としますが、自由な議論のみとするなど進行は座長に一任いたします。座長はセッション開始前の待機時間で演者と発表方法について打ち合わせを行って下さい。
- 当日は担当セッション開始30分前までに総合受付の座長・演者受付にお越しくください。
- 担当セッションの開始20分前までにポスター会場にお集まりください。
- 担当セッションの進行に関しては座長に一任します。
- 必ず予定の時刻までに終了するようにお願いいたします。

### 【質疑応答について】

- ポスター前にいる聴衆から質問をいただきますので、質問者のご指名をお願いします。
- 質疑応答時間は限られておりますので、できる限り時間通りに円滑な運営をお願いいたします。

## 交通案内図

函館市民会館 (〒042-0932 函館市湯川町 1-32-1)

函館アリーナ (〒042-0932 函館市湯川町 1-32-2)



### 函館駅から会場まで

- 市電で「函館アリーナ前 (市民会館前)」下車徒歩3分 (所要時間約40分)
- タクシー (所要時間約20分)

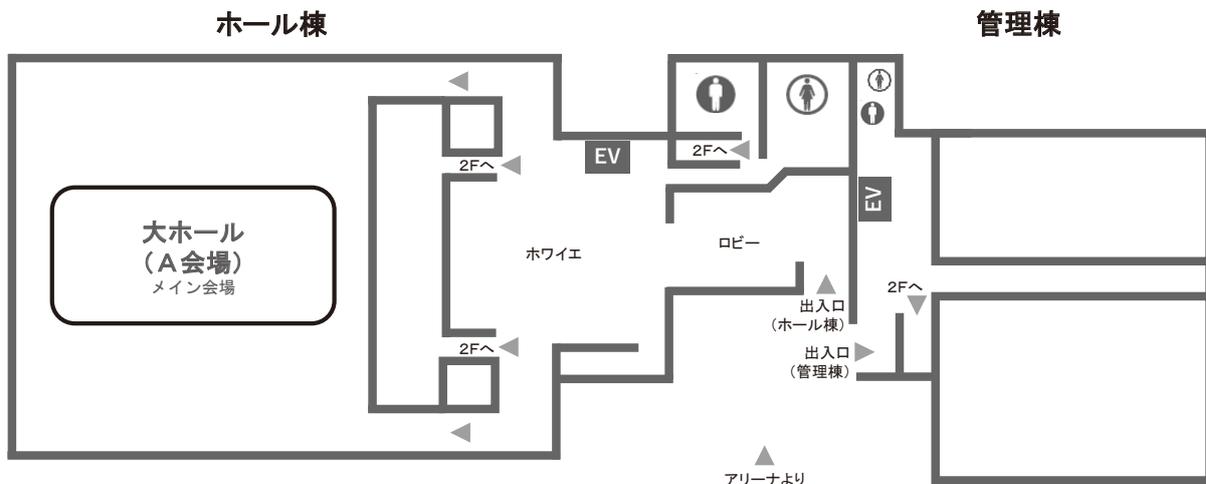
### 函館空港から会場まで

- バスで「市民会館・函館アリーナ前」下車徒歩3分 (所要時間約20分)
- タクシー (所要時間約10分)

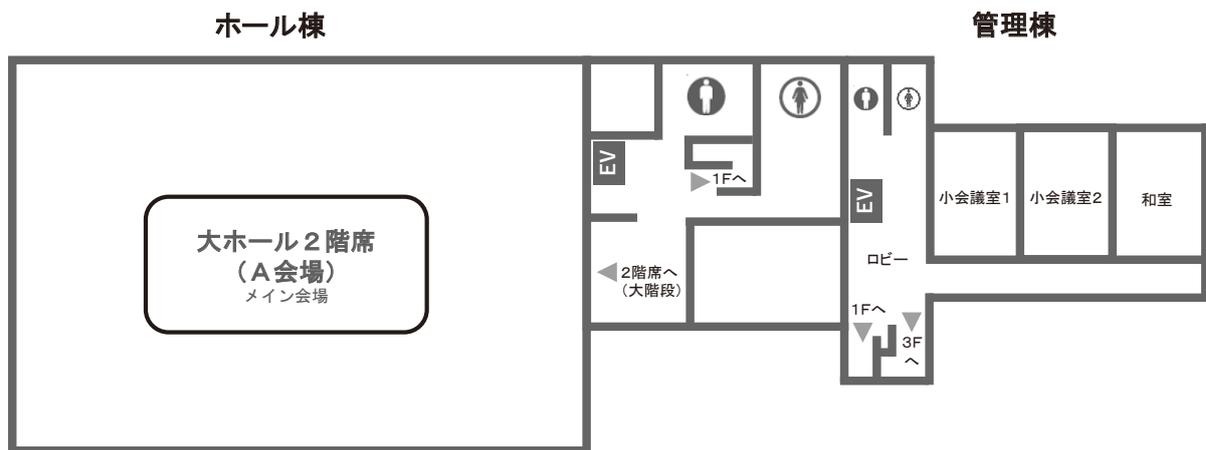
※ 会場には有料駐車場がありますが、原則として公共交通機関をご利用ください。

# 会場案内図

函館市民会館 1 階

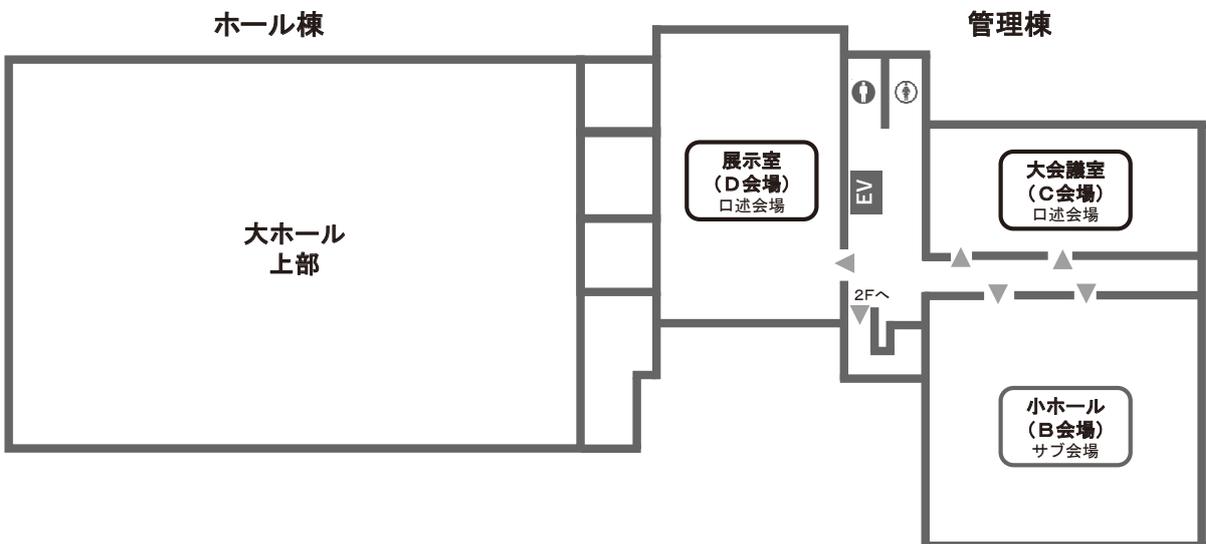


函館市民会館 2 階

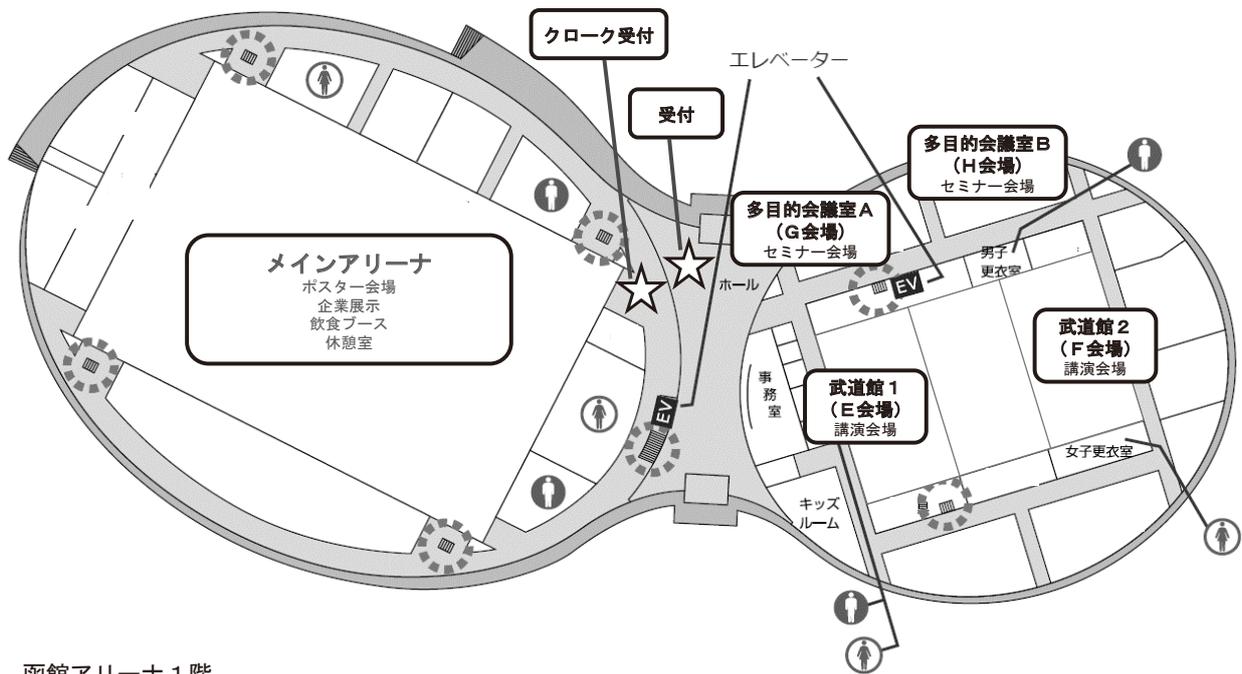


※ホール棟から管理棟への移動は1階からのみとなります

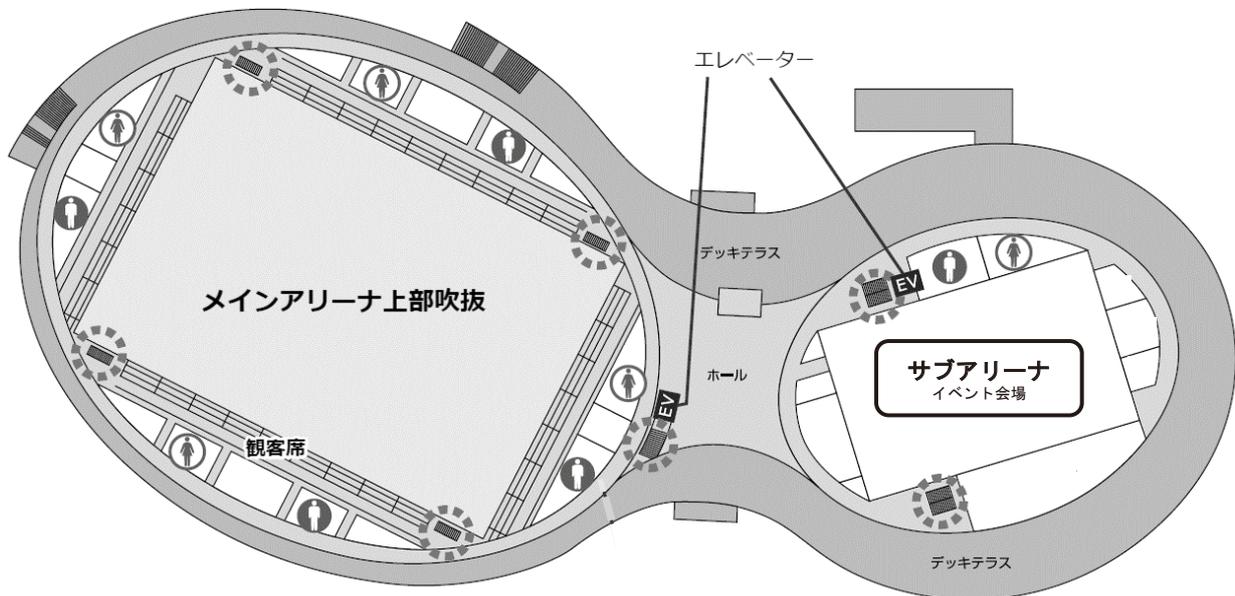
函館市民会館 3 階



※ホール棟から管理棟への移動は1階からのみとなります



函館アリーナ 1階



函館アリーナ 2階

# タイムテーブル 〈1日目：10月28日(土)〉

	函館市民会館				函館アリーナ		
	大ホール (A会場) メイン会場	小ホール (B会場) サブ会場	大会議室 (C会場) □述会場	展示室 (D会場) □述会場	メインアリーナ ポスター会場		
8:00							
8:30	8:30~9:00 開会式						
9:00							
9:30	9:10~10:50 予防 シンポジウム1 (介護予防の 来し方行く末) 日本老年医学会 後援	9:10~10:10 予防 OS1	9:10~10:10 予防 □述1 (地域高齢者)	9:10~10:10 予防 OS7			
10:00							
10:30		10:20~11:20 産業 □述1 (健康)	10:20~11:20 予防 OS2	10:20~12:00 予防 シンポジウム5 (地域づくりによる 介護予防)			
11:00	11:00~12:40 予防 シンポジウム2 (骨粗鬆症に対する 理学療法の基本と 臨床) 日本骨粗鬆症学会 合同	11:30~12:40 産業 セレクション	11:30~12:30 予防 OS3				
11:30							
12:00							
12:30							
13:00	12:50~13:50 大会長 基調講演 (予防・産業)						
13:30							
14:00	14:00~16:00 予防 シンポジウム3 (サルコペニア・フ レイルの予防理学 療法学最前線) 日本サルコペニア・ フレイル学会合同	14:00~15:40 予防 セレクション	14:00~15:00 予防 OS4	14:00~15:00 予防 OS8	14:00~15:00 予防 ポスター1 (転倒)	14:00~15:00 予防 ポスター4 (転倒)	14:00~15:00 予防 ポスター7 (地域)
14:30							
15:00							
15:30			15:10~16:10 予防 OS5	15:30~17:10 予防 シンポジウム6 (うつ予防と予防 理学療法学)	15:10~16:10 予防 ポスター2 (運動器)	15:10~16:10 予防 ポスター5 (実践活動)	15:10~16:10 予防 ポスター8 (介護)
16:00	16:10~17:50 予防 シンポジウム4 (健康日本21に向 けた口コモ対策) 日本整形外科学会 合同	15:50~16:50 産業 OS1	16:20~17:20 予防 OS6		16:20~17:20 予防 ポスター3 (転倒)	16:20~17:20 予防 ポスター6 (実践活動)	16:20~17:20 予防 ポスター9 (介護)
16:30							
17:00							
17:30			17:30~18:30 予防 自由集会①	17:30~18:30 産業 自由集会			
18:00							
18:30							

# 函館アリーナ

	メインアリーナ ポスター会場			武道館 1 (E会場) 講演会場	武道館 2 (F会場) 講演会場	多目的会議室A (G会場) セミナー会場	多目的会議室B (H会場) セミナー会場
8:00							
8:30							
9:00							
9:30				9:10~10:10 予防 OS9	9:10~10:10 予防 口述2 (実践活動)	9:10~10:10 予防 口述3 (骨粗鬆症)	9:10~10:10 予防 口述5 (サービス)
10:00				10:20~11:20 予防 OS10	10:20~11:20 予防 OS15	10:20~11:20 スポンサー セミナー1 <small>株式会社InfoDeliver</small>	10:20~11:20 スポンサー セミナー5 <small>インターリハ株式会社</small>
10:30				11:30~12:30 予防 OS11	11:30~12:30 予防 OS16	11:30~12:30 予防 口述4 (転倒)	11:30~12:30 予防 口述6 (介護予防)
11:00							
11:30							
12:00							
12:30							
13:00							
13:30							
14:00	14:00~15:00 予防 ポスター10 (ヘルスプロ モーション)	14:00~15:00 予防 ポスター13 (感染)	14:00~15:00 産業 ポスター1 (健康)	14:00~15:00 予防 OS12	14:00~15:00 予防 OS17	14:00~15:00 スポンサー セミナー2 <small>パナソニックホール ディングス株式会社</small>	14:00~15:00 スポンサー セミナー6 <small>システム・インスト ルメンツ株式会社</small>
14:30							
15:00	15:10~16:10 予防 ポスター11 (サルコ)	15:10~16:10 予防 ポスター14 (栄養嚥下)	15:10~16:10 産業 ポスター2 (疾病)	15:10~16:10 予防 OS13	15:10~16:10 予防 OS18	15:10~16:10 スポンサー セミナー3 <small>マイクロストーン 株式会社</small>	15:10~16:10 スポンサー セミナー7 <small>セントラルスポーツ 株式会社</small>
15:30							
16:00	16:20~17:20 予防 ポスター12 (サルコ)	16:20~17:20 予防 ポスター15 (認知症)	16:20~17:20 産業 ポスター3 (その他)	16:20~17:20 予防 OS14	16:20~17:20 予防 OS19	16:20~17:20 スポンサー セミナー4 <small>酒井医療株式会社</small>	16:20~17:20 スポンサー セミナー8 <small>花王株式会社</small>
16:30							
17:00				17:30~18:30 予防 自由集会②	17:30~18:30 予防 自由集会③	17:30~18:30 予防 自由集会④	17:30~18:30 予防 自由集会⑤
17:30							
18:00							
18:30							

# タイムテーブル 〈2日目：10月29日(日)〉

	函館市民会館				函館アリーナ		
	大ホール (A会場) メイン会場	小ホール (B会場) サブ会場	大会議室 (C会場) □述会場	展示室 (D会場) □述会場	メインアリーナ ポスター会場		
8:00							
8:30							
9:00	8:50~10:30 予防 シンポジウム7 (認知症の予防および共生を目指した多職種アプローチ)	8:50~9:50 産業 □述2 (労働災害)	8:50~9:50 予防 OS20	8:50~9:50 予防 OS23			
9:30							
10:00	日本老年療法学会 合同	10:00~11:40 予防 シンポジウム9 (生活習慣病における予防理学療法)	10:00~11:00 予防 OS21	10:00~11:40 予防 シンポジウム11 (スポーツ領域における予防理学療法)	10:00~11:00 予防 ポスター16 (運動器)	10:00~11:00 予防 ポスター19 (運動器)	10:00~11:00 予防 ポスター22 (内部)
10:30							
11:00	10:40~12:20 産業 シンポジウム (世界の産業理学療法、日本の産業理学療法)		11:10~12:10 予防 OS22		11:10~12:10 予防 ポスター17 (サービス)	11:10~12:10 予防 ポスター20 (中枢)	11:10~12:10 予防 ポスター23 (健康)
11:30							
12:00				11:50~12:50 予防 OS24			
12:30	12:20~12:40 次期大会長挨拶	12:30~13:30 産業 OS2	12:20~14:00 予防 シンポジウム10 (学童期における予防理学療法)		12:20~13:20 予防 ポスター18 (運動器)	12:20~13:20 予防 ポスター21 (内部)	12:20~13:20 予防 ポスター24 (健康)
13:00	12:50~14:30 予防 シンポジウム8 (栄養・嚥下・口腔機能における予防理学療法の重要性)			13:00~14:00 予防 OS25			
13:30							
14:00	日本栄養・嚥下理学療法学会合同						
14:30		14:30~16:30 市民公開講座					
15:00							
15:30							
16:00							
16:30	16:30~17:00 閉会式						
17:00							
17:30							
18:00							
18:30							

# 函館アリーナ

	メインアリーナ ポスター会場			武道館 1 (E会場) 講演会場	武道館 2 (F会場) 講演会場	多目的会議室A (G会場) セミナー会場	多目的会議室B (H会場) セミナー会場
8:00							
8:30							
9:00				8:50~9:50 予防 OS26	8:50~9:50 予防 OS29	8:50~9:50 予防 口述11 (サルコ)	8:50~9:50 スポンサード セミナー12 東京都健康長寿医療 センター研究所
9:30							
10:00	10:00~11:00 予防 ポスター25 (基礎)	10:00~11:00 産業 ポスター4 (労働)		10:00~11:00 予防 OS27	10:00~11:00 予防 OS30	10:00~11:00 スポンサード セミナー9 株式会社バックテック	10:00~11:00 スポンサード セミナー13 株式会社 カープスジャパン
10:30							
11:00	11:10~12:10 予防 ポスター26 (基礎)	11:10~12:10 産業 ポスター5 (健康)		11:10~12:10 予防 OS28	11:10~12:10 予防 口述9 (ヘルスプロ モーション)	11:10~12:10 スポンサード セミナー10 住友理工株式会社	11:10~12:10 スポンサード セミナー14 CPC株式会社
11:30							
12:00	12:20~13:20 予防 ポスター27 (予防未来)	12:20~13:20 産業 ポスター6 (労働)	12:20~13:20 産業 ポスター7 (健康)	12:20~13:20 予防 口述7 (介護予防)	12:20~13:20 予防 OS31	12:20~13:20 スポンサード セミナー11 旭化成ホームズ 株式会社	12:20~13:20 スポンサード セミナー15 株式会社ルネサンス
12:30							
13:00				13:30~14:30 予防 口述8 (ロコモ)	13:30~14:30 予防 口述10 (フレイル)	13:30~14:30 予防 口述12 (スポーツ)	13:30~14:30 予防 口述13 (疾患別)
13:30							
14:00							
14:30							
15:00							
15:30							
16:00							
16:30							
17:00							
17:30							
18:00							
18:30							



# 大会長基調講演

2023年10月28日(土) 12:50 ~ 13:50

大ホール (A会場；メイン会場)

司会	笠原 岳人	仙台大学
講師	大 淵 修 一	東京都健康長寿医療センター研究所 第10回日本予防理学療法学会学術大会 大会長
	佐 藤 友 則	東北労災病院治療就労両立支援センター 第6回日本産業理学療法研究会学術大会 大会長

# 介護予防概論

## — 長寿命国の健康課題 —



東京都健康長寿医療センター研究所  
 第10回日本予防理学療法学会学術大会 大会長  
**大 瀨 修 一**

### 【大会長基調講演要旨】

健康課題は社会の発展とともに変化してきている。第二次世界大戦以前は感染症、その後は生活習慣病へと移行してきた。まだ多くの国々はこのレベルで止まっているが、いち早くこれらの問題を解決し長寿命国となった日本では、老化が健康課題の中心になった。老化は、疾病と異なり誰しもが避けられないものであることから健康課題にすることに疑義があったが、1980年のFiataroneらのナーシングホームでの高負荷筋力増強トレーニングの研究以降、少なくとも老化に伴う生活機能の低下は予防したり、改善したりできるものであり、老化による生活機能低下を防ぐものとして介護予防が施策化された。しかしこうした取り組みに関心を示さないものも少なくない。これは社会の高齢者に対する役割期待の低さが生み出しているものであり、介護予防には老化に伴う生活機能低下を防ぐ技術だけでなく、第三の人生の新たな規範を創造することも求められる。基調講演では、健康課題の変遷を概観し、これからの健康課題の解決のために求められる要件を提示し、新たな規範について皆さんと考えたい。

略 歴	1982年～ 国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院卒業 1991年～ アメリカ合衆国ジョージア州立大学修士課程卒業 1991年～ 東京都老人総合研究所客員研究員 1992年～ 北里大学医療衛生学部専任講師 2003年～ 東京都老人総合研究所介護予防緊急対策室室長 2016年～ 東京都健康長寿医療センター研究部長
受 賞	第72回保健文化賞 アジア健康長寿イノベーション大賞 2021 第10回古川医療福祉設備振興財団顕彰
著書・論文	Research Mapを参照されたし <a href="https://researchmap.jp/kaigoyobou">https://researchmap.jp/kaigoyobou</a>

# 産業理学療法の使命と可能性

## — 過去、現在、そして未来 —

東北労災病院 治療就労両立支援センター  
第6回日本産業理学療法研究会学術大会 大会長  
**佐藤友則**



### 【大会長基調講演要旨】

2023年3月に労働災害を減少させるために、国が重点的に取り組む事項を定めた中期計画である「第14次労働災害防止計画」の本文中に、理学療法士の名称が初めて明記された。理学療法士に、労働者の作業行動に起因する労働災害（行動災害；転倒や腰痛など）の予防を期待する内容で、これを受けて産業理学療法周辺がにわかに活気づいている。

本講演では、日本において産業理学療法を提唱し、普及を促してきた個人や団体の過去を振り返り、現在、産業理学療法が置かれている立場を再認識するとともに、未来に向けて産業保健分野で、我々のポジションを確立するために何が必要かを述べたい。また、それらを踏まえて、あらためて日本産業理学療法研究会のミッション（使命：何のために存在するのか）、ビジョン（未来像：何を目指しているのか）、バリュー（価値観：何を大切に活動するのか）を皆様とともに再認識する機会としたい。

略歴	1999年 岩手リハビリテーション学院 理学療法学科卒業 1999年 竹田総合病院 リハビリテーション科 2008年 北里大学大学院 医療系研究科 医科学専攻 修士課程修了 修士(医科学) 2008年 東北労災病院 勤労者予防医療センター 2014年 東北労災病院 治療就労両立支援センター 2017年 東北大学大学院 医学系研究科 内部障害学分野 博士後期課程修了 博士(障害科学)
受賞	2014年 第14回臨床血圧脈波研究会 最優秀賞 2018年 第41回日本高血圧学会総会 チーム医療最優秀賞
著書・論文	researchmapをご参照ください。 <a href="https://researchmap.jp/satoh-tomonori">https://researchmap.jp/satoh-tomonori</a>



# シンポジウム

## ■予防シンポジウム1 (日本老年医学会後援)

### 介護予防の来し方行く末

2023年10月28日(土) 9:10~10:50

大ホール(A会場;メイン会場)

座長: 大淵 修一(東京都健康長寿医療センター研究所)  
内藤 紘一(名古屋女子大学)

## ■予防シンポジウム2 (日本骨粗鬆症学会合同)

### 骨粗鬆症に対する理学療法の基礎と臨床

2023年10月28日(土) 11:00~12:40

大ホール(A会場;メイン会場)

座長: 藤田 博暁(埼玉医科大学)  
田中 暢一(ベルランド総合病院)

## ■予防シンポジウム3 (日本サルコペニア・フレイル学会合同)

### サルコペニア・フレイルの予防理学療法学最前線

2023年10月28日(土) 14:00~16:00

大ホール(A会場;メイン会場)

座長: 牧迫 飛雄馬(鹿児島大学)  
田島 敬之(東京都立大学)

## ■予防シンポジウム4 (日本整形外科学会合同)

### 健康日本21(第三次)に向けたロコモティブシンドローム対策

#### —整形外科医と理学療法士の連携—

2023年10月28日(土) 16:10~17:50

大ホール(A会場;メイン会場)

座長: 石橋 英明(医療法人社団愛友会 伊奈病院)  
永井 宏達(兵庫医科大学)

## ■予防シンポジウム5

### 「地域づくりによる介護予防」10年とこれから —予防理学療法学の重要性

2023年10月28日(土) 10:20~12:00

展示室(D会場;口述会場)

座長: 岡持 利巨(医療法人真正会 霞ヶ関南病院 地域リハビリテーション推進部)  
植田 拓也(東京都健康長寿医療センター研究所)

## ■予防シンポジウム6

### うつ予防と予防理学療法学

2023年10月28日(土) 15:30~17:10

展示室(D会場;口述会場)

座長: 井原 一成(弘前大学)  
柴 喜崇(福島県立医科大学)

## ■予防シンポジウム7 (日本老年療法学会合同)

### 認知症の予防および共生を目指した多職種アプローチ

2023年10月29日(日) 8:50~10:30

大ホール(A会場;メイン会場)

座長: 島田 裕之(国立長寿医療センター研究所)  
新井 武志(目白大学)

## ■予防シンポジウム8 (日本栄養・嚥下理学療法学会合同)

### 栄養・嚥下・口腔機能における予防理学療法学の重要性

2023年10月29日(日) 12:50~14:30

大ホール(A会場;メイン会場)

座長: 平野 浩彦(地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所)  
内田 学(東京医療学院大学保健医療学部)

## ■予防シンポジウム9

### 生活習慣病における予防理学療法学

2023年10月29日(日) 10:00~11:40

小ホール(B会場;サブ会場)

座長: 神谷 健太郎(北里大学)  
福井 奨悟(慶應義塾大学病院)

## ■予防シンポジウム10

### 学童期における予防理学療法学

2023年10月29日(日) 12:20~14:00

大会議室(C会場;口述会場)

座長: 倉地 洋輔(株式会社まちりハ)  
西川 正一郎(医療法人大植会 葛城病院)

## ■予防シンポジウム11

### スポーツ領域でのケガの予防って可能なのか?—何を考え、何をすべきか—

2023年10月29日(日) 10:00~11:40

展示室(D会場;口述会場)

座長: 村上 憲治(帝京科学大学)  
堀 寛史(びわこリハビリテーション専門職大学)

## ■産業シンポジウム

### 世界の産業理学療法, 日本の産業理学療法

2023年10月29日(日) 10:40~12:20

大ホール(A会場;メイン会場)

座長: 川村 有希子(株式会社三菱総合研究所)  
和 秀行((独)労働者健康安全機構 神戸労災病院)

## 介護予防の来し方行く末

座長

大淵 修一

東京都健康長寿医療センター研究所

内藤 紘一

名古屋女子大学



大淵 修一



内藤 紘一

ヒトは誰も死を迎える, それと同様に誰も老化は避けることができず, 老化に伴う様々な機能低下は不可逆的だと考えられてきた. しかし, 西暦2000年に介護保険と車の両輪として始まった介護予防によって可逆的であることが認識され, 医学界においてもフレイルとし治療対象であると考えられるまでになってきた.

この大きな流れを作ったのが今回の3名のシンポジストである. 辻一郎先生は, 東北大学の公衆衛生学教室の教授として大規模なコホートスタディの結果から, 国のそれまでの平均寿命延伸の健康施策から健康寿命延伸の施策へと転換した. 桜美林大学の鈴木隆雄先生は, 人類学の叡智を背景にいち早く高齢期の生活機能低下に注目し“老年症候群”として介入研究への道を開いた. 国立長寿医療研究センターの島田裕之先生は, 加齢に伴う生活機能低下の中でも介入の難しい認知機能低下に対し有力なエビデンスを示し認知症が予防可能であることを国内外に認知させた.

今回のシンポジウムでは介護予防が施策化される前の状況と現在を対比させつつ, 23年で成し遂げたことを明らかにし, そこから導き出される理想的な高齢者の生活を皆さんと共有することで, これから予防に携わる専門職として地域で高齢者に関わる規範を明確にしたい.

### 1 平均寿命と健康寿命, そして compression of morbidity

辻 一郎

東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野



辻 一郎

平均寿命が急速に伸びた一方で, 余命延長の質が問われている. そこで「あと何年, 健康に暮らせるか」を測る健康寿命という指標が開発された. さらに平均寿命と健康寿命とのギャップ(不健康期間)が関心事となり, 米国のFriesは疾病や障害の発生時期を遅らせて不健康期間を圧縮(compression of morbidity)することの重要性を強調した. わが国では, 健康日本21と介護予防が, その目標にチャレンジしてきた. その動向を踏まえて, これからの介護予防への期待を申し述べる.

## 2 介護予防の来し方行く末

### 鈴木 隆雄

国立長寿医療研究センター, 桜美林大学 大学院



鈴木 隆雄

2000年に開始された介護保険はその後2006年に介護予防施策へと進め、特定高齢者抽出によるハイリスク・アプローチから地域での活動を利用したポピュレーション・アプローチへと変容した。さらに2020年からは今後の後期高齢者の健康特性を鑑みたうえで、後期高齢者医療制度と介護保険制度を一体化し、フレイル対策を中心とした保険事業を展開している。一方、国立長寿医療研究センターの研究事業ILSA-Jではわが国の地域在宅高齢者の健康に関するデータの分析を進め、高齢者の健康水準の変動を明らかにし、若返りがみられることを明らかにしている。

## 3 認知症予防のこれから

### 島田 裕之

国立長寿医療研究センター



島田 裕之

認知症予防研究の変遷を眺めると、以前の転倒予防研究が辿った歩みに近似しているように感じる。初期段階ではリスクファクターの同定と介入ターゲットの特定が行なわれ、介入研究によって予防方法の効果検証が進み、知見が複雑化するにつれ多面的な介入が最適解であるとの結論が導き出されたところまでは認知症予防研究もそこに至っている。転倒予防研究は、そこから研究成果の実装のための個別化した対応策についての知見や、より効率的な介入方法の開発等に研究がシフトしており、認知症予防についてもその流れを踏襲していくものと考えている。

## 骨粗鬆症に対する理学療法の基礎と臨床

座長

藤田 博暁

埼玉医科大学

田中 暢一

ベルランド総合病院



藤田 博暁



田中 暢一

日本骨粗鬆症学会では骨粗鬆症に対する多職種連携による「骨粗鬆症リエゾンサービス(OLS)」の重要性を提言している。骨粗鬆症を背景とする脆弱性骨折に対して、理学療法士の役割は転倒リスク評価と運動指導が中心となる。その中で、脆弱性骨折予防の正しい理解と理学療法士の役割について提言をいただき、基礎的研究と基礎研究と医療機関における骨粗鬆症リエゾンサービスの導入についてご紹介頂く。その上で、骨粗鬆症治療に対する理学療法士の関わり方について議論する。

## 1 脆弱性骨折予防における理学療法士の重要性と役割

石橋 英明

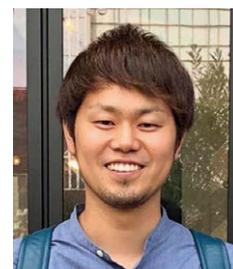
医療法人社団愛友会 伊奈病院 副院長/整形外科科長



石橋 英明

わが国の高齢化は今後もさらに続き、骨粗鬆症と転倒に起因する高齢者の脆弱性骨折も増え続けると考えられる。脆弱性骨折は介護や医療費への影響が甚大であり、骨粗鬆症の予防と治療、そして転倒予防は我が国の重要課題である。骨粗鬆症の予防・改善に運動負荷は重要であり、転倒予防の最も有効な介入法も運動であるため、予防理学療法を含む理学療法士の活躍が大きく期待される場所である。本講演では、日本骨粗鬆症学会が推進する骨粗鬆症リエゾンサービスへの参加も含めて、理学療法士の骨折予防への具体的なアクションを概説する。

## 2 骨代謝の視点から考える脆弱性骨折予防と理学療法



坪内 優太

坪内 優太

令和健康科学大学リハビリテーション学部理学療法学科

骨粗鬆症・脆弱性骨折への対策は、日本人の健康寿命、さらには平均寿命を延伸する上で重要であり、その中でも運動療法を担う理学療法士の活躍は予防的・治療的観点からも期待される。しかしながら、理学療法士の卒前・卒後教育において骨代謝を学ぶ機会は少ないのが現状である。超高齢社会の本邦では骨粗鬆症の病態も複雑化しており、単なる老化現象では説明できない。適切な予防・治療を実施するためには骨代謝の知識が必要不可欠である。本講演が、脆弱性骨折予防に対する理学療法の効果を、骨代謝の視点から再考する機会になれば幸いである。

## 3 二次性骨折予防のために（急性期）理学療法士がやってきたこと — 約10年の経験から学んできた実践的な方法と課題 —



丸 貴仁

丸 貴仁

社会医療法人社団 埼玉巨樹の会 所沢明生病院

当院では約10年前から骨粗鬆症を背景とした二次性骨折予防に対して、はじめの骨折を最後の骨折とすべく多職種で連携した取り組みを行ってきた。2019年に策定された骨折リエゾンサービスクリニカルスタンダードでは、評価に基づいた薬物治療と転倒予防（運動指導含め）が基本介入とされ、併せて医療従事者のみならず患者やその家族も含めた教育が重要と示されている。我々理学療法士も骨粗鬆症についての正しい知識を持って活動することが重要となっている。実体験を踏まえてOLSを進めて行くための実践的な方法や課題について提示する。

## サルコペニア・フレイルの 予防理学療法学最前線

座長

牧迫 飛雄馬

鹿児島大学

田島 敬之

東京都立大学



牧迫 飛雄馬



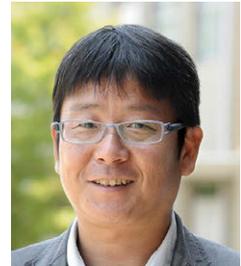
田島 敬之

高齢者を対象とする臨床及び研究において、サルコペニアやフレイルの評価による状態の把握やそのリスクを考慮した対策が不可欠となりつつある。高齢期の理学療法では、サルコペニアやフレイルの背景として存在する多くの要因を考慮する必要があるため、画一的な支援では不十分であり、多面的な支援が必要となる。本シンポジウムでは、サルコペニアやフレイルの対策に関する最新の知見や実践を含めた情報の紹介を通じて、予防理学療法の今後の在り方について発展的な議論の場としたい。なお、本シンポジウムは日本サルコペニア・フレイル学会との合同シンポジウムとして開催する。

### 1 サルコペニア・フレイル研究の これまでとこれから

真田 樹義

立命館大学スポーツ健康科学部



真田 樹義

我々はこれまで、生活習慣病発症リスクと有酸素性能力、身体活動量、筋力トレーニング、体組成との関係や一般市民の健康・体力・体組成評価、簡易評価などを開発してきた。近年では、DXA法による四肢筋量を用いて日本人のサルコペニア参照値を報告し、サルコペニアと生活習慣病発症リスクとの関係について検討した。最近では、大分県宇佐市における高齢者コホートを使用し、フレイルと生きがい、身体活動量との関係についての調査を行っている。本講演ではこれまでの研究成果をまとめ、今後の研究への展望について解説したい。

### 2 サルコペニア・フレイル対策の 過去・現在・未来

藤原 大

宮城厚生協会 坂総合病院 リハビリテーション科



藤原 大

フレイル・サルコペニアという用語と概念は、ここ10年あまりで医療・介護・福祉領域において急速に広まった。また、ここ数年のコロナ禍により益々注目を集めた。高齢者の健康寿命延伸を考慮した管理や対応は、従来のような生活習慣病予防からフレイル・サルコペニア予防へとシフトしつつある。予防・介入としては、運動や栄養などの効果が検討・実証されている。今後は、個別のハイリスクアプローチから地域・社会におけるポプレーションアプローチへの転換が求められており、予防理学療法が果たす役割は益々大きくなる。

### 3 サルコペニア・フレイル対策における 予防理学療法の重要性

山田 実  
筑波大学人間系



山田 実

サルコペニアとフレイル、近年、様々なセッティングで注目されている用語である。いずれも、有病率が高く予後に強く影響する一方、介入可能という特徴を有する。我々が、2022年末にアジア圏の研究者・臨床家を対象に実施したサルコペニアに関する実態調査では、特に我が国の理学療法士が本領域に高い関心を示している分かった。予防領域の理学療法士にとってサルコペニア・フレイルは避けることのできないキーワードであり、改めてその対策の意義や効果、重要性について概説する。

### 4 サルコペニア・フレイルに対する 予防理学療法の実践

石坂 正大  
国際医療福祉大学 保健医療学部 理学療法学科



石坂 正大

栃木県大田原市では、2004年の市町村介護予防モデル事業から行政と大学が協働で介護予防事業に取り組んでいる。サルコペニア・フレイルの市民に対する直接的な実践としては、市内の介護予防拠点施設および公民館29箇所の高齢者に対し、年間約500名の計測と普及啓発を行っている。また、間接的な関りとしては基本チェックリストを用いたフレイル調査を行っており、2006年から現在に至るまでの変化と、コロナ禍によりフレイルが進行・改善した方の特徴を市民に発信している。また、2021年より認知症予防を目的としたコグニサイズ教室を開始した。

### 5 サルコペニア・フレイルに対する 予防理学療法の実践 — 参加を見据えた理学療法 —

白土 大成  
鹿児島大学医学部保健学科理学療法専攻



白土 大成

サルコペニアおよびフレイルは、比較的軽度の段階であれば改善あるいは寛解することが報告されている。また、フレイルから改善した者は、転倒など一部の健康アウトカムが健常な高齢者に近い状態まで改善する可能性があることも示されている。一方で、重度のフレイルを伴う場合においては、著明な改善を認めることは難しい。すなわち、より早期からのスクリーニングや個々人の気付きを基に対策を講じていくことが重要であるといえる。本講演では、鹿児島大学が産官学連携で進めている地域における予防理学療法の実践を報告するとともに、今後の課題等について模索したい。

## 健康日本21 (第三次) に向けた ロコモティブシンドローム対策 — 整形外科医と理学療法士の連携 —

座長

石橋 英明

医療法人社団愛友会 伊奈病院

永井 宏達

兵庫医科大学



石橋 英明



永井 宏達

健康日本21 (第三次) が告示された。その中で、より広い年齢層が健康状態を改善する手段として、ロコモティブシンドローム (ロコモ) を予防することが重要であると記載されライフコース全般にわたってロコモの重要性が認識されていると言ってよい。ロコモは運動器疾患を包括的に捉える概念で、その予防や改善には習慣的な運動、適切な栄養摂取、活動的な生活習慣、運動器疾患の予防と治療が重要である。実際の運動器疾患の治療や予防の場面では、整形外科医と理学療法士は常に連携して進めていく必要があり、それは運動器に関わる予防理学療法そのものであると言える。本シンポジウムでは、健康日本21 (第3次) の目標達成に向け、整形外科医と理学療法士が連携して、実効性のあるロコモ対策をどのように進めていくかについて発展的な議論の場としたい。なお、本シンポジウムは日本整形外科学会との合同シンポジウムとして開催する。

### 1 健康日本21 (第三次) に向けた ロコモ対策のための戦略

大江 隆史

NTT 東日本関東病院



大江 隆史

2023年5月31日、健康日本21 (第三次) の内容が告示された。第二次では、「高齢者の健康に焦点を当てた取り組みを強化」の中でのみロコモの予防が記載されていたが、第三次では、より広い年齢層が健康状態を改善する手段として、ロコモを予防することが重要であると記載されているなど、ロコモの包括する範囲の拡大にそった記載となっており、ライフコース全般にわたってロコモの重要性が認識されていると言ってよい。目標としてはロコモ該当者の減少が示されており、実効性のあるロコモ対策を社会に示していく必要がある。

## 2 ロコモ対策における整形外科医と理学療法士の連携の重要性

石橋 英明

医療法人社団愛友会 伊奈病院 院長／整形外科科長



石橋 英明

ロコモティブシンドロームは運動器疾患を包括的に捉える概念で、その予防や改善には習慣的な運動、適切な栄養摂取、活動的な生活習慣、運動器疾患の予防と治療が重要である。運動器疾患の治療については、整形外科医と理学療法士は業務上連携している。一方、地域でのロコモ予防や啓発活動においても、整形外科医と理学療法士が連携して進めていく必要があり、それは運動器に関わる予防理学療法そのものであると言える。本講演では、ロコモ予防を整形外科医と理学療法士が連携してどのように進めていくかを、事例を含めて概説する。

## 3 ロコモ評価の考え方 — ロコモ度テストの意義と有用性 —

村永 信吾

医療法人鉄蕉会 亀田総合病院



村永 信吾

日常生活では、平地の水平移動だけではなく階段や坂道といった垂直移動が求められる。ロコモ度テストは、水平移動機能を評価する「2ステップテスト」と垂直移動機能を評価する「立ち上がりテスト」といったパフォーマンステストと痛みや運動器に伴う社会参加状況を聴取して評価する「ロコモ25」の3つのテストバッテリーで移動機能低下の重症度を推定するものである。本テストは天井効果や床下効果なく幅広い年代で活用できることから、若年層からの移動機能低下の早期発見に有用であること、さらに運動能力に応じた具体的運動プログラム策定にも活用できる。

## 4 運動器対策としての運動指導の実際 — ロコモーショントレーニングの意義と有用性 —

藤田 博暁

埼玉医科大学保健医療学部理学療法学科



藤田 博暁

ロコモティブシンドローム（ロコモ）が提唱され10年以上が経過している。ロコモは超高齢社会を迎える我が国において、運動器疾患に対して多くの人々が取り組むことが重要である。ロコモ対策としてロコモーショントレーニング（ロコトレ）などが紹介され、運動習慣を持つことの重要性が述べられている。提唱された中村耕三先生の重要なメッセージとして「運動には副作用がある」と述べられている。運動をしないことの問題だけでなく、運動のやり過ぎや運動の具体的な指導方法などについて理学療法士の視点で述べさせていただく。

## 「地域づくりによる介護予防」10年とこれから ―予防理学療法学の重要性

座長

岡持 利亘

医療法人真正会 霞ヶ関南病院 地域リハビリテーション推進部

植田 拓也

東京都健康長寿医療センター研究所



岡持 利亘



植田 拓也

平成26年地域づくりによる介護予防, 開始時の説明は, 「介護予防は, 高齢者を年齢や心身の状況等によって分け隔てることなく, 人と人とのつながりを通じて, 参加者や通いの場が継続的に拡大していくような地域づくりを推進するとともに, 地域においてリハビリテーション(以下, リハ)専門職等を活かした自立支援に資する取組を推進し, 要介護状態になっても生きがい・役割をもって生活できる地域の実現を目指す必要がある. このため, 市町村は高齢者人口の1割以上が通いの場に参加することを目標に, 地域づくりを推進する必要がある. 本事業では, 市町村における地域づくりを通じた効果的・効率的な介護予防の取組が推進するよう, また市町村の取組に地域間格差が生じないように, 都道府県と連携しながら市町村支援を行う.」という内容だった.(厚労省資料: 地域づくりによる介護予防事業推進支援事業の事業目的から)

その後10年間, ①住民ボランティア養成, ②住民運営の通いの場の立ち上げや継続支援, ③地域ケア会議, ④虚弱者への短期集中的支援の取組(総合事業C型), ⑤地域リハ活動支援事業の活用, などが進められた.

本セッションでは, 「取り組みを進める市町村勤務のリハ専門職」, 「事業にリハ職を派遣する施設管理職」, 「住民の一番側で活動する地域包括支援センター」の順にご報告いただき, 地域づくりに向けた予防理学療法の今後に期待される事について共有・検討したい.

### 1 住民とともに「みる→わかる→きめる→うごく」 伴歩からみえた地域づくり

畑山 浩志

洲本市役所



畑山 浩志

当時を振り返ると, 体操による住民主体の通いの場(以下, 通いの場)と聞いて理解される方は少なかった. いまはどうだろうか, 当たり前に通いの場という言葉が使われるようになっている. そう, 専門職の様々な関わりにより一定の効果と成果を出したのである. これは, 住民と行政と専門職の対話により, 新たな地域づくり・介護予防の仕組みができたのである. では, これから通いの場はどうなっていくのだろうか. 多様な方が集まる, 多様な魅力的な場の一つとなることでいいのか. 今だからこそ, 通いの場を再考してみませんか.

## 2 「意味ある」これからの地域づくりとは



安本 勝博

安本 勝博

岡山県津山市役所健康増進課(兼) ワクチン接種推進室(兼) 高齢介護課

私は「住民が住民と住民で健康になる」ための住民主体の通いの場を長年支援してきた。

近年、通いの場は多様性、類型化の議論が行われているが、違和感がある。高齢者の趣味嗜好を含むすべての地域活動を通いの場と呼び、どの活動に参加するかは本人の主体性に任せる。大切なのは多様な選択権があることのような。

専門職が黒子となり、住民主体の地域活動を支援する場合、「意図的に」「互助共助力が高まるよう」「しかける」ことで、より個人が、集団が、地域が、組織が健康になることが重要だが、「意味ある」通いの場支援のあり様に、迷いや手詰まり感を感じている人もいないだろうか。ともに考える機会としたい。

## 3 地域包括支援センターからみた介護予防



荒木 友希

荒木 友希

川越市地域包括支援センターだいたう

住民主体の通いの場づくりを、様々な立場から支援してきた。現在は職員7名の地域包括支援センターに勤務している。担当地域は高齢者人口約8,900名、高齢化率25.2%、要支援者約260名、1か月の総合相談件数600～700件。人の生活は多様で、介護予防や生活支援の入り口も多様である。コロナ禍で当たり前が変化し、通いの場がそれぞれの形を再考する中、包括も取り組むべき介護予防とは何なのかを考えてきた。現在進行形で試行錯誤している物語を伝えたい。

## 4 病院勤務理学療法士が地域事業に関わるメリット ～リハ職を派遣する施設管理職の立場として～



ト部 吉文

ト部 吉文

新富士病院グループ 医療法人財団逸生会 大橋病院 リハビリテーション科

「地域包括ケア」に係る理念規定が創設され、10年が経過した。多くの課題を解決してきた実績と共に、新しい課題も明確になってきた。その時代の移り変わりの中で、理学療法士に求められる役割も変化してきていると考えられる。病院で働く私にとって入院・外来・通所・訪問リハビリ以外に、地域と繋がるメリットを病院に対してアピールする必要がある。病院にとってのメリットが無いと、リハビリテーション専門職が地域事業に関わることは難しくなる。本発表では、今まで私が行ってきた実践事例を紹介する。

## うつ予防と予防理学療法学

座長

井原 一成

弘前大学

柴 喜崇

福島県立医科大学



井原 一成



柴 喜崇

健康寿命の延伸において、心理的健康の促進とうつ病の発症予防が極めて重要である。うつ病のリスクを低減するうえでは、運動や非薬物的アプローチを組み合わせた総合的な介入が必要である。また、地域レベルでの取り組みや適切なケアによって、社会全体の心理的健康が向上し、人々が意義ある生活を維持するための基盤が築かれる。本シンポジウムでは、4名の講演者が異なる側面からうつ予防と予防理学療法に関する情報を提供する。また、パネルディスカッションでは、それぞれの講演内容を交流し、異なるアプローチや視点からの洞察を共有する。講演内容の関連性や相互補完性、実際の実施における課題などについて議論を深め、参加者による質問や意見交換を通じて、うつ予防への総合的な理解を促進する。このシンポジウムを通じて、専門家や関係者が協力し、効果的なうつ予防および予防理学療法のアプローチを模索する場となることが期待される。

### 1 高齢者のうつ病と運動による予防

井原 一成

弘前大学 大学院医学研究科 社会医学講座



井原 一成

運動は高齢者のうつ病予防に有益である。定期的な運動は心身の健康を促進し、ストレスを軽減し、脳内の神経伝達物質のバランスを改善する。適度な運動は気分を向上させ、社会的な交流の機会を提供することもあり、うつ病のリスクを低減する助けになる。ウォーキングやストレッチングから軽いエクササイズまで、運動習慣を取り入れることは高齢者の心理的健康を支える重要な要素と言える。本発表では、高齢者のうつ病と運動による予防について提示する。

## 2 認知症に伴ううつに対する 非薬物的アプローチ

大庭 輝

弘前大学大学院保健学研究科



大庭 輝

うつは、抑うつ気分や興味・喜びの喪失を主体とする、認知症高齢者に頻繁にみられる精神症状である。易怒性や帰宅願望のような行動上の問題と比べて、低活動が特徴であり手がかからないため介入が少なくなりがちである。また、高齢者施設職員の多くはうつ症状への対応の自信がないまま試行錯誤的にかかわっていることが示唆されている。本話題提供では、認知症に伴ううつに対する非薬物的アプローチの効果に関する研究レビューを紹介し、心理学の立場から介入に向けた知見を提案する。

## 3 地域在住高齢者における うつ予防の対策とうつのサイン

深瀬 裕子

北里大学医療衛生学部保健衛生学科



深瀬 裕子

いわゆる「元気な高齢者」は「うつにならないように趣味の活動」をしたり「毎日パズルをして頭を使ったり」する。これらの活動がうつ予防にどれ程の影響があるかは不明だが、張り合いのある生活につながったり、うつ症状である意欲の減退が見つけやすくなる可能性はある。なお、コロナ禍に行われた研究では、生活機能が高い高齢者は若者よりもストレス対処能力が高いことが示されている。また、本人や家族はうつを否定する材料を探そうとすることもするため、チェックリストのように客観的に把握する方法を取り入れると良いのではないかな。

## 4 高齢者や脳卒中者に認める うつに対する運動支援や理学療法

川崎 翼

東京国際大学 医療健康学部 理学療法学科



川崎 翼

高齢者や脳卒中者は、たびたび精神心理面の変調を来す。精神心理面の変調の代表格には、うつが挙げられ、理学療法の遂行ならびに日常生活動作の獲得に影響する。このことは、高齢者や脳卒中者に対する理学療法の実践のために、うつなどの精神心理面を考慮した(予防的)介入や運動支援の知識が必要であるということを意味している。本発表では、高齢者や脳卒中者のうつにおける近年の知見を概観した上で、こういった対象者に効果的と考えられる運動支援の方法や理学療法について提示する。

## 認知症の予防および共生を目指した 多職種アプローチ

座長

島田 裕之

国立長寿医療センター研究所

新井 武志

目白大学



島田 裕之



新井 武志

認知症は疾病やリスクファクターの医学的管理のみならず、家族や地域社会を巻き込んだ包括的な対応がなければ、問題の解決に近づくことはできない。厚生労働省は、塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの実現を掲げ、市町村は3年ごとの介護保険事業計画の策定・実施を通じて、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じた地域包括ケアシステムの構築を進めている。この中で、認知症については認知症施策推進大綱に基づき保健師を中心とした地域での認知症対策が進められてきた。また、リハビリテーション関連専門職も介護予防事業や介護保険事業下において重要な役割を果たしている。本シンポジウムでは、隣接する他職種の認知症に対する考え方や対処方法についての知見を共有して、より良い認知症予防と共生に関わるあり方を討議する。「知っているようで、よく知らない」隣接した他領域の知見を学ぶ機会になれば幸いです。

### 1 地域での認知症予防を目指した 多職種アプローチ — 理学療法士の立場から —

牧迫 飛雄馬

鹿児島大学医学部保健学科理学療法学専攻基礎理学療法学講座



牧迫 飛雄馬

2019年に公開されたガイドライン(WHO)では、運動・身体活動による認知機能低下の予防効果が示されており、認知機能に問題が生じる以前からの対策が重要となる。65歳以上に対しては、中強度の有酸素運動(150分以上/週)、バランストレーニングや筋力トレーニングの併用(2~3回/週)などが推奨される。理学療法士としては、多くの方がこれらの身体活動に取り組み、継続できる支援が求められる。また、運動に加えて認知機能を賦活する支援も効果的であるとされ、これらの機会を日常生活に組み込む工夫も必要となる。

## 2 認知症の予防および共生を目指した 多職種アプローチ — 作業療法士の立場から —



横山 和樹

横山 和樹

札幌医科大学保健医療学部作業療法学科

作業療法士の立場より、認知症の予防および共生を考える上で重要なことは、個々の生活行為の文脈や意味合いを捉えることに尽きる。料理といっても、自分の空腹を満たすだけなのか、誰かと一緒に味わうために作るのか、あるいは食育や介護という意味が含まれる場合もある。特に、個々が大切にしている生活行為の継続は、「その人らしさ」の継続にも重要であるため、どのステージにおいて着目すべき内容である。本シンポジウムでは、生活行為にアプローチするための当事者・家族・多職種との協働について、研究と実践の双方より紹介する。

## 3 認知症の予防および共生を目指した 多職種アプローチ — 言語聴覚士の立場から —



佐藤 妙子

佐藤 妙子

国際医療福祉大学保健医療学部言語聴覚学科

“住み慣れた地域で自分らしく生きる”ことは、多くの人々の願いである。コミュニケーションは“自分らしさ”を守り、時には再発見することができる活動である。また、“好きなものを食べる”ことは基本的欲求を満たす行為であり、生活の質に大きく関わる。言語聴覚士は、コミュニケーションと食事を軸に高齢者とそのご家族が豊かな人生を送ることを目標に支援を行う。人生レベルの支援は、職種や組織の垣根を越えた複数のチームで支援にあたるのが大切だが、連携体制の構築や円滑なコミュニケーション等の課題に直面している。

## 4 美唄市地域包括ケア推進条例と認知症施策 — 支え、支えられながら地域で過ごす (保健師の立場から)



赤沼 智美

赤沼 智美

美唄市地域包括ケア推進課

認知症の人と関わりがない人は、認知症の人は何もできないと考えているかもしれない。美唄のおれんじカフェぱにに参加している当事者のKさん。コロナ禍でも皆さんが感染を心配せずにカフェで談笑できるように飛沫防止シートを作成してくれた。それが地域で評判となり、ワクチン接種会場からもシートの発注がきた。Kさんは3年経過した今も、在宅生活を継続している。

美唄では、認知症の人も家族も自分を大切に、人を大切に、尊厳と希望を持って地域で暮らすことができるように地域包括ケアを推進しています。その内容を報告します。

## 栄養・嚥下・口腔機能における 予防理学療法の重要性

座長

平野 浩彦

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所

内田 学

東京医療学院大学保健医療学部



平野 浩彦



内田 学

サルコペニアやフレイルの評価と介入は理学療法を実施する上で必須の項目であり、主として全身の栄養状態や骨格筋機能障害をターゲットとして実践されている。低栄養状態を背景にしたサルコペニア嚥下障害も3学会合同ポジションペーパーで報告されているなど、運動機能や生活機能に限定されず嚥下機能に着眼点を置く事も重要な視点である。一方で、口腔機能に対する加齢の影響を考えると、歯の喪失、嚙み合わせ不適合など「歳のせい」で片づけられ、専門的な治療に結びついていない状況も目立つ。日本歯科医師会はオーラルフレイルについて概念を報告(2019)しており、8020運動達成者の増加を受け、歯の数に加えた口腔の機能面に対する活動の重要性を提案している。口の衰えは身体的な要素に限らず、社会的、精神的な複数の課題の重複により生じ、多職種による専門的な介入により改善が可能な状態である。予防理学療法の立場としても、関与する療法士が持ち得ておかなければならない必須の知識である。今回の企画は、日本栄養・嚥下理学療法学会との合同シンポジウムとして、第一線で活躍されている歯科医師、管理栄養士、理学療法士の立場から栄養・嚥下・口腔機能に焦点をあてた介入をご紹介いただき、リハビリテーションの正しい方向性を明確に示す機会としたい。多職種連携のチームにおける理学療法士としての役割、立場などを再考する機会になる事を期待している。

### 1 オーラルフレイル： 高齢期の食を支える視点

平野 浩彦

東京都健康長寿医療センター 病院 / 歯科口腔外科  
研究所 / 自立促進と精神保健研究チーム



平野 浩彦

オーラルフレイルは、口に関するささいな衰えの放置、さらに適切な対応を行わないままにすることにより、口の機能低下、食べる機能の障害、さらには心身の機能低下までつながる負の連鎖が生じてしまうことに対して警鐘を鳴らした新しい概念である。これまでの論文知見から、オーラルフレイルは、身体フレイルの発生、サルコペニアの発生、さらには要介護状態や死亡の発生との関連が示唆されており、日本発の概念として国際的にも議論が始まっている。当日はオーラルフレイルを取り巻く制度なども含めて触れさせて頂く予定である。

## 2 多職種と連携する 高齢期の栄養ケアの必要性

本川 佳子

東京都健康長寿医療センター研究所 自立促進と精神保健研究チーム



本川 佳子

高齢期における食事・栄養について、「多様な食品をバランスよく」「しっかりと食べる」ことへ関心が向けられている。日本人の食事摂取基準 2020年版では65歳以上のたんぱく質目標量の下限値が、他の若い世代より高く設定されている。食事摂取の目標の達成には、栄養専門職だけではなく、嚥下・口腔機能の維持・向上を中心とした多職種との連携が必要である。本シンポジウムでは、多職種連携のエビデンスをさらに構築し、研究や現場での活動を通じて連携がより強固なものとなるよう皆様と検討していきたい。

## 3 脳卒中後の回復を支える 急性期の低栄養予防と摂食サポート

最上谷 拓磨

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 リハビリテーション部



最上谷 拓磨

脳卒中発症者は年間29万人とされており、その約半数は自立した生活に復帰できるものの、残る半数は要介護状態または死亡する病である。脳卒中後のリハビリテーションにおけるADL回復には栄養状態が影響することが数多く報告されている。しかし継続的なリハビリテーションが必要な患者の約半数が急性期治療の過程で低栄養を呈しており、その予防は極めて重要な課題である。本シンポジウムでは、急性期に生じる低栄養とその背景に存在する摂食障害や口腔機能障害に対する介入の実際について、当院の臨床データと共に示していく。

## 4 重症患者に起こる集中治療後症候群を 早期栄養療法と早期離床・リハビリテー ションで予防する

松嶋 真哉

杏林大学 保健学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻



松嶋 真哉

集中治療室（以下、ICU）に入室した重症患者の骨格筋喪失は1日約2%と著しく、ICU獲得性筋力低下や集中治療後症候群を予防するためには、早期栄養療法と早期離床・リハビリテーションが重要である。しかし、超急性期が故に高度炎症が存在したり、病態が不安定であったりと双方をバランス良く達成するのは容易ではない。早期栄養介入管理と早期離床・リハビリテーションの双方に加算が果たした今、いかに多職種チームで協力し患者を元気な状態で入院前の生活に戻すか、ICUでの3次予防について実際の活動や工夫点を概説する。

## 生活習慣病における予防理学療法学

座長

神谷 健太郎

北里大学医療衛生学部

福井 奨悟

慶應義塾大学病院



神谷 健太郎



福井 奨悟

生活習慣病は「食習慣, 身体活動, 休養, 喫煙, 飲酒等の生活習慣が, その発症・進行に関与する疾患群」と定義され, 1996年に成人病に替わる用語として導入された。代表的な疾病として癌, 糖尿病, 心疾患, 高血圧性疾患, 脳血管疾患が挙げられる。国際的には慢性閉塞性肺疾患などもここに加えて非感染性疾患(Non-communicable diseases, NCDs)としてくられて議論されることも多い。生活習慣病という用語の導入背景には, 成人病の発症には生活習慣が深く関与しており, これを改善することで疾病の発症・進行予防ができるという認識を国民に普及し, 行動に結びつけていく事を意図したものである。

本邦における理学療法実践においては, 主に心疾患や脳血管疾患発症後の患者に対する再発・重症化予防やADL, QOL改善を主眼とした理学療法が展開されており, 近年, その科学的根拠も蓄積されつつある。一方で, 生活習慣病予防においてはより上流の若年成人期や学童・思春期の生活習慣, 若年女性・妊産婦の栄養改善なども重要であることも指摘されており, より広範な学問体系が必要である。本シンポジウムは, 各領域のトップランナーと参加者の皆様と共に生活習慣病の予防理学療法学について考える機会としたい。

### 1 生活習慣病における予防理学療法学 — 心疾患領域を中心に —

神谷 健太郎

北里大学医療衛生学部



神谷 健太郎

心疾患領域における予防理学療法に際しては, 心疾患の終末像である心不全のステージ分類を元に考えると整理がしやすい。心不全のステージAである高血圧などの生活習慣病予防, ステージBである心筋梗塞などの器質的心疾患予防, ステージCである症候性的心不全予防, そして入退院を繰り返す治療抵抗性のステージDである。また, 心疾患を含め生活習慣病の予防においては, 若年成人期や学童・思春期からの取り組みも重要であり, 第2期の循環器病対策推進基本計画においてもその重要性がうたわれている。本シンポではこれらのテーマについてお話ししたい。

## 2 生活習慣病における予防理学療法学 — 代謝疾患の予防理学療法 —

齊藤 正和

順天堂大学保健医療学部理学療法学科



齊藤 正和

代謝疾患は、いずれも脳心血管疾患発症（CVD）の危険因子である。また、代謝性疾患の代表疾患である糖尿病は、糖尿病性網膜症・神経障害・腎症などの合併症を介した日常生活動作能力低下が生じる。とくに、糖尿病性腎症による末期腎不全患者では、日常生活が高度に制限されることに加えて、CVD発症リスクがさらに高値となる。そのため、代謝疾患では、代謝異常や合併症の重症化予防、CVD発症予防、生命予後の改善を含めた多面的なアプローチが重要となる。本シンポジウムでは、代謝疾患に対する包括的予防理学療法について概説する。

## 3 生活習慣病における予防理学療法学 — 糖尿病領域における地域での取り組み —

大熊 克信

さいたま市民医療センター  
埼玉県地域リハビリテーション・ケアサポートセンター（さいたま圏域）



大熊 克信

糖尿病の発症・重症化予防は、国家的課題であるが理学療法士が関わる機会が他領域と比べて少ない。DPCや入院日数の短縮が大幅に進み、教育入院で関わる時間は減少している。一方で地域リハビリテーションの領域（地域支援事業：ケア会議、介護予防事業、保健事業等）における期待は非常に大きく、理学療法士への依頼件数は急増している。外来リハや介護保険サービスにおける理学療法士の対応も重要である。今回は地域リハ活動を中心に報告しながら、一部外来リハ、介護保険サービス内での対応も加えて報告する。

## 4 急性期医療と予防理学療法の実践 — 心疾患領域の地域での取り組みを中心に —

庄司 寛

北海道立北見病院 医療技術部 リハビリテーション課



庄司 寛

オホーツク医療圏は、岐阜県と同程度の広大な面積を持ちながら、人口28万人と少ない地域である。当院は、隣接し渡り廊下でつながっている北見赤十字病院と2018年に指定管理制度を導入し、急性期医療を提供している。私は、心疾患・呼吸器疾患を中心とした急性期医療に従事しており、再発・重症化予防の重要性を強く感じてきた。生活習慣の改善は重要であるが、高齢化率34%を超えるオホーツク医療圏では、地域との連携は不可欠である。2病院が一体となり、2021年より出前講座、2022年より両院合同の心不全手帳を作成した。講演では、地域での取り組みの現状と課題について説明したいと思います。

## 学童期における予防理学療法学

座長

倉地 洋輔

株式会社まちりハ

西川 正一郎

医療法人大植会 葛城病院



倉地 洋輔



西川 正一郎

学童期の6年間で、子どもは集団生活の中で心理的にも身体的にも大きな発達を遂げる。将来にわたる基盤を作るこの重要な学童期において、その教育目的は「生きる力」を育むことであり、その達成のために「生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮すること」が求められている。

配慮するためには、関係者による子どもの発達段階の理解が重要であり、関わる理学療法士も例外ではない。そして子どもの発達は、多くの子どもに共通した段階や順序がある一方で、一人一人の特性や資質などによる個人差や発達障害に起因するものがある等、一様でないことにも留意が必要である。集団生活の中でのこれらの違いは、子どもの自己肯定感を高めることに働くこともあれば、劣等感にもつながることが指摘されており、いずれにおいても個々の発達度合いに応じた対応が必要である。

本シンポジウムでは、学童期の予防理学療法学において先進的な取り組みをしている4名に発表頂く。粕山氏には学童期の運動発達の特徴を踏まえた予防理学療法学、信迫氏には発達性協調運動障害に対する予防理学療法学、加藤氏には地域一体で取り組む子どもの健康づくりへの理学療法士の関わり、小牧氏には運動発達の違いを踏まえた理学療法士による子ども・学校関係者・保護者への働きかけを予定している。

このシンポジウムが、子どもがよりよく生きる力を育むことにつながる「学童期における予防理学療法学」とは何かを考える一助となれば幸いである。

### 1 学童期における予防理学療法学 — 運動発達から考える運動器疾患の予防戦略 —

粕山 達也

健康科学大学健康科学部リハビリテーション学科



粕山 達也

走る、投げる、跳ぶといった様々なスポーツ動作につながる基本的な運動能力は、学童期までに獲得しておくことが望ましく、そのために障害予防に関わる理学療法士は運動発達の知識を学んでおくことは重要である。予防理学療法を考えたときに、学童期における基本的な運動能力の獲得や運動習慣の形成が、健康増進や障害予防などにおいて重要な役割を果たすことが明らかになっている。我々が調査してきた学童期の発達の特徴と運動器疾患との関連を紹介し、学童期における予防理学療法の展開について考える。

## 2 学童期における予防理学療法学 — 発達性協調運動障害における予防理学療法 —



信迫 悟志

信迫 悟志

畿央大学大学院健康科学研究科/ニューロリハビリテーション研究センター

発達性協調運動障害 (DCD) とは、協調運動技能の獲得や遂行に著しい低下がみられる神経発達障害であり、学童期の頻度は5-6%とされ、最も多い小児運動障害とされている。しかし、日本では、教育現場のみならず、医療においてもその認知度は極めて低く、DCDの理解不足による不適切な対応から、内在化問題 (抑うつ症状や不安障害) という二次障害へと繋がりがやすいことが分かっている。DCDの病態メカニズムと二次障害、理学療法士が教育や保護者との緊密な連携体制を築く重要性について情報提供し、DCDの予防理学療法について考える機会とする。

## 3 学童期における予防理学療法学 — 行政・学校と取り組む運動器検診, 健康教育 —



加藤 弘貴

加藤 弘貴

NPO 法人 佐久平総合リハビリセンター

平成23年度より長野県小川村にある小・中学校の健康教育を実施してきた。介入頻度はそれぞれ月1回程度であり、行政の担当課、教育委員会、保健師、養護教諭と連携を取り運動器検診をはじめ、授業や全校集会の時間を利用し健康教育を行っている。健康教育を実施・継続するにあたり、小川村として子ども達の健康促進を明確に打ち出し、学校をはじめ関係者で活動の重要性を共有している事が大きい。年度初めには保健師や理学療法士が学校に行き活動の必要性を伝えている。その結果、事業の予算、環境を与えて頂き継続に繋がっていると考えられる。

## 4 学童期における予防理学療法学 — 小学校の授業における予防理学療法の実践 —



小牧 隼人

小牧 隼人

馬場病院

健康づくりにおいては個人の生活習慣づくりとともに、人的環境も含めた環境づくりが必要である。学童期における運動習慣の獲得には“遊び”と“学び”の要素を取り入れ、理学療法を日常生活の中に組み込むことが重要と考える。また、インクルーシブ教育の観点からは障害を持つ児童のリスクへ配慮し、身体活動をデザインすることで心身の発達に間接的に介入できる可能性もある。このような視点で取り組んできた小学校の授業内容を紹介し、理学療法士が保護者や教職員とともに児童の健康づくりに貢献できる可能性について考えていきたい。

## スポーツ領域でのケガの予防って可能なのか？—何を考え、何をすべきか—

座長

村上 憲治

帝京科学大学

堀 寛史

びわこリハビリテーション専門職大学



村上 憲治



堀 寛史

スポーツ領域における予防理学療法の対象は筋骨格系傷害である。スポーツ活動により筋骨格系に受ける力学的ストレスは日常生活で受ける力学的ストレスを遙にしのぐ事が多く、それが原因となりスポーツ活動による“ケガ”を生じさせる。スポーツ活動における“ケガ”は身体が持つ力学耐性を越えた力が直接的に加わり身体構造にダメージを与えた結果生じる「外傷」と、身体構造の力学耐性を越えない小さな力学的ストレスの繰り返しの結果局所の耐性を低下させることにより生じる「障害」があり、力学的発症要因による区分が存在する。なお、スポーツ領域では「外傷」と「障害」を総称して「傷害」と定義している。「傷害」はスポーツ活動を休止もしくは停止をさせる状況を生じることが多い。この「傷害」は身体的ダメージだけではなく競技復帰までの時間的なダメージ、それに伴う精神的なダメージを生じることが多い。またスポーツ活動を“職業”としている場合、経済的にも多大なダメージを受けることがある。そのためスポーツ領域においても“傷害”予防は重要な意味をもつ。特にスポーツ領域における傷害発症の多くは“動き”や“使い方”が大きな要因となっている。そこで理学療法の“動き”や“使い方”への介入はスポーツ領域での予防効果を得られる重要な領域である。今回、プロスポーツの現場や日本代表での活動など一般臨床も含めたスポーツ領域での経験豊富な理学療法士とスポーツドクターとしてプロスポーツ現場や国際大会等で活動する整形外科医に“予防”に関する取り組みと考え方をお聞きする。

### 1 スポーツ領域における予防理学療法 — スポーツ領域における予防理学療法の方向性 —

村上 憲治

帝京科学大学



村上 憲治

スポーツ活動をすることは「ケガは避けられない」と思われてきているが、最近スポーツにおける理学療法領域でも Science および Medical の視点で“予防”が議論されている。しかし、スポーツ現場に関わる理学療法士も増えてきているが、多くは競技復帰のためのリハビリテーションが主な目的となり、“予防”の観点では、残念ながら個別の“再発予防”を担っているのが多くの現状である。今回は、スポーツ領域における“予防”の概念や一般的な取り組みを提示し、これからのスポーツ領域における“予防”の可能性を探る。

## 2 スポーツ領域における理学療法 — 下肢障害に対する傷害予防の考え方 —

小田 桂吾

仙台大学 体育学部体育学科



小田 桂吾

アスリートを対象とした傷害予防は「身体特性」, 「性差」, 「年齢」等, 個人的アプローチだけでなく, 「種目特性」, 「チーム特性」を考慮した対策が必要であり, 画一的な「予防対策」では不十分である. さらに傷害受傷後の競技復帰の過程においては, 単に「機能回復」だけでなく, 新たな「再発予防」を含めた戦略が必要である. そこで今回は下肢の傷害が多く発生する, 女子サッカー選手を対象とした傷害予防の取り組みと, 再発予防を含めた「Return to play」を目標とするスポーツリハビリテーション戦略を検討していきたい.

## 3 スポーツ領域における予防理学療法 — 体幹・上肢に対する傷害予防の考え方と実践 —

小泉 圭介

東都大学幕張ヒューマンケア学部理学療法学科



小泉 圭介

競技スポーツでは, 水泳や野球, テニスなどオーバーヘッド競技において慢性外傷としての上肢スポーツ傷害が散見される. そして, これらの動作では上肢機能のみならず, 体幹との連動性低下がその発生の一因と考えられている. 本シンポジウムでは, 泳動作と投動作を例に, 肩甲帯の機能不全と肩関節傷害の関係性, またその評価と予防対策について実際のエクササイズ例などを含め報告する.

## 4 スポーツ領域における理学療法 — 整形外科医から理学療法士に向けた スポーツ領域の予防に関するメッセージ —

永元 英明

早稲田大学大学院スポーツ科学研究科 / 東北大学整形外科



永元 英明

スポーツ領域において, 予防は重要な要素であり特に, 障害予防としての一次予防や障害の早期発見としての二次予防は必要不可欠である. 予防には, 医師のみならず理学療法士との協業, 協力は必須であり, 昨今ではチーム医療の実践がおおいに注目されている. 実践するためには理学療法士の専門性と特徴を理解し, それを活かす必要がある. スポーツ領域の予防に必要な医療の知識や技術のみならず, 心構えや取り組みの重要性など事例を交えながら, 整形外科医の立場から理学療法士へのメッセージを伝える.

## 世界の産業理学療法, 日本の産業理学療法

座長

川村 有希子

株式会社三菱総合研究所

和中 秀行

(独)労働者健康安全機構 神戸労災病院



川村 有希子



和中 秀行

近年,我が国が直面している少子高齢化による労働人口減少や,理学療法士の需給飽和の課題の中で,理学療法士の活動する新たな領域として,労働者の健康を守り支援する「産業理学療法」確立に向けた期待と注目の高まりを日々感じています。しかしながら,日本,そして「理学療法」の中でも発展途上にある当領域の成長のためには,日本理学療法学会として従来から取り組んできた知識・技術の標準化やガイドライン化等の理学療法士内部に向けた「質」向上を目的とする学術だけでなく,市場を客観的にとらえ対外的な普及度・発展度等を検討するための職能的な「学術」との両輪が,非常に重要であると考えられます。

本シンポジウムでは,2021年度日本産業理学療法研究会事業である,「世界の産業理学療法国際調査」の報告をさせていただきます。本事業は,海外の産業理学療法の実態と,それらの背景を支える社会・政策・文化的構造に着目し,日本での参考情報を収集することを目的として企画を立ち上げました。そして事業の実施には,本会で募集した完全ボランティアの協力員23名のご協力にて,進めることができました。

今回,海外6カ国の労働者や理学療法士を取り巻く環境や社会的背景についての報告とともに,それらと比較し,本邦で参考とすべき点や課題,実現可能性等について,会場の皆様とともに検討していけたらと思います。ぜひご聴講の皆様におかれましても,率直なご意見を持ち寄り,気軽にディスカッションに参加いただければ幸いです。

### 1 アメリカの産業理学療法について — クリニックの活動・卒後教育について —

田邊 素子<sup>1)</sup>, 新國 悦弘<sup>2)</sup>, 佐藤 忠輝<sup>3)</sup>, 松元 龍<sup>4)</sup>

1) 東北福祉大学, 2) 東北大学病院, 3) 向山病院, 4) 今村総合病院



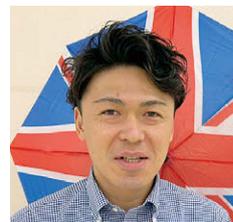
田邊 素子

アメリカ合衆国では,州ごとに法律が異なるものの理学療法士には開業権が認められている。その中で,産業理学療法に特化したクリニックもあり,怪我の予防,職種に関わる身体評価やトレーニング,職業復帰プログラム,また個人への支援の他に,職場の人間工学的な評価と労働災害に関わる管理など事業者への対応も行っている。APTAでは「Clinical Guidance to Optimize Work Participation After Injury or Illness: The Role of Physical Therapists (2021)」の発刊や教育コースなど卒後教育の取組が行われている。今回はクリニックでの活動や卒後教育の概要について紹介し,アメリカの産業理学療法から知見を得たいと考える。

### 2 英国の産業理学療法 — 本邦との比較・応用 —

菊地 和人<sup>1)</sup>, 高沢 浩太郎<sup>2)</sup>, 白土 大成<sup>3)</sup>, 石光 雄太<sup>4)</sup>

1) 秋田リハビリテーション学院, 2) 医療法人栄寿会 真珠園療養所  
3) 鹿児島大学 医学部保健学科, 4) 国立病院機構 山口宇部医療センター



菊地 和人

英国理学療法士協会の下部組織に産業理学療法士協会があり,理学療法士は製造業・サービス業などで働いている。仕事内容は労働者の健康と福祉の向上ならびに効率的な仕事ができるように支援することである。産業理学療法の導入により企業に対して費用対効果(3ポンド効果/1ポンド投資)をもたらす。労働者の事故や病欠を減らし,生産性とパフォーマンスが向上すれば雇用者と労働者双方のメリットとなる。英国における理学療法士の心理学的介入によるメンタルヘルス対策については,わが国においても応用できる可能性があるため紹介したい。

### 3 オーストラリアの産業理学療法から見た日本の課題



柘植 孝浩

柘植 孝浩<sup>1)</sup>、山野 宏章<sup>2)</sup>、宮澤 拓人<sup>3)</sup>、後藤 祐紀寿<sup>4)</sup>

1) 一般財団法人倉敷成人病センター、2) 大阪行岡医療大学  
3) 千葉リハビリテーションセンター、4) 祐川整形外科医院

我々は、日本における産業理学療法の普及への課題を検討するために、オーストラリアにおける産業理学療法の実態を入手可能な情報（文献や各種サイト）をもとに調査した。調査の結果、法制度、労働安全衛生制度、理学療法士の資格制度・教育制度、腰痛・筋骨格系障害の実態、介入事例等の報告があった。日本とオーストラリアでは労働安全衛生制度は類似点が多く見られていたが、教育制度は日本に比べてオーストラリアの方が充実していた。これらのことを踏まえ、日本の産業理学療法の普及に向けた課題やポイントを紹介する。

### 4 オランダの産業理学療法 ～日本の産業理学療法への示唆と展開～



白幡 史矩

白幡 史矩<sup>1), 2)</sup>、永井 智<sup>3)</sup>、西村 卓朗<sup>4)</sup>、神田 一路<sup>5)</sup>

1) 羊ヶ丘病院、2) 北海道医療大学大学院、3) つくば国際大学、  
4) 南砺市民病院、5) 出雲医療看護専門学校

オランダは産業理学療法に関する認定制度があり、腰痛やメンタルヘルス分野の研究数は世界でもトップクラスである。これらの研究は、多職種による多面的なアプローチを推奨している。また、筋骨格系疾患においては疼痛の改善のみではなく、疾病による損失や職場環境、認知行動療法などの復職に向けた方策や介入が重要視されている。

本シンポジウムでは、日本産業理学療法研究会の2021年度国際調査事業により得られたオランダの産業理学療法に関する知見を基に、本邦での産業理学療法の普及に向けた課題や展望を共有する。

### 5 スウェーデンにおける腰痛予防施策 — いかにして、職業病の腰痛を減らしたか —



藤本 昌央

藤本 昌央<sup>1)</sup>、阿比留 友樹<sup>2)</sup>、今別府 和徳<sup>3)</sup>、長澤 誠<sup>4)</sup>

1) 大和大学白鳳短期大学部、  
2) ロッツ株式会社 リハ特化型訪問看護ステーションさんぽ武蔵小杉  
3) 地方独立行政法人芦屋中央病院、4) CYBERDYNE 株式会社

北欧最大の国土面積を持つスウェーデン (Kingdom of Sweden) は、国民に対して基本的な医療が無料または低額で提供されている。職業病に着目すると、コロナ禍前では男性では筋骨格系疾患が一番多く、女性では社会心理的なものに次いで筋骨格系疾患が多かった。世界中で covid-19 が蔓延する時期では感染症が最も多くなった。本シンポジウムでは、スウェーデンにおける腰痛の施策について報告する。

### 6 フィンランドの産業保健と理学療法士の 関わりについて



長澤 誠

長澤 誠<sup>1)</sup>、阿比留 友樹<sup>2)</sup>、今別府 和徳<sup>3)</sup>、藤本 昌央<sup>4)</sup>

1) CYBERDYNE 株式会社、2) ロッツ株式会社  
3) 地方独立行政法人芦屋中央病院、4) 大和大学白鳳短期大学部

福祉国家として知られているフィンランドは、産業保健の問題に積極的に取り組んでいる。フィンランドで開発された Work Ability Index は、労働能力診断チェックリストとして様々な国で活用されている。また、移乗支援時の筋骨格障害を予防するトレーニングスキームである、Ergonomic Patient Handling Card® の提供を実施する等、働く人々の健康を守る活動がなされている。本発表では、フィンランドの各制度や産業保健に関する取り組み、フィンランドの理学療法士の関わりについて概説を行う。



# スポンサードセミナー

## ■スポンサードセミナー 1

アプリ、センサーデバイスを活用した健康促進の試み

2023年10月28日(土) 10:20~11:20

多目的会議室A (G会場; セミナー会場)

演者: 千里 智傑 (株式会社InfoDeliver)

河合 恒 (東京都健康長寿医療センター 福祉と生活ケア研究チーム)

主催: 株式会社InfoDeliver

## ■スポンサードセミナー 2

スマートエイジングにおけるAI活用

一介護業務支援プラットフォームとデータ・ドリブン介護の実践報告—

2023年10月28日(土) 14:00~15:00

多目的会議室A (G会場; セミナー会場)

演者: 山岡 勝 (パナソニックホールディングス株式会社 事業開発室 スマートエイジングプロジェクト)

主催: パナソニックホールディングス株式会社

## ■スポンサードセミナー 3

小中学校からはじめる寝たきり"0"

—理学療法士のご協力をいただき『歩行ケア®』を全国の小中学校に普及する活動—

2023年10月28日(土) 15:10~16:10

多目的会議室A (G会場; セミナー会場)

演者: 岡田 恵也 (一般社団法人RainboW Walking)

主催: マイクロストーン株式会社

## ■スポンサードセミナー 4

メディカルトレーニングセラピー (MTT)

—高齢者の身体機能を向上させ、日常生活の自立性を促進する介護予防の温故創新—

2023年10月28日(土) 16:20~17:20

多目的会議室A (G会場; セミナー会場)

演者: 新井 武志 (目白大学大学院リハビリテーション学研究所)

望月 秀樹 (杏林大学リハビリテーション学科 作業療法学専攻)

齋藤 清昭 (エイエルワン株式会社)

主催: 酒井医療株式会社

## ■スポンサードセミナー 5

介護予防の事業マネジメント

—行政への事業提案から事業実施、事業報告まで—

2023年10月28日(土) 10:20~11:20

多目的会議室B (H会場; セミナー会場)

演者: 松井 一人 (株式会社ほっとリハビリシステムズ)

主催: インターリハ株式会社

## ■スポンサードセミナー 6

介護予防におけるトレーニング動作のフィードバック

—包括的高齢者運動トレーニング (CGT) での取り組み—

2023年10月28日(土) 14:00~15:00

多目的会議室B (H会場; セミナー会場)

演者: 小島 基永 (東京医療学院大学)

塩川 雄高 (リハビリ型デイサービス 機能訓練プラザ)

伊藤 亘 (システム・インスツルメンツ株式会社)

主催: システム・インスツルメンツ株式会社

## ■スポンサードセミナー 7

オンラインを活用した介護予防教室プログラムの検証

—オンライン活用の実際と有効性—

2023年10月28日(土) 15:10~16:10

多目的会議室B (H会場; セミナー会場)

演者: 大東 俊彦 (セントラルスポーツ株式会社 健康サポート部 介護予防チーム)

國井 実 (セントラルスポーツ株式会社 アカデミー部・研究所)

主催: セントラルスポーツ株式会社

## ■スポンサードセミナー 8

日常歩行モニタリングの意義と応用 一理論から実践まで—

2023年10月28日(土) 16:20~17:20

多目的会議室B (H会場; セミナー会場)

演者: 河合 恒 (東京都健康長寿医療センター 福祉と生活ケア研究チーム)

須藤 元喜 (花王株式会社 パーソナルヘルスケア研究所)

中原 謙太郎 (NECバイオメトリクス研究所)

稲井 卓真 (産業技術総合研究所 運動生理学・バイオメカニクス研究グループ)

主催: 花王株式会社

## ■スポンサードセミナー 9

産業理学療法 最前線

—PT×Technologyによる新産業創出と社会課題への挑戦—

2023年10月29日(日) 10:00~11:00

多目的会議室A (G会場; セミナー会場)

演者: 福谷 直人 (株式会社バックテック)

主催: 株式会社バックテック

## ■スポンサードセミナー 10

口の機能をどう測りどう考えるか: 新しい咬合力測定システムも含め

2023年10月29日(日) 11:10~12:10

多目的会議室A (G会場; セミナー会場)

演者: 平野 浩彦 (地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所)

主催: 住友理工株式会社

## ■スポンサードセミナー 11

常駐スタッフのいないシニア向け安心賃貸住宅における健康寿命延伸の取り組み

2023年10月29日(日) 12:20~13:20

多目的会議室A (G会場; セミナー会場)

演者: 伊藤 香織 (旭化成ホームズ株式会社 シニアライフ研究所)

三宅 順子 (旭化成ホームズ株式会社 シニア事業推進部)

主催: 旭化成ホームズ株式会社

## ■スポンサードセミナー 12

介護予防主任運動指導員・介護予防運動指導員フォーラム

2023年10月29日(日) 8:50~9:50

多目的会議室B (H会場; セミナー会場)

演者: 中田 晴美 (駒沢女子大学)

大淵 修一 (東京都健康長寿医療センター研究所)

主催: 東京都健康長寿医療センター研究所

## ■スポンサードセミナー 13

医療と運動施設との連携が運動継続へ及ぼす価値

—整形外科クリニックとカーブスの事例—

2023年10月29日(日) 10:00~11:00

多目的会議室B (H会場; セミナー会場)

演者: 野村 真嗣 (医療法人社団快晴会 すがも北口整形外科クリニック)

大森 由香子 (株式会社カーブスジャパン 戦略企画部)

主催: 株式会社カーブスジャパン

## ■スポンサードセミナー 14

自己脂肪由来間葉系幹細胞を用いた治療

—運動器疾患・神経疾患を中心に—

2023年10月29日(日) 11:10~12:10

多目的会議室B (H会場; セミナー会場)

演者: 辻 晋作 (医療法人社団アヴェニュー アヴェニューセルクリニック)

主催: CPC株式会社

## ■スポンサードセミナー 15

嚥下機能低下予備軍に対する口腔嚥下プログラムの開発

2023年10月29日(日) 12:20~13:20

多目的会議室B (H会場; セミナー会場)

演者: 吉田 周平 (株式会社ルネサンス)

主催: 株式会社ルネサンス

## 1 シニアの健康に有効活用できるシステムの開発

千里 智傑  
株式会社 InfoDeliver



千里 智傑

Infodelverは、長年東京都健康長寿医療センターの大淵修一先生、河合恒先生に監修をいただき、シニア用アプリの開発を行ってきた。東京都の取り組みでは、シニア参加者より取得したプリミティブなデータをシニア参加者が見て有効活用できる情報に加工する必要があった。先生方とブラッシュアップを続けた結果、過不足のない情報が表示されるアプリを開発できた。この健康アプリを通して、健康寿命延伸の一助になることを願っている

## 2 スマートウォッチ等を使用したヘルスログのモニタリングによるフレイル予防効果

河合 恒  
東京都健康長寿医療センター 福祉と生活ケア研究チーム



河合 恒

われわれは、スマートウォッチとアンクルバンド型加速度計を地域高齢者へ配布し、ヘルスログのモニタリングによるフレイル早期検知システムの開発およびフレイル予防効果について研究を行っている。本セミナーではこの研究の概要を紹介するとともに、期待されるフレイル予防効果について、歩行速度や食事のヘルスログの長期的モニタリングが、歩行速度低下の抑制や食行動の改善をもたらした研究について紹介したい。

## 1 スマートエイジングにおける AI 活用 — 介護業務支援プラットフォームと データ・ドリブン介護の実践報告 —

山岡 勝

パナソニックホールディングス株式会社  
事業開発室 スマートエイジングプロジェクト



山岡 勝

当社では、介護施設向け業務支援サービス「LIFELENS」を提供している。本システムではベッド上のセンサーとAIカメラを組み合わせ、安否確認業務の効率化だけでなく、センサーの客観データ等のAI分析による「いつもの違いスコア」の実証を行っている。また、データドリブンでの介護予防・重度化防止や高齢者の持てる能力を最大限発揮いただくための介護手法「自立支援介護」への展開取り組みについて、事例を交えながら報告する。

## 小中学校からはじめる寝たきり”0”

■スポンサードセミナー 3 — 理学療法士のご協力をいただき『歩行ケア<sup>®</sup>』を全国の小中学校に普及する活動 —

2023年10月28日(土) 15:10～16:10 / 多目的会議室A (G会場; セミナー会場)

司会: 岡田 恵也 (マイクロストーン株式会社)

主催: マイクロストーン株式会社

# 1 小中学校からはじめる寝たきり”0” — 理学療法士のご協力をいただき『歩行ケア<sup>®</sup>』を 全国の小中学校に普及する活動 —

岡田 恵也

一般社団法人RainboW Walking 事務局長



岡田 恵也

『歩行ケア<sup>®</sup>』とは、「体幹2点歩行動揺計」(マイクロストーン(株)製)での計測結果を用いた客観的なデータに基づく歩行改善指導である。2022年8月に『一般社団法人RainboW Walking』(理事長: 第5代Jリーグチェアマン 村井満/理事: 日本理学療法士協会会長 齊藤秀之他)を設立し、2023年度は30校以上で本事業の展開が開始されている。本セミナーでは、本事業についての紹介と、これまでの小中学校での歩行ケアの実績について報告する。

## メディカルトレーニングセラピー (MTT)

◆スポンサードセミナー 4 — 高齢者の身体機能を向上させ、日常生活の自立性を促進する介護予防の温故創新 —

2023年10月28日(土) 16:20～17:20 / 多目的会議室A (G会場; セミナー会場)

司会: 大淵 修一 (東京都健康長寿医療センター研究所高齢者健康増進事業支援室部長)

主催: 酒井医療株式会社

### 新井 武志

目白大学大学院リハビリテーション学研究科 教授

### 望月 秀樹

杏林大学リハビリテーション学科 作業療法学専攻 教授

### 齋藤 清昭

エイエルワン株式会社 事業部長兼施設長



新井 武志



望月 秀樹



齋藤 清昭

## 1 高齢者の身体機能向上を目指したトレーニングについて — 介護予防実践例 —

MTTとは、「医学的管理・診断・評価の基に行われるトレーニングエクササイズ」のことであり、身体機能の低下を予防するために、適切な運動を通じて筋力、バランス、柔軟性などの身体機能を向上させることを目指すものである。前半では特に介護予防にフォーカスし、高齢者の日常生活の自立性やQOL向上、転倒やケガのリスクの低減などのために、様々な現場で介護予防を実践している講師陣に豊富な知識と経験をもとに、ご講演頂く。

## 2 今後の介護予防について — パネルディスカッション —

前半の各講師の包括的高齢者運動トレーニング (CGT)、パワーリハビリテーション、そして通所介護事業の運営事例のご講演を踏まえ、パネルディスカッション形式で討議する。

## 介護予防の事業マネジメント

■スポンサードセミナー5 —行政への事業提案から事業実施, 事業報告まで—

2023年10月28日(土) 10:20~11:20 / 多目的会議室B (H会場; セミナー会場)

司会: 大田 幸作 (フィジオセンター)

主催: インターリハ株式会社

### 1 介護予防の事業マネジメント — 行政への事業提案から事業実施, 事業報告まで —

松井 一人

株式会社ほっとリハビリシステムズ



松井 一人

介護予防事業の重要性が説かれて久しいが、理学療法士のパフォーマンスを過不足なく行政に伝え、事業提案し、その結果を発揮する事について、まだまだ標準化されていないのが現実だと考えます。

介護予防の事業において、効果的な理学療法を提供する中で、成果を上げる事はもちろん必要ですが、一方で行政施策に対し、自ら主体的に事業提案し、街の施策として事業を動かす視点が重要であると考えます。

今回、福井県越前市における活動を通じ、介護保険計画等から導き出されている地域課題から、事業提案を行い、事業を受託、実施し、その結果を出すまでの過程を紹介する中で、これからの理学療法士が、自治体と共に介護予防事業を動かすと共に、事業経営を行うマネジメントの重要性について考えてみたい。

## 1 加速度時系列スペクトルのエントロピーを用いた動作分析 — トレーニングマシンへの実装を目指して —

小島 基永  
東京医療学院大学



小島 基永

包括的高齢者運動トレーニング (Comprehensive Geriatric Training) は、全国で取り入れられ効果も確認されているが、対象者がその場で動作を修正できる仕組みを、指導者の熟練度に依らずに提供できれば、介護予防の趣旨である“主体的な取り組み”に一段と合致するものと考えられる。本セミナーでは、演者らの加速度情報を用いた動作分析を概説するとともに、これをマシンに実装し対象者へのフィードバックに活用する可能性を紹介する。

## 2 高齢者向けトレーニングマシンの介護現場での実用について — リハトレーナー活用現場の声 (動画) —

塩川 雄高 (理学療法士)  
リハビリ型デイサービス 機能訓練プラザ (静岡県富士市)



塩川 雄高

2012年4月に静岡県富士市にリハビリ型デイサービス「機能訓練プラザ」を開設。入浴・食事サービスを省き機能訓練に特化した1日×2回転の短時間デイサービスです。リハトレーナーを活用した筋力トレーニングを始め、理学療法士を中心とした個別リハビリを実施。昨今は障害者と一緒にサービスが受けられる共生型サービスも開始。理学療法士目線から感じる介護現場での生の声を動画でお伝えします。

## 3 システム化されたトレーニングマシンの優位性 — 理学療法士が立ち上げるリハ型デイサービスとは —

伊藤 亘  
システム・インスツルメンツ株式会社



伊藤 亘

今後の介護方針として「自立支援」と「重度化予防」が厚労省から示された。増加する高齢者がいつまでも自分らしく自立した生活を送れるかが重要になってくる。他方、それを支える側の人材不足は深刻だ。本セミナーではその両面の課題解決に向け開発されたシステム・マシン【リハトレーナー】の優位性、今、理学療法士の起業参入が増えている運動特化型デイサービスの概要を紹介する。

## 1 オンラインを活用した介護予防教室の これまでとこれから — With コロナから After コロナへ —

### 大東 俊彦

セントラルスポーツ株式会社 健康サポート部 介護予防チーム  
介護予防主任運動指導員  
エクササイズ・フィジオロジスト (ACSM)



大東 俊彦

コロナ禍において、対面で行われる集団指導型の介護予防教室の実施が困難になった時、世界中で一気に発展を遂げたオンラインを利用したコミュニケーションを利用する形式の非対面式の介護予防事業が誕生した。当初は、高齢者のITリテラシーが障がいとなっていたが、これまでの試行錯誤から現在では、比較的容易に行うことができるようになってきている。

ここでは、オンラインを活用した介護予防教室実施のポイントとコロナ以後における実施とその役割についてお話ししたい。

## 2 オンラインを活用した介護予防教室の実例と その有効性 — リアルとオンライン混合の取組み —

### 國井 実

セントラルスポーツ株式会社 アカデミー部・研究所  
介護予防主任運動指導員  
健康運動指導士



國井 実

2019年に広まり始めた新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) によって、多くの人が家の中にとどまることを余儀なくされた。このことは、人々に身体活動および社会的交流の減少を引き起こし、身体的および精神的健康へ悪影響を及ぼすこととなった。しかし、このような状況であっても、身体活動を増やし、心身の状態を整えることが身体的および精神的健康を保つ上で重要とされる。一方、今般のパンデミック中、ITを利用した取り組みが飛躍的に進歩した。インターネットを活用した新たなコミュニケーションが、ビジネス、プライベートを問わず発達し、従来おもにビジネス界においてTV会議として利用されていたシステムが個人でも利用できるようになり一般に利用が広がってきている。

本セミナーでは、パンデミック下に行われた少人数の対面形式とオンラインによる非対面形式を混合した介護予防事業実施の結果から介護予防におけるオンライン活用の有効性についてお話ししたい。

## 1 日常生活歩行速度測定の意義

河合 恒

東京都健康長寿医療センター 福祉と生活ケア研究チーム



河合 恒

歩行速度は健康アウトカムの予測指標として多くのエビデンスがあり、血圧、脈拍、呼吸、体温、痛みが続く第6のバイタルサインとも言われる。近年のセンサ技術の進歩により、歩行速度は日常生活中にも測定可能となり、そのヘルスケアへの応用が期待されている。本セミナーでは高齢者の予防・健康増進のための日常生活歩行速度測定の意義と、スマートフォン内蔵GPS(チャミ)で測定した日常生活歩行速度の研究について報告する。

## 2 日常歩行速度モニタリングの研究結果 — ウェアラブルセンサによる調査結果から —

須藤 元喜

花王株式会社 パーソナルヘルスケア研究所



須藤 元喜

近年、ウェアラブルセンサを用いた様々なセンサが開発されている中、特に、日常において自分の歩き方に関する気づきを与える機会は少ない。そこで、我々は三軸加速度センサを内蔵した日常の歩行速度を計測するサービス(ホコタッチ)を開発してきた。本セミナーでは日常歩行モニタリングの健康寿命に及ぼす効果や日常歩行速度の意義、加齢に特徴的な歩行についても報告する。

## 3 AI時代の歩行計測 — NEC歩行センシングインソール —

中原 謙太郎

NECバイオメトリクス研究所 ディレクター



中原 謙太郎

AI時代が到来し、計測は施設から日常へ、価値は分析から予防へと進化している。計測環境が制御できない日常歩行データは、ばらつきが大きい活用困難なデータとして認識されてきた。しかし最新のAIはそんなデータから知見を見出すことに長けている。本講演では、日常歩容を充電・操作なしに計測し続ける「NEC歩行センシングインソール」(A-RROWG)を通じて見えてきた、歩行計測による予防の可能性について報告する。

## 4 スマートフォンの加速度センサを用いた歩容の見える化— 歩容可視化アプリの開発 —

稲井 卓真

産業技術総合研究所 運動生理学・バイオメカニクス研究グループ



稲井 卓真

ヒトの歩容には、整形外科疾患や転倒などのリスクを評価するためのヒントがある。ゆえに、歩容を日常的かつ継続的に評価することは重要である。我々は多くのヒトが持っているスマートフォンの中の加速度センサに着目し、スマートフォン1台だけで歩容の見える化を実現する技術と花王のアプリ(Walk Coordinator)を紹介する。そして、この技術による今後の展望・可能性についても紹介する。

## 産業理学療法 最前線

■スポンサードセミナー 9 —PT × Technologyによる新産業創出と社会課題への挑戦—

2023年10月29日(日) 10:00～11:00 / 多目的会議室 A (G会場; セミナー会場)

司会: 山本 純志郎(株式会社バックテック)

主催: 株式会社バックテック

# 1 産業理学療法 最前線 — PT × Technologyによる新産業創出と 社会課題への挑戦—

福谷 直人 (Ph.D.)

株式会社バックテック 代表取締役 CEO

産業医科大学 産業生態科学研究所 産業保健経営学 訪問研究員

京都大学大学院医学研究科 健康経営プロジェクト研究員



福谷 直人

本講演では、産業理学療法プラットフォーム「ポケットセラピスト<sup>®</sup>」を運営する当社が課題解決を目指している社会課題とテクノロジーを活用した課題解決方法、そして、理学療法士による新産業創出や新しいキャリア形成を通じた社会的インパクトについて情報提供をすることで、我々の未来について議論をしたいと思います。本学会で最も刺激的でチャレンジングな議論を楽しみましょう！

## 1 口の機能をどう測りどう考えるか： 新しい咬合力測定システムも含め

平野 浩彦

東京都健康長寿医療センター 病院 / 歯科口腔外科  
研究所 / 自立促進と精神保健研究チーム



平野 浩彦

1989年に始まった8020運動は5割以上の達成率(2017年)となり、義歯装着者も減少傾向にある。高齢期歩行機能に目を向けると、当然であるが直立二足歩行を主とした課題整理が行われている。一方、高齢期口腔環境は義歯装着者も在り、“直立二足歩行”のみではなく多様である。現在、高齢期口腔機能の課題整理が歯科口腔保健分野で喫緊の課題となっている。本セミナーが、口腔機能評価に関する知見を皆様方と考える機会となれば幸いである。

## 1 「安心・安全・健康長寿応援メソッド」の開発経緯 — 設計・相談員・しかけの3つで暮らしを応援 —

伊藤 香織

旭化成ホームズ株式会社 シニアライフ研究所



伊藤 香織

自立～フレイル期シニアに向けた住宅であるヘーベル Village は、「自宅」と「介護施設」の間に位置する住まいの選択肢として、15年以上の実績を積み重ねてきた。2019年度より、健康寿命延伸テーマの研究に力を入れ、その成果を建物の設計やサービス開発に活かしている。本メソッドの内容を中心に、ヘーベル Village 開発の背景や建物の特徴など、入居者を対象とした研究結果も踏まえて紹介する。

## 2 「安心・安全・健康長寿応援メソッド」の実践 — 入居者の暮らしを支える相談員の立場から —

三宅 順子

旭化成ホームズ株式会社 シニア事業推進部



三宅 順子

ヘーベル Village では、生活・健康長寿相談サービスを提供し、月1回の面談で暮らしと健康状態を確認し、お困りごとなどの相談に対応してきた。昨年度から開始した本メソッドにより、コミュニケーションツールを使いながら、相談員がどのようなポイントに着目して、継続的に応援しているかについて、具体的な事例を紹介する。特に、入居者がイキイキと暮らしている様子のエピソードを交えてお伝えしたい。

## 1 尿失禁予防

中田 晴美

駒沢女子大学 准教授  
東京都健康長寿医療センター研究所 非常勤研究員



中田 晴美

介護予防運動指導員養成講座テキスト第12章「尿失禁予防」の執筆者による、高齢期における尿失禁問題の講義です。尿失禁は直接生命に関わる問題ではないため放置されがちですが、尿失禁を起こすと身体的、心理的、社会的な側面へ様々な影響を及ぼし、要介護状態につながるということが予測されています。尿失禁を早期に予防・改善して介護予防につなげましょう。

## 2 介護予防概論

大淵 修一

東京都健康長寿医療センター研究所 研究部長



大淵 修一

介護予防運動指導員養成講座テキスト第2章「介護予防概論」の執筆者による、健康寿命延伸のための講義です。介護予防とは、高齢者が要介護状態に陥ることなく、健康でいきいきとした生活を送ることができるよう支援することです。健康寿命を延伸するために何をすれば良いか、死亡の原因と要介護の原因を対比して対策を講じていきましょう。

## 1 運動の継続の視点から考える 地域の健康への貢献

野村 真嗣

医療法人社団快晴会 すがも北口整形外科クリニック



野村 真嗣

本講では、運動の継続の視点から、医療と運動施設の連携の事例を紹介する。当院では、運動施設との連携を促進している。なかでも「カーブス」との連携では、整形外科疾患の治療に重要な全身の筋力強化や減量を目的とした運動への介入、治療終了後の3次予防、痛みの発生時の運動継続に対する不安解消や早期受診による2次予防、疾患に応じた運動負荷の調整による運動継続、などの点で医療側・運動施設側ともに有用となっている。

## 2 疾病予防や健康増進に有用な運動施設の紹介 ー女性専用30分フィットネスー

大森 由香子

株式会社カーブスジャパン 戦略企画部



大森 由香子

中高年女性は慢性疾患を抱えている人が少なくないが、痛みの緩和に筋力運動が必要であることや、自身に合った筋力運動が分からないという人はいまだ多く存在する。そこで、慢性疾患によって運動の不安を持つ方にフォーカスし、医療の専門家による運動継続の後押しの価値やカーブスの運動プログラムと地域の連携について紹介する。

## 自己脂肪由来間葉系幹細胞を用いた治療

### ■スポンサードセミナー 14 ー運動器疾患・神経疾患を中心にー

2023年10月29日(日) 11:10～12:10 / 多目的会議室B (H会場; セミナー会場)

司会: 辻 晋作 (医療法人社団アヴェニュー アヴェニューセルクリニック)

主催: CPC 株式会社

## 1 自己脂肪由来間葉系幹細胞を用いた治療 ー 運動器疾患・神経疾患を中心に ー

辻 晋作

医療法人社団アヴェニュー アヴェニューセルクリニック



辻 晋作

2014年に再生医療等安全性確保法が施行された。医師の裁量のもとの自由診療が初めて制限される法律である一方、一定の安全性や妥当性が示しそれを国に届ければ細胞加工を企業などに委託することが可能になり患者に迅速に安全な治療が届くようにするための法律である。このセミナーでは我々の自己脂肪由来間葉系幹細胞治療の概要、またその中でも理学療法との併用は欠かせない運動器疾患・神経疾患について述べたいと思う。

## ◆スポンサードセミナー 15 嚥下機能低下予備軍に対する口腔嚥下プログラムの開発

2023年10月29日(日) 12:20～13:20 / 多目的会議室B (H会場; セミナー会場)

司会: 櫻井 大輝・小林 美穂 (株式会社ルネサンス)

主催: 株式会社ルネサンス

### 1 嚥下機能低下予備軍に対する 口腔嚥下プログラムの開発

吉田 周平  
株式会社ルネサンス



吉田 周平

弊社では嚥下障害を引き起こす前の“嚥下機能低下予備軍”を対象とした嚥下機能プログラムを開発しています。嚥下機能改善に加え、理学療法士の強みである姿勢や呼吸に対してのアプローチや複合低周波治療器を組み合わせたプログラム構成です。この度通所介護施設のご利用者に開発したプログラムを提供したことで嚥下機能の改善効果が示唆されましたので、プログラム内容と併せてご紹介させていただきます。



森浩美

作詞家・作家

原作・脚本 / 「家族草子」主宰

田原俊彦「抱きしめて Tonight」、森川由加里「SHOW ME」、SMAP「青いナズマ」「Shake」「ダイナマイト」、KinKi Kids「愛されるより愛したい」、ブラックビスケッツ「タイミング」等、作品総数約700曲。また、家族を題材にした「家族の言い訳」「こちらの事情」「夏を拾いに」「ほのかなひかり」「こころのつづき」等のロングセラー小説多数。

いちばん新しい思い出

〔小さな理由〕 双葉文庫より

過去に離婚し、吉祥寺で気ままなひとり暮らしをしている主人公・佐藤。ある日の夜、登録されていない番号から着信が入る。不審に思いつつ出てみると、何と15年以上も会っていない娘・香織からの電話だった。そして、会いたいと言う。久しぶりの対面でギクシャクする父は、大人になった目の前の女性に、子どもだった頃の娘と過ごした思い出の日々を重ねていく。やがて、近況を伝える香織の口から、父に会いに来た目的が明かされる……。

桜散らず

〔小さな理由〕 双葉文庫より



あらすじ

脳梗塞で意識不明になった妻を見舞う日々を送る主人公の夫。回想する妻との思い出のひとつひとつを紐解くたび、自身の「夫として」「男として」の不甲斐なさを感じてしまう。遠く離れて住んでいる息子は、近くで父と母を支えられず、心配が募るばかり。今後の最大の懸案は、妻を施設に預けるかどうか……。頭を悩ませる父と息子。その会話の中で、ふと「吉野の千本桜」を見たいという妻の言葉を思い出す。そして、夫はある決意を胸に病室へ向かう。

市民公開講座

# 家族草子

朗読劇  
函館公演 2023

×× スタッフ ××

照明：小林愛子  
宣伝デザイン：佐藤貴也  
制作協力：有限会社 森浩美事務所



青山伊津美 明樹由佳 入澤建



演出  
保倉大朔



音楽  
真辺雄一郎



佐藤貴也 斎藤千晃 小林あすさ

× 公演に関するお問い合わせ ×

株式会社ガイアクリエーション  
Mail: media02@gaiacreation.com

## 地域包括ケアシステムと朗読劇

地域包括ケアシステムでは、ケアを必要とする人もそうでない人も、共に活動することが必要です。朗読劇はみんなが一緒にできる良いツールです。専門職のみなさんも市民のみなさんも、活動のヒントになれば幸いです。



家族草子

主催 ▶ 一般社団法人 日本予防理学療法学会・日本産業理学療法研究会

後援 ▶ 函館市

公演スケジュール

函館市民会館 小ホール

2023.10.29 sun

開場時間 14:00

開演時間 14:30

先着200名  
\* 申込不要

無料  
(全席自由)

※ 小中学生は保護者の方の同席が必要です。



# オーガナイズドセッション一覧

- 予防 OS1 骨粗鬆症・骨折の一次予防、二次予防の取り組み
- 予防 OS2 アスリートに対するスポーツ現場での実践的外傷・障害予防
- 予防 OS3 口腔機能向上のその先へ
- 予防 OS4 ウィメンズヘルス領域における予防理学療法の可能性
- 予防 OS5 医療デバイスと予防理学療法
- 予防 OS6 フレイルの社会的側面
- 予防 OS7 通いの場
- 予防 OS8 効果的な健康づくりのためのICT・テクノロジー
- 予防 OS9 身体活動量
- 予防 OS10 基礎研究と予防理学療法
- 予防 OS11 要介護やフレイルになりにくい地域づくり
- 予防 OS12 急性期内部病害における予防理学療法
- 予防 OS13 高齢者の生活機能低下を予防する住まいと住まい方
- 予防 OS14 リハビリテーション専門職と働く場の心のための健康と予防
- 予防 OS15 がん予防のための疫学研究最前線
- 予防 OS16 PICS 予防のコツ
- 予防 OS17 アクションリサーチ
- 予防 OS18 高齢者の雇用促進と現役継続に向けた予防戦略
- 予防 OS19 高齢者の口腔関連の機能低下を予防する新しいアプローチ
- 予防 OS20 有疾患における座位行動研究の潮流
- 予防 OS21 介護予防教室や地域活動に参加できない人へのアプローチ
- 予防 OS22 地域在住高齢者を対象とした老年症候群予防のためのコホート研究
- 予防 OS23 呼吸サルコペニア
- 予防 OS24 予防的がんのリハビリテーションにおける支持療法と臨床研究
- 予防 OS25 口腔機能向上のその先へ ～介護予防における歯科口腔の役割と課題～
- 予防 OS26 フレイル対策におけるオーラルフレイル予防の意義
- 予防 OS27 Presenteeism 対策における理学療法士の役割
- 予防 OS28 運動器疾患における1次予防から2次予防への橋渡し
- 予防 OS29 急性期、回復期、生活期における予防活動の実践
- 予防 OS30 地域づくり～東京都の試み～
- 予防 OS31 安全・衝突管理に対する認知科学・身体運動科学の貢献
- 産業 OS1 治療と仕事の両立支援
- 産業 OS2 産業保健分野における理学療法の事例・活動報告

**骨粗鬆症・骨折の一次予防、二次予防の取り組み**

座長： 旭 竜馬 (日本保健医療大学)

加藤 啓祐 (慶友整形外科病院)

**【企画の意図・概要】**

我が国において、骨粗鬆症患者は1,280万人と推計されており、超高齢社会に伴い骨折患者数は増加傾向にあります。骨粗鬆症に伴う骨折を予防するためには、地域での検診による一次予防から再骨折を予防するための二次予防が重要な位置づけにあります。本セッションでは、骨粗鬆症をテーマに検診における骨折への一次予防、急性期病院における二次予防について、現在の取り組みを紹介いたします。

- |          |  |       |
|----------|--|-------|
| YOS-01-1 | 骨粗鬆症検診の女性を対象とした Fracture Risk Assessment tool の有用性について - 骨粗鬆症の早期発見に関する検証 - | 伍賀 伊織 |
|          | 医療法人幸仁会 堀中病院   |       |
| YOS-01-2 | 骨粗鬆症による骨折予防～超音波画像を用いた四肢骨格筋量を予測する取り組みの紹介～                                   | 湯口 聡  |
|          | 日本保健医療大学   |       |
| YOS-01-3 | 地域における骨粗鬆症検診と骨折予防策   | 旭 竜馬  |
|          | 日本保健医療大学   |       |
| YOS-01-4 | 急性期病院における二次骨折予防について  | 加藤 啓祐 |
|          | 慶友整形外科病院   |       |
| YOS-01-5 | 転倒骨折予防としての健康教室の取り組み  | 小林 凌  |
|          | 慶友整形外科病院   |       |

**アスリートに対するスポーツ現場での実践的外傷・障害予防 ～ 0次予防から3次予防まで～**

座長： 佐藤 正裕 (医療法人社団スポーツメディカル八王子スポーツ整形外科)

三宅 英司 (昭和大学保健医療学部リハビリテーション学科理学療法専攻)

**【企画の意図・概要】**

近年、スポーツ選手における外傷と障害予防の取り組みは、選手の意思決定(アドヒアランス)による1次予防の継続や、さらに前段階の環境に注意を向けた0次予防が注目されている。すなわち、現場では選手が必要とする1次予防の実践と、ジュニア期の練習やチームの課題に対する0次予防の取り組みが喫緊の課題である。そこでこのセッションは、0次～3次予防の科学的根拠とアスリートに対する実際の取り組みについて討議する。

- |          |  |        |
|----------|--|--------|
| YOS-02-1 | コンディションデータ管理システム「ONE TAP SPORTS」を用いたスポーツ外傷・障害サーベイランス | 山中 美和子 |
|          | 株式会社ユーフォリア   |        |
| YOS-02-2 | バスケットボール競技における1-2次予防の取り組みから考察する0次予防                  | 菊元 孝則  |
|          | 新潟医療福祉大学   |        |
| YOS-02-3 | バドミントンにおけるスポーツ障害の0次および1次予防                           | 伊計 拓真  |
|          | 早稲田大学大学院   |        |
| YOS-02-4 | 発育段階にある野球選手に対する障害予防とパフォーマンス向上に向けた取り組み                | 筒井 俊春  |
|          | 早稲田大学  |        |
| YOS-02-5 | アスリートの日常の「気づき」の大切さについて ～ゴルフツアーサポートから考えられること～         | 有馬 正人  |
|          | 医療法人社団 鎮誠会   |        |

口腔機能向上のその先へ ～介護予防における歯科口腔の役割と課題～

座長：小原 由紀 (東京都健康長寿医療センター)

森下 志穂 (明海大学 保健医療学部)

【企画の意図・概要】

口腔は、「食ること」、「話すこと」など生活に直結した重要な器官であるが、高齢期においては口腔機能の加齢変化が顕著となる。口腔機能低下は、フレイルの一因となることが近年報告されており、介護予防・重度化防止において口腔機能向上は重要な役割を果たす。そこで本セッションでは、口腔機能向上がもたらす効果と、地域における取り組みの現状について討議し、今後目指すべき方向性について提起する場としたい。

- |          |  |       |
|----------|--|-------|
| YOS-03-1 | 口腔機能向上の効果～栄養との連携～<br>明海大学                            | 森下 志穂 |
| YOS-03-2 | 高齢者における身体機能と口腔機能～足趾力と口腔機能の関係～<br>神戸常盤大学              | 福田 昌代 |
| YOS-03-3 | 地域在住高齢者の身体活動と口腔機能の関係<br>令和健康科学大学                     | 森下 元賀 |
| YOS-03-4 | 地域の介護予防を促進する上での歯科衛生士の役割<br>東京都健康長寿医療センター研究所          | 白部 麻樹 |
| YOS-03-5 | 介護予防の地域連携における歯科衛生士の役割 ～秋田県フレイル健診から見た課題～<br>秋田県歯科衛生士会 | 川村 孝子 |

ウィメンズヘルス領域における予防理学療法の可能性

座長：森 明子 (兵庫医科大学リハビリテーション学部)

平元 奈津子 (広島国際大学総合リハビリテーション学部)

【企画の意図・概要】

Life course approachは生涯にわたる各年代や状況に応じた対応により、持続的な健康の改善を期待する考え方である。女性特有の身体的問題はライフステージを見据えた予防理学療法の視点が非常に重要である。しかし、ウィメンズヘルス領域において予防的視点を持った理学療法の学際性は少なく、今後の発展が期待される。本セッションではウィメンズヘルス領域における予防理学療法の可能性について議論したい。

- |          |                                       |         |
|----------|---------------------------------------|---------|
| YOS-04-1 | 月経痛に対する予防理学療法の可能性<br>LUTIS            | 漆川 沙弥香  |
| YOS-04-2 | 妊娠期・産後の機能障害に対する予防理学療法の可能性<br>埼玉県立大学   | 須永 康代   |
| YOS-04-3 | 尿失禁・骨盤臓器脱に対する予防理学療法の可能性<br>インターリハ株式会社 | 田舎中 真由美 |

**医療デバイスと予防理学療法**

座長：平林 卓己 (神戸大学医学部附属病院)

中西 亮介 (神戸国際大学)

**【企画の意図・概要】**

予防医学と医療デバイスは密接な関係にある。近年、AI、ロボット技術、VR・ARを活用した医療デバイスが注目され、これらが今後の予防医学のトピックスになることは間違いない。従来、理学療法士は物理療法機器を用いて検査・治療を行ってきたが、時代の変化に伴い、より広い視点から医療デバイスの可能性を検証し、議論する必要が生じてきた。本セッションはリハビリテーション機器の可能性について改めて検討する機会としたい。

- YOS-05-1 心臓ペースメーカーのレートレスポンス機能と運動療法を用いた変時性不全に対する ADL 低下予防：一例報告**  
半田市立半田病院 石黒 博也
- YOS-05-2 肥満に伴うインスリン抵抗性に対する 60Hz 交流磁場の予防効果**  
神戸国際大学 中西 亮介
- YOS-05-3 訪問リハビリテーションにおける要支援高齢者の身体活動量計を用いた評価の有用性**  
さくら総合病院 成瀬 宏司
- YOS-05-4 低周波治療器を用いた作業療法により上肢麻痺患者における趣味活動の喪失を予防した一例**  
医療法人医仁会 さくら総合病院 中山 和彦
- YOS-05-5 心疾患患者に対する心肺運動負荷試験は再入院リスクを低減させる**  
山梨勤労者医療協会甲府共立病院 太田 友幸
- YOS-05-6 生活習慣病保有者におけるオンライン完結型生活習慣改善支援プログラムの効果と運動動画サービスとの関連**  
株式会社 PREVENT 伊藤 達之

**フレイルの社会的側面**

座長：牧迫 飛雄馬 (鹿児島大学医学部保健学科理学療法専攻)

**【企画の意図・概要】**

フレイルの多面性のなかでも社会的な側面に着目した研究成果、実践活動、事例などを対象としたセッションを企画する。理学療法士の関りとしては、身体的な側面に焦点を充てた評価や支援が中心的であるが、より早期からのフレイル予防対策や心身機能の改善・予防の先を見据えた対策として、フレイルの社会的な側面に対する評価や支援の検討が求められる。フレイルの社会的側面に対しての理学療法士の関りのエビデンスや活動状況の周知は、多職種連携を含めた高齢者に対する予防理学療法の在り方について発展的な議論が可能となると期待される。

- YOS-06-1 社会的フレイルと健康問題**  
国立長寿医療研究センター 堤本 広大
- YOS-06-2 地域高齢者のライフイベントと社会的健康度：ポジティブおよびネガティブな側面からの検討**  
国立長寿医療研究センター 牧野 圭太郎
- YOS-06-3 中山間地域における社会的フレイル予防を目指した多世代交流型の地域実践活動の紹介**  
岡山旭東病院 隅井 太亮
- YOS-06-4 地域在住高齢者における地域レベルの社会参加と精神的健康との関連：横断的マルチレベル分析**  
東京都健康長寿医療センター研究所 谷出 敦子
- YOS-06-5 COVID-19 流行後の地域在住高齢者の社会活動と環境要因の関連性 - 岡山県倉敷市と東京都町田市における調査結果 -**  
吉備国際大学 井上 優

## 地域づくりによる介護予防における通いの場の効果評価

座長： 植田 拓也 (東京都健康長寿医療センター研究所 東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター)  
清野 諭 (東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加とヘルシーエイジング研究チーム)

## 【企画の意図・概要】

通いの場の効果は十分に検討されていない。令和2年度より当研究所が中心に、厚労省の研究事業を実施し、通いの場に代表される介護予防のPDCAサイクルと効果評価の枠組みを検討してきた。本OSでは、通いの場の評価枠組を提示し、通いの場・圏域の評価、自治体の事業の評価、地域づくりに向けた評価の各レベルにおける効果検証の成果を共有することで、今後の通いの場の効果評価及び地域づくりの推進の一助となればと考える。

- |          |   |       |
|----------|---|-------|
| YOS-07-1 | 通いの場の概念と類型～地域づくりに向けた通いの場の捉え方～<br>東京都健康長寿医療センター研究所             | 植田 拓也 |
| YOS-07-2 | 通いの場の取組をPDCAサイクルに沿って評価するための枠組み：ACT-RECIPE<br>東京都健康長寿医療センター研究所 | 清野 諭  |
| YOS-07-3 | 通いの場の効果と多事業連携に向けた取り組み<br>医療法人真正会 霞ヶ関南病院                       | 駒井 敦  |
| YOS-07-4 | 通いの場参加者の要介護認定発生率～自治体事業としての評価～<br>株式会社まちりハ                     | 倉地 洋輔 |
| YOS-07-5 | 住民調査データに基づく事業改善の取り組み<br>東京医科大学                                | 根本 裕太 |

## 効果的な健康づくりのためのICT・テクノロジー

座長： 山下 和彦 (東都大学 幕張ヒューマンケア学部 臨床工学科)

## 【企画の意図・概要】

地域在住の高齢者は膝OAなどの関節疾患を有しており、要介護リスクを高めている。地域における健康づくりを担う理学療法士を含む人材には情報発信のみではなく、科学的根拠に基づき、日常生活に踏み込んだ支援が求められる。本OSでは、足部骨格や筋力の計測システムを開発する研究者、行政で地域の健康づくりを進める行政保健師等で構成し、実践的な健康づくり、仲間づくりを進めるスキーム、成果を報告する。

- |          |  |       |
|----------|--|-------|
| YOS-08-1 | ICT 活動量計を用いた健康寿命延伸プロジェクトの効果<br>志木市役所         | 清水 裕子 |
| YOS-08-2 | 高齢者の転倒予防のための足部ケアによる身体機能への影響<br>東都大学          | 山下 知子 |
| YOS-08-3 | スマートフォンを用いた足部3次元骨格計測システムによる関節疾患リスク評価<br>東都大学 | 山下 和彦 |

## 身体活動量と一次予防・再発および重症化予防

座長：清水 夏生（埼玉医科大学保健医療学部理学療法学科）

金居 督之（金沢大学融合研究域融合科学系）

### 【企画の意図・概要】

身体活動量の増加は健康な成人における一次予防，あるいは有疾患患者における再発・重症化予防のいずれの観点からも重要な要素である。本セッションでは，一次予防と再発・重症化予防の観点から着手された身体活動量に関する調査から，両領域における身体活動量の新たな知見や今後の研究課題を吟味することを目的とする。様々な領域の演者と聴講者が「身体活動量」を共通項として議論を多角的に行うことで，新たな視座が得られる機会を提供したい。

#### YOS-09-1 人工知能による慢性痛保有者の身体活動量と転倒経験の関連性分析

大阪河崎リハビリテーション大学

肥田 光正

#### YOS-09-2 軽症脳梗塞患者の退院 6 か月後の座位行動は脳卒中の再発に影響する

総合病院 聖隷三方原病院

芦澤 遼太

#### YOS-09-3 身体活動量とヘルスリテラシーおよび運動セルフエフィカシーの関連性—回復期病棟入院患者を対象とした横断研究—

千里中央病院

吉田 啓志

#### YOS-09-4 外来心疾患患者の自己効力感と運動耐容能の組み合わせが身体活動量に与える影響

苑田第三病院

木村 祐紀

#### YOS-09-5 虚血性心疾患患者におけるスマートフォンアプリを用いたオンライン完結型生活習慣改善支援プログラムの効果

株式会社 PREVENT

山田 純也

## 基礎研究と予防理学療法

座長：姉帯 沙織（埼玉医科大学保健医療学部理学療法学科）

姉帯 飛高（順天堂大学医学部解剖学・生体構造科学講座）

### 【企画の意図・概要】

基礎研究と実臨床を紐付けることの重要性は論を待たない。しかし実際は基礎・臨床間の相互理解が不十分で、当事者視点が曖昧な実益を伴わない応用検討も少なくない。本セッションでは理学療法士による最新の解剖学研究を取り上げ、予防的観点から、現役の臨床家を交えて双方向性に議論を深めたい。基礎研究の最新知見が内含するあらゆる可能性を引き出し、従来にはない新しい視点や考察が萌芽し発展する場となることを期待したい。

#### YOS-10-1 腰痛に関する予防理学療法を肉眼解剖学の視点から考える

医療法人敬愛会リハビリテーション天草病院

布施 裕子

#### YOS-10-2 大殿筋の構造的再評価：特に停止部とその周辺構造に着目して

順天堂大学

姉帯 飛高

#### YOS-10-3 関節包の解剖学的特徴に基づいた下肢の関節支持機構

森ノ宮医療大学

堤 真大

#### YOS-10-4 機能解剖学的視点から見た腱障害の予防理学療法

新潟医療福祉大学

江玉 睦明

**要介護やフレイルになりにくい地域づくり ~地域診断の必要性とその取り組みについて~**

座長： 清水 夏生 (埼玉医科大学保健医療学部理学療法学科)  
森 優太 (医療法人 松徳会 花の丘病院)

**【企画の意図・概要】**

暮らすまちによってフレイル該当者、要介護リスク者の割合が異なることが分かっています。健康なまちの条件として、例えば地域介護予防活動支援事業が積極的に実施されていたり、歩きやすい歩行コースが多い市町村ほど、フレイル高齢者が少ないことが分かっています。今回のセッションを通して、理学療法士が個人のみではなく、地域といった集団に対して評価・地域診断ができることで地域づくりに貢献できることが期待できます。

- YOS-11-1 要介護やフレイルになりにくい地域づくり ~ 地域診断の必要性とその取り組みについて ~  
花の丘病院 森 優太
- YOS-11-2 軽症脳卒中患者に対する「フレイル予防ネット」の取り組み  
国立循環器病研究センター 太田 幸子
- YOS-11-3 居住区の代表地点から算出した Walk score<sup>®</sup> と閉じこもり及びフレイル発生状況との関連：市内 141 地区を対象とした横断研究  
埼玉医科大学 清水 夏生

**急性期内部病害における予防理学療法**

座長： 甘利 貴志 (健康科学大学 健康科学部 理学療法学科)  
元山 美緒 (健康科学大学 健康科学部 理学療法学科)

**【企画の意図・概要】**

急性期から患者の退院後を見据えた身体機能維持・向上と疾患の再発予防を視野に入れ介入することは非常に重要である。内部障害領域において、心疾患、呼吸器疾患、代謝疾患は様々な病態から身体機能と活動性の低下につながることや、加齢によるフレイル・サルコペニアの合併は予後不良因子となり長期的な視点からも身体機能回復が遅延することが示されている。近年では早期離床・早期介入の安全性や有効性も示されており、患者の病態が多様化する現代社会において、急性期の段階から予防的な視点を持つことが理学療法士には求められる。本セッションでは急性期の内部障害領域において様々な分野から予防的視点を踏まえた取り組み及び研究を紹介する。

- YOS-12-1 肺高血圧症と予防理学療法  
埼玉医科大学 飛田 和基
- YOS-12-2 当院における PICS 予防に向けた取り組み ~標準プログラムを活用した入院から退院まで切れ目のない介入~  
上尾中央総合病院 小野田 翔太
- YOS-12-3 入院中から始める循環器疾患の予防介入  
秋田県立循環器・脳脊髄センター 加賀屋 勇気

## 高齢者の生活機能低下を予防する住まいと住まい方

座長： 大淵 修一（東京都健康長寿医療センター）

阿部 祐美子（大東文化大学健康科学部）

### 【企画の意図・概要】

地域包括ケアシステムには住まいが含まれており、高齢者が健康でイキイキとした生活を送るためのハードウェアと付随するサービスは重要である。このセッションでは、従来の住宅の考え方を俯瞰し超高齢社会で求められる住まいを最初に定義し、その後、学術的に高齢期の住まい方のアクションリサーチを行っている研究者から現状と課題を提起することで、予防理学療法学として研究すべき要点を明らかにしたい。

#### YOS-13-1 超高齢社会における住まいの要件、住宅すぐろくの前

東京大学

田中 康夫

#### YOS-13-2 サービス付き高齢者向け住宅の機能と役割についてー入居に至る背景・生活サービス・健康ニーズ

株式会社メディカルシステムネットワーク

佐々木 聖子

#### YOS-13-3 自立高齢者向け住宅での運動指導と効果

野村不動産ウェルネス株式会社

中村 康朋

#### YOS-13-4 自立高齢者向け賃貸住宅入居者における健康行動の維持・向上効果

旭化成ホームズ株式会社

伊藤 香織

#### YOS-13-5 サービス付き高齢者向け住宅の生活満足度への口腔関連因子の影響

大東文化大学

阿部 祐美子

## リハビリテーション専門職と働く場の心のための健康と予防

座長： 宮城 春秀（花と森の東京病院リハビリテーション科）

西川 正一郎（葛城病院リハビリテーション部理学療法課）

### 【企画の意図・概要】

リハビリテーション(以下、リハ)専門職は、ヒューマンサービスであり患者や他職種や職場の同僚や上司、部下と職務上多くの人と関わる。そのため、専門的な対人サービスを提供するため精神的な負担を抱えやすく、労働環境を含めた対応が実施されている。このセッションの目的は、リハ専門職の労働者として、また労働している環境の視点も含めて、心のための健康としてメンタルヘルスを予防の観点から検討したい。

#### YOS-14-1 リハビリテーション専門職のストレス対処力と職務特性の影響について

花と森の東京病院

宮城 春秀

#### YOS-14-2 年齢と経験の違いがコーピングに関するメタ認知能力に与える影響

医療法人大植会葛城病院

西川 正一郎

#### YOS-14-3 「あなたの更年期実態調査」結果報告～更年期症状と身体・精神の関連について～

NPO 法人みらい予想図

徳弘 郁絵

#### YOS-14-4 メンタルヘルス自己管理がメンタルヘルス風土や労働職場ストレスに及ぼす影響

花と森の東京病院

内田 かおり

#### YOS-14-5 複数の課題を抱え、心身が疲弊し、就労継続困難となった理学療法士の一例

おうちにかえろう。病院

宇野 勲

**がん予防のための疫学研究最前線**

座長: 井平 光 (札幌医科大学 保健医療学部 理学療法学科)

梅沢 淳 (国立がん研究センター がん対策研究所 がん登録センター)

**【企画の意図・概要】**

最新がん統計では、がんの累積罹患リスクは、男性65.5%、女性50.2%であり、二人に一人が生涯でがん罹患することが報告された。一方、5年相対生存率は、64.1%まで高まり、がん治療の進展による生存率の向上によって、多くのがん患者が社会復帰を必要としている。がんの1次予防から3次予防までをシームレスに行い、科学的根拠に基づくがん予防を実現するため、様々な最新の疫学研究を紹介するために本セッションを企画した。

**YOS-15-1 ビタミンDとがんの関連:メンデルランダム化法による検討**

医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所

片桐 諒子

**YOS-15-2 血中ポリフェノールの再現性と結腸がんリスクとの関連について: JPHC 研究の結果より**

国立健康・栄養研究所

森 渚

**YOS-15-3 がん登録の収集とその適切な管理、利活用について -患者への運動介入研究においてがん登録は活用できるか-**

国立がん研究センター

梅沢 淳

**YOS-15-4 科学的根拠に基づくがんリスク評価とがん予防ガイドライン提言に関する研究と、がん予防研究に資する医療ビッグデータの紹介**

国立がん研究センターがん対策研究所

金原 里恵子

**YOS-15-5 がんリハビリテーションの臨床-急性期病院の立場から-**

札幌医科大学附属病院

阿部 真佐美

**YOS-15-6 がんリハビリテーションを施行した患者の入院時ADLと転帰先との関連について:DPCデータ解析**

札幌医科大学大学院

木田 拓斗

**PICS 予防のコツ ~どんな患者に?、何をいつ?~**

座長: 高田 順子 (東京ベイ・浦安市川医療センター リハビリテーション室)

下谷 陽子 (東京ベイ・浦安市川医療センター 救急集中治療科 集中治療部門)

**【企画の意図・概要】**

PICS (post intensive care syndrome、集中治療後症候群) 予防のためのリハビリテーションは、ADLが自立した患者を対処とした研究が大半である。しかし、実臨床ではフレイル、低ADL、既往症ある患者にしばしば遭遇する。どんな患者がPICSになりやすく(リスク因子)、何を(内容)、いつ(開始時期)行うのが良いか、PICS予防のコツについて考察する。

**YOS-16-1 PICS のリスク因子**

東京ベイ・浦安市川医療センター

高田 順子

**YOS-16-2 PICS 予防のリハビリテーション:呼吸不全とフレイル**

長崎大学病院

花田 匡利

**YOS-16-3 フレイルを呈する循環器疾患患者の PICS 予防に向けた早期リハビリテーション**

順天堂大学

齊藤 正和

## アクションリサーチですすめる地域づくり

座長：佐藤 美由紀（新潟大学大学院保健学研究科）  
柴 喜崇（福島県立医科大学保健科学部理学療法学科）

### 【企画の意図・概要】

地域住民の参画と協働により、誰もが支え合う共生社会の実現が目指されている。そのためには、住民の主体性や地域のつながりを強化する必要がある。しかし、従来型の専門職が主導する介入方法では、地域のエンパワメントは促進されず、住民主体の活動に発展することが困難である。本セッションでは、地域のエンパワメントを高め、介護予防活動や地域づくりを住民と共創するアクションリサーチの可能性と進め方について議論する。

- |          |  |        |
|----------|--|--------|
| YOS-17-1 | アクションリサーチによる研究活動<br>東京都健康長寿医療センター研究所                           | 今村 慶吾  |
| YOS-17-2 | 地域在住高齢者における社会参加促進プログラムが心身機能に及ぼす効果—アクションリサーチによる取り組み—<br>城西国際大学  | 安齋 紗保理 |
| YOS-17-3 | 東京都 A 市における中学生に対する学習支援プログラムのセオリー評価と今後の課題—中学生との協働の試み—<br>東京工科大学 | 池田 晋平  |
| YOS-17-4 | 地域在住高齢者へのフォトボイスの活用<br>札幌保健医療大学                                 | 服部 ユカリ |

## 高齢者の雇用促進と安心できる現役継続に向けたこれからの予防戦略

座長：陣内 裕成（日本医科大学医学部衛生学公衆衛生学）  
高野 賢一郎（働く人の健康と安全を守る会）

### 【企画の意図・概要】

高齢者雇用等による社会的インパクトに期待が高まるが、定年制を前提としてきた多くの事業場にとっては新たな挑戦である。高齢者の就労上重要となる体力問題が何で、どのように対処すれば就労継続を可能とするかについて、シルバー人材センターや第3次産業の高齢労働者を対象とした調査、社会経済的動向、および実践活動に実績のある演者を交えて、医療や福祉の枠組みを超えた、今後の予防戦略の仮説形成に向けた議論を展開する。

- |          |  |        |
|----------|--|--------|
| YOS-18-1 | シルバー人材センターの後期高齢者が安全に生きがい就労を継続するための3つの対策<br>ダイヤ高齢社会研究財団 | 森下 久美  |
| YOS-18-2 | 高齢労働者の就労継続を支援するための戦略<br>産業医科大学                         | 松垣 竜太郎 |
| YOS-18-3 | 高齢就労の社会経済的側面<br>東京保健医療専門職大学                            | 加藤 剛平  |
| YOS-18-4 | 現場における高齢労働者の労働災害予防の実践<br>働く人の健康と安全を守る会                 | 高野 賢一郎 |
| YOS-18-5 | 地域に根ざした産業保健活動：高齢労働者の転倒・腰痛予防<br>滋賀県立大学 / 地域リハデザイン研究所    | 岩倉 浩司  |

## 高齢者の口腔関連の機能低下を予防する新しいアプローチ

座長: 伊藤 直子 (大東文化大学 スポーツ・健康科学部)

### 【企画の意図・概要】

これまでに高齢者の口腔機能の低下を予防する方策について多くの取り組みがなされているが、口腔関連筋群の積極的な向上を目的とした訓練方法は確立されていない。

本セッションでは、口腔関連の機能低下を予防する訓練法について新たな知見を持つ研究者に話題提供いただく。口腔には嚥下、発声、呼吸等の役割があり、それぞれの分野の介入方法を共有することにより、新しいアプローチ法について見出す機会となることを期待する。

- |  |               |
|--|---------------|
| <p><b>YOS-19-1</b> 高齢者の嚥下機能低下のリスクに関連する要因<br/>大東文化大学</p>                            | <p>阿部 祐美子</p> |
| <p><b>YOS-19-2</b> 舌骨上筋群の筋活動を効果的に導く頭部挙上方法の検討<br/>専門学校東京医療学院</p>                    | <p>荒川 武士</p>  |
| <p><b>YOS-19-3</b> 加齢性音声障害に対する Vocal Function Exercise 音声リハビリテーションの効果<br/>杏林大学</p> | <p>間藤 翔悟</p>  |
| <p><b>YOS-19-4</b> 呼吸筋トレーニング (EMST) が口腔関連機能に及ぼす効果について<br/>大東文化大学</p>               | <p>伊藤 直子</p>  |

## 有疾患における座位行動研究の潮流

座長: 岡 浩一郎 (早稲田大学)

小野 玲 (国立健康・栄養研究所)

### 【企画の意図・概要】

予防理学療法分野では、有疾患を対象に予後改善のためにいかにして座りすぎを減らすかが大きな関心事となっている。本セッションでは、運動器障害、内部障害、認知機能障害に焦点を当て、これらの障害を有する者を対象にした座位行動研究の動向や課題を整理する。さらに、学際性の観点から公衆衛生分野での座位行動指針について情報共有し、予防理学療法分野における座位行動研究をさらに発展・深化させるきっかけにしたい。

- |   |              |
|---|--------------|
| <p><b>YOS-20-1</b> 運動器障害を有する者における座位行動研究<br/>医薬基盤・健康・栄養研究所</p> | <p>小野 玲</p>  |
| <p><b>YOS-20-2</b> 内部障害を有する者における座位行動研究<br/>筑波大学</p>           | <p>小崎 恵生</p> |
| <p><b>YOS-20-3</b> 認知機能障害を有する者における座位行動研究<br/>国立長寿医療研究センター</p> | <p>土井 剛彦</p> |
| <p><b>YOS-20-4</b> 座位行動指針の策定動向<br/>文化学園大学</p>                 | <p>安永 明智</p> |

**介護予防教室や地域活動に参加できない人へのアプローチ**

座長：長山 洋史 (神奈川県立保健福祉大学作業療法学専攻)  
池田 晋平 (東京工科大学医療保健学部リハビリテーション学科作業療法学専攻)

**【企画の意図・概要】**

地域包括ケアシステムにおいて、リハビリテーション専門職は通いの場への関与が期待されているが、参加率は高齢者人口の5.7%に留まり、男性の参加率の低迷は各自治体の課題である。そこで本セッションは「介護予防教室や地域活動に参加できない人へのアプローチ」というテーマで、人々のネットワークや地域環境のあり方、訪問支援の重要性について再考し、予防理学療法の新たな方向性の契機になることを期待したい。

- YOS-21-1 高齢者を地域活動へ促すための訪問支援の実際と課題  
東京都立大学 石橋 裕
- YOS-21-2 高齢男性を地域活動へ促すための工夫と課題—ステークホルダーへの質的調査—  
東京工科大学 池田 晋平
- YOS-21-3 住民間の交流と援助希求行動を促すコミュニティの空間構造特性 ~自殺希少地域 X 町の「路地」への着眼~  
統計数理研究所 岡 檀

**地域在住高齢者を対象とした老年症候群予防のためのコホート研究**

座長：河合 恒 (東京都健康長寿医療センター研究所)  
鈴木 隆雄 (桜美林大学)

**【企画の意図・概要】**

わが国には老年症候群予防のための特色あるコホート研究が複数存在する。本セッションでそれらの研究内容や成果について報告し合い、今後の老年症候群予防研究の方向性を示したり、コホート統合研究につなげたい。

- YOS-22-1 運動器疾患を主たる予防目的とした地域住民コホート ROAD  
東京大学 吉村 典子
- YOS-22-2 地域高齢者の包括的健康調査「お達者健診」  
東京都健康長寿医療センター研究所 江尻 愛美
- YOS-22-3 産官学連携による中高齢者を対象とした地域コホート研究垂水研究  
鹿児島大学 牧迫 飛雄馬
- YOS-22-4 地域住民を対象とした認知症予防のためオレンジレジストリー秋田コホート—  
秋田大学 大田 秀隆

## 呼吸サルコペニア

座長： 解良 武士 (高崎健康福祉大学)

## 【企画の意図・概要】

近年、我が国では日本呼吸理学療法学会をはじめとする3学会合同でのポジションペーパーも発刊されるなど、呼吸サルコペニアに関して関心が高まっているところである。呼吸サルコペニアの診断方法、将来の健康アウトカムへの影響、そして介入の必要性やその手段について、様々なことが研究が進んでいるところである。本OSは、呼吸サルコペニアやその周辺領域の研究について、最新のデータに基づき議論を深めることを目的とする。

## YOS-23-1 慢性閉塞性肺疾患患者における呼吸サルコペニアの特徴

市立秋田総合病院

川越 厚良

## YOS-23-2 循環器疾患と呼吸サルコペニア

順天堂大学

森沢 知之

## YOS-23-3 地域在住高齢者の呼吸サルコペニアに対する口腔機能を含めた評価

東京医療学院大学

山口 育子

## YOS-23-4 呼吸サルコペニアの将来の健康アウトカムについて

高崎健康福祉大学

解良 武士

## 予防的がんのリハビリテーションにおける支持療法と臨床研究

座長： 小林 大祐 (国立がん研究センター東病院)

森山 武 (市立函館病院)

## 【企画の意図・概要】

支持療法は、がんに伴う症状や、副作用・合併症などを軽減する目的で行われる予防、治療、ケアを示す言葉である。予防的がんのリハビリテーションは、支持療法の一手段であり、がん治療に伴う倦怠感や疲労、運動機能や生活機能、フレイルやサルコペニアの予防につながる。本企画では、予防的がんのリハビリテーションに関する臨床研究発表により、予防的がんのリハビリテーションの普及および臨床疑問解決を目的としている。

## YOS-24-1 無菌室入院中の血液腫瘍患者における予防的リハビリテーション対象者のスクリーニング

埼玉医科大学総合医療センター

瓜尾 柊

## YOS-24-2 前立腺術後の尿失禁予防に向けた理学療法士による包括的な関わりの効果

埼玉医科大学総合医療センター

小野 功介

## YOS-24-3 psoas volume index(PVI) は消化器癌における栄養病態を反映しうるか。

東京都健康長寿医療センター研究所

志田 隆史

## YOS-24-4 血球低値を呈する血液内科疾患に対して運動種目、運動強度を設定し新基準のもとリハ介入を行った症例の身体症状、有害事象等の調査検証

市立函館病院

森山 武

## ウェアラブルデバイスが拓く予防理学療法の新展開

座長： 出口 直樹 (東京都健康長寿医療センター研究所 自立促進と精神保健研究チーム)  
 笹井 浩行 (東京都健康長寿医療センター研究所 自立促進と精神保健研究チーム)

### 【企画の意図・概要】

1999年に「アクティブ・エイジング」が提唱された。アクティブ・エイジングとは、「人々が年を重ねても生活の質が向上するように、健康、参加、安全の機会を最適化するプロセス」と定義される。これは病気や障がいがあっても、全ての高齢者が社会経済的、文化的、精神的な活動に参加できることを意味する。アクティブ・エイジングをかなえるためには、健全な生活習慣を保つことは重要である。アクティブ・エイジングに資するツールのひとつとして、ウェアラブルデバイス (wearable devices；WD) が挙げられる。WDは非侵襲的な小型機器でリアルタイムな活動や睡眠等の健康情報をユーザーに提供することで規則正しい日常生活行動を促すことが可能である。ヘルスケア向けのWDとしてApple watchやFitbitなどのスマートウォッチやアプリ開発が進み、世界的な市場規模は急成長をとげている。しかし、予防理学療法分野におけるWD活用は極めて少ない。そこで、本オーガナイズセッションではWDの活用事例と最新の研究トピックについて議論する。WDの活用事例として、第1演題ではスマートフォンアプリを使用した慢性疾患の重症化予防における介入実践についてご講演いただく。第2演題では、高齢者におけるWDの関心や購買意欲に関する関連要因についてご発表いただく。第3演題では、WDにかかる最新の研究トピックとして、活動、座位、睡眠からなる24時間行動と健康についてご講演いただく。これらを通じて、予防理学療法に従事するセラピストにWDにかかる最新の潮流について情報提供したい。

- |                 |   |       |
|-----------------|---|-------|
| <b>YOS-25-1</b> | スマートフォンアプリを使用した慢性疾患の重症化予防における介入実践<br>金沢大学     | 金居 督之 |
| <b>YOS-25-2</b> | 都市部在住高齢者におけるスマートウォッチの受容<br>東京都健康長寿医療センター研究所   | 出口 直樹 |
| <b>YOS-25-3</b> | ウェアラブルデバイスを使用した24時間の行動評価と健康との関連性<br>明治安田厚生事業団 | 北濃 成樹 |

## フレイル対策におけるオーラルフレイル予防の意義

座長： 渡邊 裕 (北海道大学)  
 白部 麻樹 (東京都健康長寿医療センター研究所)

### 【企画の意図・概要】

オーラルフレイルはフレイルの予知因子とされ、その予防はフレイル対策の中で注目されている。オーラルフレイルとフレイルの関係については十分に整理されていない。そこで本セッションでは、日本でオーラルフレイル研究を行っている研究者にそれぞれの視点で報告していただき、ディスカッションにおいて、オーラルフレイルとフレイルの関係について整理し、今後の予防を含めた研究の方向性について議論したい。

- |                 |  |       |
|-----------------|--|-------|
| <b>YOS-26-1</b> | 今日から始めるオーラルフレイル予防<br>東京都健康長寿医療センター研究所                          | 白部 麻樹 |
| <b>YOS-26-2</b> | 口から始めるフレイル予防：口腔機能の視点から<br>国立長寿医療研究センター                         | 釘宮 嘉浩 |
| <b>YOS-26-3</b> | 通いの場に参加する都市部高齢者の口腔機能低下の有無に影響を与える要因の検討<br>脳神経研究センター新さっぽろ脳神経外科病院 | 松田 涼  |
| <b>YOS-26-4</b> | 通いの場の都市部高齢者における認知機能低下の予測モデル—口腔機能との関連—<br>公益社団法人 北海道理学療法士会      | 福嶋 篤  |

10月29日(日) 10:00~11:00 予防 OS27 武道館 1 (E会場;講演会場)

## 労働生産 (Productivity) 改善のための従業員の Presenteeism 対策における理学療法士の役割

座長：村永 信吾 (医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 リハビリテーション事業管理部)

### 【企画の意図・概要】

プレゼンティーズムは、「腰痛などの健康問題の理由で、欠勤には至らなくても生産性が低下している状態」をいう。さらに「健康問題で仕事を欠勤している状態」をアブセンティーズムという。アブセンティーズムはもちろんのこと、プレゼンティーズムを予防・改善することは企業の労働力を高め生産性向上に貢献できる。労働生産人口低下が予想される中、プレゼンティーズムを軽減し労働生産性向上に貢献できる理学療法士の役割への期待は大きい。

#### YOS-27-1 運動器疼痛とプレゼンティーズムの実態および現在の取り組み

昭和大学

吉本 隆彦

#### YOS-27-2 病院職員のロコモティブシンドロームとプレゼンティーズムとの関連

医療法人社団愛友会伊奈病院

岸本 俊樹

#### YOS-27-3 プレゼンティーズム改善を目的とした腰痛予防教育の取り組み ~航空機部品製造業現場作業者に対する事例~

株式会社フィジオリハ

近藤 晃弘

10月29日(日) 11:10~12:10 予防 OS28 武道館 1 (E会場;講演会場)

## 運動器疾患における1次予防から2次予防への橋渡し

座長：井原 拓哉 (東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 運動器機能形態学講座)  
阿南 雅也 (大分大学 福祉健康科学部 理学療法コース)

### 【企画の意図・概要】

運動器疾患患者の発症初期に着目した、疾患の発症や予後に与える影響を調査した研究が近年盛んに行われている。現場に生きる知見を勘案すると、発症前後の愁訴や機能障害と、その後の疾患発症や進行との関連を明らかにし、介入策と併せて提案することが望まれる。そこで、特に運動器疾患の1次予防から2次予防への橋渡しとして、愁訴や機能障害、疾患発症に関連する身体機能等に関して議論することを目的に実施する。

#### YOS-28-1 膝内側半月板損傷患者に対する3ヶ月の保存療法前後の歩行時下肢関節運動の変化

久留米大学医療センター

緒方 悠太

#### YOS-28-2 人工股関節全置換術後6ヶ月の床上動作困難感の残存に影響する因子の検討

久留米大学医療センター

竹内 康裕

#### YOS-28-3 1次および2次骨折予防に向けたベルト電極式骨格筋電気刺激(B-SES)による新規アプローチの提案

令和健康科学大学

坪内 優太

#### YOS-28-4 AIを用いた歩行時の膝関節ラテラルスラスト検知モデルの開発と精度検証

東京医科歯科大学大学院

井原 拓哉

10月29日(日) 8:50~9:50

予防 OS29

武道館 2 (F 会場; 講演会場)

## 急性期、回復期、生活期における予防活動の実践 ～一步踏み出そう!! 職域を超えた関わり～

座長: 阿部 勉 (リハビリ推進センター株式会社)

木田 亮輔 (リハビリ推進センター株式会社)

### 【企画の意図・概要】

地域包括ケアシステムを機能的に動かしていくためには、各病院・事業所の垣根を越えた取り組みが重要である。特に予防活動を推進していくためには、従来のシームレスな連携・協働作業だけではなく、一步踏み出した取り組みが必要となってくる。そこでこのセッションでは、従来のシームレスな連携・協働作業にプラスした“一步踏み出した”予防活動の実践を急性期・回復期・生活期それぞれの立場から報告いただき確認していく。

#### YOS-29-1 急性期リハビリテーションから一步踏み出した地域連携促進の実践活動

帝京大学医学部附属病院

一重 吉史

#### YOS-29-2 回復期リハビリテーションから一步踏み出した通いの場立ち上げ支援の実践活動

医療法人社団 健育会 竹川病院

羽中田 賢

#### YOS-29-3 生活期リハビリテーションから一步踏み出した地域包括ケアシステムを通じたリハマネジメント

リハビリ推進センター株式会社

大沼 剛

10月29日(日) 10:00~11:00

予防 OS30

武道館 2 (F 会場; 講演会場)

## 地域づくりによる介護予防 ～東京都の試み～

座長: 卜部 吉文 (大橋病院 リハビリテーション科)

倉地 洋輔 (株式会社まちリハ)

中村 睦美 (東都大学幕張ヒューマンケア学部)

### 【企画の意図・概要】

本セッションでは、地域づくりによる介護予防における理学療法士の関わりについて東京都の事例を通して改めて考えたい。「運動機能の低い方から高い方まで一緒に活動する通いの場の意義は何か?」、「心身機能の低下は免れることができない事実がある中、どのような継続支援を行うべきか?」。各区市町村の理学療法士に求められる役割の違いを認識した上で、理学療法士の効果的な取り組みや今後の可能性について討論したい。

#### YOS-30-1 東京都多摩市の住民主体の活動の継続支援の再考

社会医療法人河北医療財団 多摩事業部

桐林 亜希子

#### YOS-30-2 東京都北区における継続支援について ～「承認」を意識した主体性を引き出す支援～

東都大学

中村 睦美

#### YOS-30-3 東京都町田市の通いの場の世話役支援～世話役の悩みの解決に向けた試み～

株式会社まちリハ

倉地 洋輔

**安全・衝突管理に対する認知科学・身体運動科学の貢献**

座長：樋口 貴広 (東京都立大学)

佐藤 和之 (東京都立大学)

**【企画の意図・概要】**

- ・高齢者の転倒予防・安全管理に資する基礎研究のうち、認知科学・身体運動科学分野における理論や実験研究成果を分かりやすく紹介する。大会テーマである「予防理学療法学の学際性」に貢献すべく、理学療法科学以外の専門領域における高齢者研究・転倒予防研究の動向を伝えることを主眼とする。
- ・主として衝突回避に関わる研究(障害物、自動車、歩行者などとの衝突回避)から、高齢者の衝突や転倒につながりうる諸問題を提供する。
- ・心身機能が比較的高い高齢者において、認知情報処理や視覚運動制御の“ほころび(本人が必ずしも自覚していない加齢変化)”の存在をいかに評価し、本人の気づきの機会とするかについて、いくつかの提案をおこなう。

**YOS-31-1 高齢者における保守的な障害物回避：その功罪**

東京都立大学

須田 祐貴

**YOS-31-2 高齢者の衝突事故予防に対する VR の活用**

東京都立大学

佐藤 和之

**YOS-31-3 歩行中の足元と遠方の同時管理：VR マルチターゲットステッピング課題の開発**

東京都立大学

脇 遼太郎

## 治療と仕事の両立支援

座長：浅田 史成（神戸労災病院 リハビリテーション部）

久原 聡志（産業医科大学病院 リハビリテーション部）

### 【企画の意図・概要】

健康だった人が病気にかかり治療が必要になると、以前の通りには働けなくなるケースが出てきます。治療しながら働くことを希望する人にとっては、治療と仕事を両立させることができるかは大きな問題です。そのような人たちが働けるような環境の整備が求められ、産業保健スタッフがその対策に関わっています。理学療法士の関わりはまだ僅かですが、これまで臨床で培った知識・技術を駆使して、病気や障害を抱える人たちの復職支援を担える可能性があると考えられます。今回、両立支援に先駆的に関わる理学療法士および産業保健スタッフが現場での事例や活動を通して得られた知見を紹介し、ディスカッションを深める場になれば幸いです。

- |          |   |        |
|----------|---|--------|
| SOS-01-1 | 治療と仕事の両立支援 ～理学療法士の参画～<br>産業医科大学病院   | 久原 聡志  |
| SOS-01-2 | 治療と仕事の両立支援の基本的流れおよび PT との連携経験の紹介<br>大阪公立大学  | 本田 優子  |
| SOS-01-3 | 勤労者医療で看護職が関わる治療と仕事の両立支援～ one team 医療を目指して～<br>独立行政法人 労働者健康安全機構 大阪ろうさい病院治療就労両立支援センター | 井谷 美幸  |
| SOS-01-4 | 両立支援における時間栄養学を取り入れた管理栄養士の取り組み<br>独立行政法人 労働者健康安全機構 大阪ろうさい病院                          | 高矢 央子  |
| SOS-01-5 | 治療と仕事の両立支援における公認心理師の取り組み～多職種とともに行う心理支援～<br>大阪ろうさい病院治療就労両立支援センター                     | 坂本 和歌子 |
| SOS-01-6 | 治療と仕事の両立支援における理学療法士の現状<br>神戸労災病院  | 浅田 史成  |

## 産業保健分野における理学療法の事例・活動報告

座長：石光 雄太（山口宇部医療センター）

澤野 純平（医療法人社団 いずみ会 北星病院）

### 【企画の意図・概要】

本セッションでは、「産業理学療法に興味はあるが、きっかけもないし、どうしたらいいか、誰に相談したらいいか分からない」といった不安や疑問を解消すべく、各領域に勤務する演者から産業理学療法の事例・活動の紹介をしていただきます。産業理学療法を身近に感じれることを目的としつつ、日本産業理学療法研究会で初学者の活動を支援する企画を知ってもらおう機会となれば幸いです。

- |          |   |       |
|----------|---|-------|
| SOS-02-1 | 今日から始める産業理学療法への第1歩～さんさんファーム（産業理学療法活動を皆で広げる場）～<br>山口宇部医療センター                       | 石光 雄太 |
| SOS-02-2 | 産業理学療法分野における北海道中央労災病院治療就労両立支援センターの活動について<br>独立行政法人労働者健康安全機構 北海道中央労災病院治療就労両立支援センター | 坂口 太一 |
| SOS-02-3 | 2022年度日本理学療法士協会高齢労働者就労支援モデル事業の活動報告（新潟県）<br>新潟中央病院                                 | 中山 裕子 |
| SOS-02-4 | フードコート型飲食店における腰痛リスク軽減に向けた人間工学的な関わり：活動報告<br>羊ヶ丘病院                                  | 白幡 吏矩 |
| SOS-02-5 | 労働者に対する腰痛予防事業の活動報告<br>医療法人社団 いずみ会 北星病院  | 澤野 純平 |

# 一 般 演 題 一 覧

## 第 10 回日本予防理学療法学会学術大会

- セレクション
- □ 述 発 表
- ポスター発表

## 第 6 回日本産業理学療法研究会学術大会

- セレクション
- □ 述 発 表
- ポスター発表

**10月28日 (土) 14:00~15:40 予防セレクション 小ホール (B会場;サブ会場)**

座長：新井 武志 (目白大学保健医療学部)  
森山 武 (市立函館病院)

- YS-1 地域在住高齢者における生活活動の実施パターンの解明：お達者研究  
国立研究開発法人 産業技術総合研究所 高橋 淳太
- YS-2 地域在住高齢者の社会的孤立は嚥下機能と関係する：横断的観察研究  
北里大学病院 前田 拓也
- YS-3 福島第一原子力発電所事故後の高齢者における被災自治体への帰還と心身機能の関連  
福島県立医科大学 森山 信彰
- YS-4 中年層の女性における骨密度と体組成および運動機能の関連  
倉敷中央病院 浜野 泰三郎
- YS-5 地域在住高齢者における歩行速度の加齢変化に対するネガティブな主観的認識および認識ギャップの関係とフレイルの関連 - お達者健診 -  
東京都健康長寿医療センター研究所 佐藤 和之
- YS-6 コロナ禍において趣味も地域活動も実施していないことはフレイルステータスの悪化に関連する  
国際医療福祉大学 広瀬 環
- YS-7 ペットボトル開栓の質問のみで 80 歳高齢者のプレフレイルが判別できる  
国際医療福祉大学 沢谷 洋平
- YS-8 客観的に評価した座位行動・身体活動時間の置き換えと膝痛高齢者の健康関連 QOL の関連  
東京都健康長寿医療センター研究所 朴 忠培
- YS-9 スマートフォンアプリによる日常生活における歩行速度と摂取食品数の評価  
東京都健康長寿医療センター 河合 恒

**10月28日 (土) 9:10~10:10 予防口述 1 (地域高齢者) 大会議室 (C会場;口述会場)**

座長：神尾 博代 (東京都立大学健康福祉学部)  
宇都 良大 (霧島市立医師会医療センター)

- YO-01-1 変形性膝関節症を有する高齢者の 24 時間行動ガイドラインの達成状況と精神的健康度および膝痛の関連  
東京都健康長寿医療センター研究所 出口 直樹
- YO-01-2 コロナ禍の行動制限が高齢者の身体・社会・精神的機能に与えた影響：年齢による機能低下と区別した検討  
北里大学 深瀬 裕子
- YO-01-3 地域在住高齢者における機能低下の重複数と健康関連 QOL の関連  
順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター 河村 康平
- YO-01-4 コロナ禍の生活変化が 1 年後の健康状態に及ぼす影響—山間地域在住高齢者における前向きコホート研究  
奈良学園大学 滝本 幸治
- YO-01-5 地域在住高齢難聴者における補聴器使用は要介護発生予防に有効か  
国立長寿医療研究センター 富田 浩輝
- YO-01-6 地域在住高齢者における BMI と ba-PWV との関連性  
東京都健康長寿医療センター 古谷 友希

10月28日 (土)	9:10~10:10	予防口述 2 (実践活動)	武道館 2 (F 会場; 講演会場)
	座長: 小山内 隆 (熱川温泉病院) 井上 和久 (埼玉県立大学保健医療福祉学部)		
YO-02-1	介護予防強化推進事業での支援活動について 医療法人 大植会 葛城病院		松田 洋平
YO-02-2	コロナ禍における住民主体の体操教室の活動状況 社会福祉法人さつき会		大河原 和也
YO-02-3	理学療法士および義肢装具士と医師の連携による下肢装具作製後フォローアップシステムの構築—装具難民を生み出さないための取り組み— 医療法人社団 葵会 柏たなか病院		金子 達哉
YO-02-4	メディカルフィットネスを利用し、重度化防止のために自立を支援した脳卒中の一症例 浜松市リハビリテーション病院		鈴木 章紘
YO-02-5	新宿区における、医療介護一体的事業における理学療法士のかかわり 東京女子医科大学病院		寛 慎吾
YO-02-6	ショッピングモールで開催するフレイル予防イベントの実践報告 小松ソフィア病院		田中 渉

10月28日 (土)	9:10~10:10	予防口述 3 (骨粗鬆症)	多目的会議室 A (G 会場; セミナー会場)
	座長: 森田 伸 (香川大学医学部附属病院) 富田 義人 (東京保健医療専門職大学)		
YO-03-1	陳旧性骨粗鬆症性椎体骨折例の X 線変化および身体機能の特徴 北海道社会事業協会 介護老人保健施設ふらの		千葉 恒
YO-03-2	骨粗鬆症検診における骨密度に影響を及ぼす因子の検討 堀中病院		木村 敏之
YO-03-3	骨粗鬆症患者に対する理学療法士による個別指導の短期治療効果 札幌八軒整形外科		本間 久嗣
YO-03-4	女性における体組成と骨密度の関係について 関東労災病院		内間 康知
YO-03-5	理学療法士の評価による大腿骨近位部骨折症例の骨密度に影響する因子の検討 ベルランド総合病院		田中 暢一
YO-03-6	地域在住高齢者における骨質と身体活動の関連性 大阪病院		赤井 滉基

10月28日 (土)	11:30~12:30	予防口述 4 (転倒)	多目的会議室 A (G会場; セミナー会場)
	座長： 上内 哲男 (JCHO 相模野病院)		
	山田 実 (筑波大学大学院)		
YO-04-1	大腿骨近位部骨折患者の歩行の動的安定性における転倒リスクに対する予測能の検討～1年間の前向き追跡研究～		松崎 英章
	福岡みらい病院		
YO-04-2	地域在住高齢者は若年者より前かがみで歩くが躓きやすいわけではない		佐藤 春彦
	関西医科大学		
YO-04-3	地域在住の中老年女性においてロコモティブシンドロームと睡眠の質の低下の組み合わせは転倒の発生と関連する		加藤 倫卓
	常葉大学		
YO-04-4	有料老人ホームにおける Standing test for Imbalance and Disequilibrium (SIDE) を用いた転倒予防策の検討		大和 諭志
	株式会社ハイメディック		
YO-04-5	大腿骨骨折入院患者における転倒予防の盲点～転倒リスクが高い状態で転倒件数が多いとは限らない～		井上 靖悟
	東京湾岸リハビリテーション病院		
YO-04-6	当院における転倒転落アセスメントシートの予測精度		佐藤 瑞騎
	JA 秋田厚生連 大曲厚生医療センター		

10月28日 (土)	9:10~10:10	予防口述 5 (サービス)	多目的会議室 B (H会場; セミナー会場)
	座長： 大谷 道明 (来歩リハビリステージ)		
	世古 俊明 (北海道千歳リハビリテーション大学)		
YO-05-1	八王子市総合事業における通所型短期集中予防サービスの実施 ～面談による介護予防の効果～		豊田 平介
	医療法人社団永生会		
YO-05-2	COVID-19 流行期における通所型サービス C 利用前後の身体的変化		井上 玲花
	社会医療法人 青洲会 福岡青洲会病院		
YO-05-3	通所リハビリ施設内での STEP UP 式歩行自主リハビリの取り組み		江連 亜弥
	介護老人保健施設シルバーケア敬愛		
YO-05-4	通所リハビリテーション利用者の歩行速度変化に影響を与える併存疾患指数の調査		田井 将彦
	イムス札幌内科リハビリテーション病院		
YO-05-5	介護予防・日常生活支援総合事業 (訪問型短期集中予防サービス: 訪問型サービス C) の利用を開始した地域在住高齢者を担当した経験		渡邊 大貴
	筑波大学医学医療系		
YO-05-6	通所型サービス C (短期集中予防サービス) における運動指導の効果		梅尾 潤一
	合同会社リアングループ		

**10月28日 (土) 11:30~12:30 予防口述 6 (介護予防) 多目的会議室 B (H会場; セミナー会場)**

座長： 杉 輝夫 (太田和湘南ホーム デイサービスセンター)

南雲 光則 (自治医科大学附属病院)

- YO-06-1 地域高齢者に対するオンライン運動プログラムの効果の検討—質的研究—  
早稲田大学大学院スポーツ科学研究科 大井 嘉七美
- YO-06-2 体組成がフレイルに与える影響：システマティックレビュー  
広島大学大学院 濱田 和明
- YO-06-3 札幌市の通いの場に参加する後期高齢者と超高齢者における心身機能の比較  
医療法人脳神経研究センター新さっぽろ脳神経外科病院 佐藤 佑太郎
- YO-06-4 膝痛予防教室における膝痛改善者の特徴～心理的要因に着目した調査～  
苑田第三病院 大坂 祐樹
- YO-06-5 高齢者における相対的立ち上がりパワーと、施設内歩行能力の関連性及びフリーハンド・杖歩行自立のカットオフ値の検討  
いの町立介護老人保健施設仁淀清流苑 池本 祐貴
- YO-06-6 介護老人保健施設入所者における食堂の座席で起立運動を反復できる回数とフロア内歩行の関係  
湘南医療大学 大村 優慈

**10月29日 (日) 12:20~13:20 予防口述 7 (介護予防) 武道館 1 (E会場; 講演会場)**

座長： 岡崎 可奈子 (福島県立医科大学)

染谷 和久 (霞ヶ関南病院)

- YO-07-1 東日本大震災地域の通いの場に参加する高齢者における社会的つながりと心理社会的な変化との関連  
ロッツ株式会社 リハ特化型訪問看護ステーションさんぽ 藤原 和志
- YO-07-2 通いの場に参加する地域在住高齢者における主観的健康感が低下した者の特徴  
イムス札幌消化器中央総合病院 渡邊 康介
- YO-07-3 回復期リハビリテーション病棟退院後の Life Space Assessment に影響を与える因子の検討  
丸木記念福祉メディカルセンター 神林 宏汰
- YO-07-4 札幌市南区の介護予防事業の効果検証～体力測定間の期間に着目して～  
定山溪病院 河野 伸吾
- YO-07-5 要支援高齢者における社会的フレイルの有無による健康関連 QOL の差異  
令和健康科学大学 北村 匡大
- YO-07-6 介護老人保健施設入所者における身体活動量に関連する因子の検討  
医療法人協和会介護老人保健施設ウエルハウス協和 増田 裕里

**10月29日 (日) 13:30~14:30 予防口述8(ロコモ) 武道館1 (E会場; 講演会場)**

座長： 白谷 智子 (苑田第二病院)

森田 泰裕 (埼玉医科大学保健医療学部)

- YO-08-1 Timed up and go testにおけるロコモティブシンドローム症例の下肢キネマティクスの特徴 - 傾向スコアマッチングによる比較 -  
北海道医療大学病院 片岡 義明
- YO-08-2 3年間の運動習慣は身体機能に影響を及ぼすか  
倉敷中央病院 山本 諒
- YO-08-3 ロコモ健診を受診した高齢者における身体機能の経時的変化  
倉敷中央病院 白石 明継
- YO-08-4 ロコモ健診者における新型コロナウイルス感染症流行前後の身体機能の変化 ~性別毎の3年間の追跡調査~  
公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院 浦谷 明宏
- YO-08-5 八雲町の学童保育所に通う児童の子どもロコモ実態調査  
八雲総合病院 山川 健太
- YO-08-6 ロコモティブシンドロームとサルコペニアの有病率：横断的研究  
釘宮整形外科リハビリクリニック 佐藤 一樹

**10月29日 (日) 11:10~12:10 予防口述9(ヘルスプロモーション) 武道館2 (F会場; 講演会場)**

座長： 酒井 吉仁 (富山医療福祉専門学校)

豊田 平介 (医療法人社団永生会 法人本部広報連携・地域支援事業部)

- YO-09-1 健康被害予防のためのストレスコーピングと社会関連資本の重要性 - コロナウィルスとの共存生活に向けて -  
北海道千歳リハビリテーション大学 世古 俊明
- YO-09-2 日本人若年者における運動の頻度、強度の違いとパートナーを伴う運動習慣は、便秘と負の関連にある  
山形県立保健医療大学 渡部 潤一
- YO-09-3 60歳以上の中高齢者における勇気ある思考や行動と主観的健康感との関連性  
九州看護福祉大学 谷口 善昭
- YO-09-4 「高齢期の性的活発性は、心身に有益である」という考えは教育期間と性的行動の因果関係のうち、どの程度説明するのか：操作変数法を用いた因果媒介分析  
山形大学 池田 登顕
- YO-09-5 腰椎固定術患者の術前傍脊柱筋脂肪浸潤は ODI の PASS 達成可否の予測要因になる - 体幹筋力を含めた検討 -  
苑田第三病院 渡邊 瑛祐
- YO-09-6 他者との運動実践が高齢者の運動継続に及ぼす影響とその心理的メカニズムの検証  
大阪リハビリテーション専門学校 太田 幸志

**10月29日 (日) 13:30~14:30 予防口述 10(フレイル) 武道館 2 (F会場;講演会場)**

座長： 齋木 しゅう子 (東北福祉大学)  
尾崎 泰 (大阪府済生会中津病院)

- YO-10-1 フレイル患者における occiput-to-wall distance (OWD) との関連について  
セコメディック病院 天尾 辰也
- YO-10-2 地域別にみた新型コロナウイルス流行前後のフレイルおよび基本チェックリスト下位項目該当割合の推移  
貴志川リハビリテーション病院 寺田 侑真
- YO-10-3 補完代替リハビリテーションを用いた入院患者の活動低下予防に対する効果検証  
長崎県島原病院 林田 晃典
- YO-10-4 地域在住高齢者における健康管理アプリ使用とプレフレイルの関連性について  
大阪河崎リハビリテーション大学 今岡 真和
- YO-10-5 フレイル予防事業における専門職らによる講義およびヘルスリテラシーの評価をはじめとする介入効果  
社会福祉法人こうほうえん錦海リハビリテーション病院 烏谷 香蓮
- YO-10-6 東京都足立区在住高齢者における歩行速度低下の因子の検討  
船橋総合病院 中島 葵衣

**10月29日 (日) 8:50~9:50 予防口述 11(サルコ) 多目的会議室 A (G会場;セミナー会場)**

座長： 川口 徹 (青森県立保健大学)  
新井 健一 (さいたま赤十字病院)

- YO-11-1 重症サルコペニアを併存する SBMA への HAL リハビリで運動機能が改善した 1 症例 – 2 年間の経時的変化 –  
近畿大学病院 脇野 昌司
- YO-11-2 うつ徴候と身体活動がサルコペニアの進行に及ぼす影響  
国立長寿医療研究センター 山口 亨
- YO-11-3 サルコペニアを有する骨関節疾患患者の退院後サービスの検討  
愛仁会リハビリテーション病院 池上 泰友
- YO-11-4 回復期リハビリテーション病院における脳卒中患者の退院時サルコペニア関連評価の比較  
赤羽リハビリテーション病院 吉田 優斗
- YO-11-5 医原性サルコペニアを有する高齢呼吸器疾患患者において Covid-19 隔離下のセルフエクササイズの実施が運動耐容能維持につながった 1 症例  
トヨタ記念病院 大野 真志
- YO-11-6 当院糖尿病患者のサルコペニア有病率とその傾向について  
筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター JA 茨城県厚生連総合病院 水戸協同病院 浜 健太郎

10月29日 (日) 13:30~14:30 予防口述 12(スポーツ) 多目的会議室 A (G会場; セミナー会場)

座長： 古後 晴基 (令和健康科学大学)  
笠原 岳人 (仙台大学)

- YO-12-1 投手経験年数が浅指屈筋と尺側手根屈筋の筋厚に与える影響  
広島大学 貝塚 峻輔
- YO-12-2 当院の小・中学生に対する野球肘検診の取り組み  
北海道医療大学病院 山根 将弘
- YO-12-3 野球選手における腰痛発症に関わる下肢柔軟性の検討  
郡山健康科学専門学校 十文字 雄一
- YO-12-4 腱板修復術後の再断裂に影響を与える日常動作の調査  
岐阜大学医学部附属病院 四井 康喬
- YO-12-5 腰椎変性疾患術後患者のスポーツ・レクリエーション活動中に腰痛を出現させないための身体機能の基準  
苑田第三病院 古谷 英孝
- YO-12-6 中学生に対する運動器障害の調査—Non-AKP 群の 5 か月後の変化に着目して—  
東北文化学園大学大学院 秋田 遥駿

10月29日 (日) 13:30~14:30 予防口述 13(疾患別) 多目的会議室 B (H会場; セミナー会場)

座長： 杉本 諭 (東京国際大学)  
金子 秀雄 (国際医療福祉大学)

- YO-13-1 Modified Prone Press Up Test の脊柱伸展可動性評価指標としての妥当性の検討  
医療法人社団 山樹会 平山医院 竹内 光
- YO-13-2 急性期病院における高齢大腿骨骨折患者の意欲と FIM 効率との関連性の検討  
医療法人社団 永生会 南多摩病院 伊藤 春佳
- YO-13-3 脳梗塞の病型が再発リスク指標の精度に及ぼす影響  
健康科学大学 福田 京佑
- YO-13-4 The Low Physical Activity Questionnaire 日本語版によって血液透析患者の身体活動量の管理目標値は判別可能か  
北里大学大学院 山部 早智
- YO-13-5 胃がん患者における術後 6 ヶ月での運動耐容能低下に及ぼすリスク因子の検討  
旭川医科大学病院 高山 拓也
- YO-13-6 遷延性術後痛のリスクがある人工膝関節全置換術後患者に対する患者教育の効果  
広島大学大学院 西元 淳司

10月28日 (土) 14:00~15:00 予防ポスター 1(転倒) メインアリーナ (ポスター会場)

座長： 竹内 弥彦 (城西国際大学)

- YP-01-1 回復期病棟における入院時の重度サルコペニアの評価と複数回転倒の関連性  
社会福祉法人 こうほうえん 錦海リハビリテーション病院 足立 睦未
- YP-01-2 『当院呼吸器内科病棟の転倒・転落アセスメントシートの有用性』～入院時に転倒・転落の予測は可能か～  
春日井市民病院 黒田 大智
- YP-01-3 当院回復期リハビリテーション病棟における転倒転落の現状分析  
医療法人社団 白峰会 湖南病院 上村 忠正
- YP-01-4 当院回復期リハビリテーション病棟における入棟時 FIM と転倒の関係と特徴  
社会医療法人 緑泉会 米盛病院 福永 将大
- YP-01-5 介護付きホームにおける転倒に関するコホート研究 ～予測因子の関連性と予防戦略の確立を目指して～  
株式会社 アズパートナーズ 小川 康弘

10月28日 (土) 15:10~16:10 予防ポスター 2(運動器) メインアリーナ (ポスター会場)

座長：神戸 晃男 (東京国際大学)

- YP-02-1 大腿骨近位部骨折患者における褥瘡発生に関わる因子の検討  
医療法人社団永生会南多摩病院 田井 啓太
- YP-02-2 急性期病院における FLS 委員会の立ち上げとその成果について  
医療法人大植会葛城病院 西川 正一郎
- YP-02-3 超高齢大腿骨近位部骨折を呈した患者の病棟内歩行に影響する因子の検討 ~入院時のリハビリ評価に着目して~  
小金井リハビリテーション病院 鍛治 宏宣
- YP-02-4 後外側骨片を伴う大腿骨転子部骨折の歩行予後  
トヨタ記念病院 杉田 久洋
- YP-02-5 回復期リハビリテーション病棟の高齢整形外科疾患患者における ADL 自立と加速度計付活動量計を用いた身体活動持続時間との関係 —横断研究—  
公益財団法人結核予防会新山手病院 清水 智子
- YP-02-6 変形性股関節症患者における改訂版 Frenchay Activities Index に影響する要因：横断研究  
日本赤十字社和歌山医療センター 高根 良輔

10月28日 (土) 16:20~17:20 予防ポスター 3(転倒) メインアリーナ (ポスター会場)

座長：早間 雄貴 (今市病院)

- YP-03-1 退院 1 か月後の転倒状況の把握~在宅支援に向けて~  
医療法人社団 銀緑会 みどり野リハビリテーション病院 風間 健二
- YP-03-2 理学療法ハンドブックを用いた転倒予防教室の効果  
黒木記念病院 山村 哲仁
- YP-03-3 在宅要介護高齢者の転倒要因についての考察—転倒予防自己効力感と注意・遂行機能に着目して—  
武庫川女子大学大学院 高木 遼大
- YP-03-4 転倒恐怖感を認める要介護高齢者は自己の身体能力を誤認識している  
介護老人保健施設 三方原ベテルホーム 池田 圭介
- YP-03-5 理学療法中に理学療法士が陥りやすい不安全行動の調査：事故発生要因を心理学の視点でカテゴリー分析  
一般財団法人 多摩緑成会 緑成会病院 小林 昂将

10月28日 (土) 14:00~15:00 予防ポスター 4(転倒) メインアリーナ (ポスター会場)

座長：平瀬 達哉 (神奈川県立保健福祉大学)

- YP-04-1 訪問リハビリテーション利用者における転倒経験と現在の生活機能、心身機能の関係：パイロットスタディ  
医療創生大学 佐藤 惇史
- YP-04-2 回復期リハビリテーション病棟患者における退院後の転倒の実態と関連要因の検討  
公益財団法人仁泉会北福島医療センター 高橋 祥子
- YP-04-3 通所型サービス C の参加者に対する転倒予防と、本人の望む生活の継続が自宅訪問にて図れた一事例  
医療法人 石和温泉病院 原田 智史
- YP-04-4 通所型サービス C における面談主体の自立支援が身体機能や QOL に与える効果：予備的研究  
医療法人社団誠和会長谷川病院 宇野 隼人
- YP-04-5 通所型短期集中予防サービス利用者の新たな社会参加獲得に関する検討  
永生クリニック 安藤 達也

10月28日 (土) 15:10~16:10 予防ポスター 5(実践活動) メインアリーナ (ポスター会場)

座長： 實延 靖 (介護老人保健施設葵の園・広島空港)

- YP-05-1 運動器疾患患者に対するメディカルフィットネスの有効性の検討  
浜松市リハビリテーション病院 山下 徹
- YP-05-2 病院所属の理学療法士派遣による自費リハビリテーションの事業展開  
浜松市リハビリテーション病院 松本 武士
- YP-05-3 地域ケア会議を活用して住民主体の介護予防活動へと至った経験ー専門職支援の在り方に関する考察ー  
社会福祉法人 札幌市社会福祉協議会 千葉 望
- YP-05-4 ICT を活用した遠隔支援により、デイサービスにおける自立支援の機能強化を目指した取り組み  
あけぼの診療所 中瀬 咲子
- YP-05-5 栃木刑務所における理学療法士としての実践報告  
一般社団法人巨樹の会 新上三川病院 村中 大樹
- YP-05-6 軽度認知機能障害が疑われる地域在住高齢者のフレイルの容態ー地域包括支援センターによるイレブンチェックの活用と検討ー  
大和蒲町地域包括支援センター 菅原 智裕

10月28日 (土) 16:20~17:20 予防ポスター 6(実践活動) メインアリーナ (ポスター会場)

座長： 田中 真一 (令和健康科学大学)

- YP-06-1 介護予防リーダー養成講座 10年間の実践報告  
東京都健康長寿医療センター研究所 関口 晴子
- YP-06-2 病棟に勤務する理学療法士と作業療法士が新型コロナ禍にオンライン対応した予防活動は地域住民に良好な評価を得た  
鶴岡協立リハビリテーション病院 酒井 尚子
- YP-06-3 静岡県賀茂圏域における地域リハビリテーション事業の現状と課題  
医療法人社団健育会 熱川温泉病院 小山内 隆
- YP-06-4 15年間に於ける朝のラジオ体操会参加者と体力測定会を協働した経験  
医療法人社団清泉会山王リハビリ・クリニック 鹿内 誠也
- YP-06-5 地域ケア会議から抽出した課題ー地域高齢者の外出支援に対する活動報告  
医療法人横浜平成会 平成横浜病院 小田 眞知子

10月28日 (土) 14:00~15:00 予防ポスター 7(地域) メインアリーナ (ポスター会場)

座長： 山科 吉弘 (藍野大学)

- YP-07-1 ウォーキング嗜好高齢者の体力・運動能力の傾向  
東前橋整形外科病院 神田 岳
- YP-07-2 札幌市南区在住高齢者の身体機能の現状について  
定山溪病院 土居 美郷
- YP-07-3 地域在住高齢者における足部痛による活動制限の疫学研究：系統的レビュー  
帝京平成大学 仲 貴子
- YP-07-4 住み慣れた地域における社会参加は IADL の自立と社会孤立の改善に有効である  
医療法人社団永生会永生クリニック 袴田 真幸
- YP-07-5 地域で活動できる姿勢推定ライブラリを基盤とした動作解析システムの開発  
信州大学大学院 井ノ上 真白
- YP-07-6 岡山県真庭郡新庄村における日常生活と健康に関する調査 (第1報)  
奈良学園大学 笹野 弘美

10月28日 (土) 15:10~16:10 予防ポスター 8(介護) メインアリーナ (ポスター会場)

座長：星 真行 (福島県立医科大学)

- YP-08-1 PEO モデルを用いた介入により介護保険サービスの利用終了に至った事例  
株式会社 ARCE 上原 大基
- YP-08-2 介護予防教室の活動報告～オリジナルエクササイズの効果検証～  
八千代リハビリテーション病院 小河 一彦
- YP-08-3 介護予防における姿勢指導とその影響  
医療法人社団山斗会山中整形外科内科クリニック 尾崎 智之
- YP-08-4 離島における新型コロナウィルス感染症対策で ZOOM を活用した介護予防事業の取り組み  
新島村 武政 太
- YP-08-5 介護予防事業に対してチーム担当制で活動に当たった事例報告 ―講師毎の特色ある内容を活かす方策―  
ハーモニーナースステーション 成瀬 淳
- YP-08-6 福祉用具の活用は介護予防(自立支援)の即効薬  
有限会社望月彬也リハデザイン 望月 彬也

10月28日 (土) 16:20~17:20 予防ポスター 9(介護) メインアリーナ (ポスター会場)

座長：大沼 剛 (リハビリ推進センター(株))

- YP-09-1 要介護認定者における通いの場継続年数の違いによる心身機能の比較  
一般社団法人 谷津 圭祐
- YP-09-2 東京都足立区在住高齢者における活動量調査ならびに同居家族の有無に関連する生活機能の調査について  
帝京科学大学 奥田 裕
- YP-09-3 いきいき百歳体操簡易版の効果検証  
医療法人 八重瀬会 同仁病院 天久 拓哉
- YP-09-4 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施におけるフレイルの特性と関係性  
介護老人保健施設日高の里 小宮山 隼也
- YP-09-5 フレイル予防教室の効果－ 3 期の教室参加者の傾向－  
上牧温泉病院 高橋 慎弥
- YP-09-6 フレイル予防・高血圧重症化予防教室参加者の体力変化について－ 2022 年度の報告－  
上牧温泉病院 恩田 彩加

10月28日 (土) 14:00~15:00 予防ポスター10(ヘルスプロモーション) メインアリーナ (ポスター会場)

座長：小林 茂 (宝塚医療大学 和歌山保健医療学部)

- YP-10-1 健常成人に対するスクワットとストレッチが指床間距離に及ぼす即時的影響  
苑田第二病院 白谷 智子
- YP-10-2 生活習慣病リスクのある就労年代層を対象とした健康行動に基づいたクラスタリングの試み：潜在クラス分析を用いた検討  
株式会社 PREVENT 三木 貴弘
- YP-10-3 加齢に伴う歩行能力低下に対して実行・継続可能性に着目したトレーニング設定が奏効した 1 症例  
東京警察病院 廣瀬 アヤ
- YP-10-4 温泉と運動を主としたヘルスツーリズムにおける活動報告  
伊豆高原メディカルたかやなぎ整形外科 植田 慎矢
- YP-10-5 軽負荷全身運動デバイスおよび歩行機能増進特化型トレーニング (walkey) の開発  
朝日インテック株式会社 鹿子 泰宏

10月28日 (土) 15:10~16:10 予防ポスター 11(サルコ) メインアリーナ (ポスター会場)

座長：石井 英理 (鳴門山上病院)

- YP-11-1 後期高齢者の質問票を用いたフレイル判定およびフレイルと質問票下位項目との関連について  
札幌西門山病院 松岡 寛樹
- YP-11-2 簡易式基本動作チェック表における予測妥当性の検討  
医療法人 珪山会 鶴飼病院 浦田 祥吾
- YP-11-3 低骨密度、低筋肉量の重複が地域在住高齢者のフレイル、ロコモティブシンドロームに与える影響  
埼玉医科大学総合医療センター 久喜 啓誉
- YP-11-4 地域在住フレイル者への簡易歩行ロボットのアプローチ効果 - 無作為化比較試験 -  
順天堂大学 掛川 圭
- YP-11-5 当施設利用者の身体機能低下に影響する要因の調査～握力・歩行評価による検討～  
株式会社まつもと薬局 中島 裕介
- YP-11-6 フレイル予防・高血圧重症化予防教室参加者の血圧変化について  
上牧温泉病院 猪股 伸晃

10月28日 (土) 16:20~17:20 予防ポスター 12(サルコ) メインアリーナ (ポスター会場)

座長：上出 直人 (北里大学医療衛生学部)

- YP-12-1 covid-19 発症後、廃用症候群となった一症例 ～当院回復期リハビリテーション病棟におけるチームアプローチ～  
大浜第二病院 三笥 雅史
- YP-12-2 介護予防教室自粛期間中のフレイル状態の比較 Fried frailty phenotype questionnaire を用いた検討  
医療法人 相生会 新吉塚病院 鬼木 貴也
- YP-12-3 回復期リハビリテーション病棟における実績指数の要因検討  
医療法人五葉会 城南病院 久保 大地
- YP-12-4 ロコモ度テストのみでは見過ごされてしまうサルコペニア陽性者の要因分析  
公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院 山本 遼
- YP-12-5 高齢者の BMI と身体活動量および運動の実施状況との関係 - 「スポーツ・ライフデータ 2022」の二次分析 -  
国際医療福祉大学 大武 聖

10月28日 (土) 14:00~15:00 予防ポスター 13(感染) メインアリーナ (ポスター会場)

座長：岩田 健太郎 (神戸市立医療センター中央市民病院)

- YP-13-1 コロナ禍における地域在住健常高齢者の運動習慣がもたらすもの  
秋田大学大学院 若狭 正彦
- YP-13-2 幼児期における遊びの現状と活動量について保護者への web アンケート調査による検討 - 新型コロナウイルス 3 年を向えて -  
豊橋創造大学大学院 前田 明子
- YP-13-3 新型コロナウイルス感染症患者専用病棟入院患者に対する在宅復帰予測のための Clinical Frailty Scale の有用性  
国立長寿医療研究センター 川村 皓生
- YP-13-4 回復期リハビリテーション病棟入院患者における COVID-19 クラスター前後でのバランス機能と歩行能力の変化  
ねりま健育会病院 岸下 亜希子
- YP-13-6 新型コロナウイルス (COVID-19) の流行による当院リハビリテーション科の患者数の推移、出勤停止措置の調査  
羊ヶ丘病院 工藤 篤志

10月28日 (土) 15:10~16:10 予防ポスター14(栄養嚥下) メインアリーナ (ポスター会場)

座長：吉田 剛 (高崎健康福祉大学)

- YP-14-1 地域在住高齢者のサルコペニア・ダイナペニアと呼吸機能、口腔機能の関係性と特徴  
順天堂大学大学院 千葉 うらら
- YP-14-2 高齢誤嚥性肺炎患者における入院時身体機能と在院日数の関連性  
マツダ株式会社マツダ病院 高野 英祐
- YP-14-3 地域在住自立高齢者の舌圧は下肢機能と関係する：横断的観察研究  
北里大学 安藤 雅峻
- YP-14-4 通所介護施設における嚥下機能のスクリーニング評価の重要性 - 自覚症状と嚥下機能の誤差での検証 -  
株式会社ルネサンス 大暉 櫻井
- YP-14-5 外来栄養指導患者のサルコペニアに影響する要因と理学療法介入の方向性  
金沢市立病院 大坪 尚典

10月28日 (土) 16:20~17:20 予防ポスター 15(認知症) メインアリーナ (ポスター会場)

座長：村山 明彦 (群馬医療福祉大学)

- YP-15-1 血液透析患者に対する二重課題が注意・遂行機能に及ぼす影響  
群馬医療福祉大学 浅野 貞美
- YP-15-2 地域在住高齢者における認知機能簡易チェックリストの開発とその妥当性の検証  
順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター 國枝 洋太
- YP-15-3 地域包括支援センター主催による認知症予防教室の実践報告  
松戸市立総合医療センター 藤曲 利弘
- YP-15-4 住民主体の自主活動グループの立ち上げを目的とした認知症予防教室の取り組みと自主活動グループの活動報告  
医療法人社団銀緑会 みどり野リハビリテーション病院 長内 祥太郎
- YP-15-5 軽度認知症患者におけるコグニバイクの活用が身体・認知機能に与える影響について～回復期リハビリテーション病棟における効果検証～  
JA 静岡厚生連 遠州病院 山下 裕太郎
- YP-15-6 介護老人保健施設入所超高齢者の筋肉量、脂肪量変化は認知症の有無によって異なる  
国際医療福祉大学大学院 沼口 峻也

10月29日 (日) 10:00~11:00 予防ポスター 16(運動器) メインアリーナ (ポスター会場)

座長：飛永 浩一朗 (誠愛リハビリテーション病院)

- YP-16-1 当院職員に対する腰痛対策事業が腰痛の予防ならびに改善におよぼす影響  
重工記念長崎病院 篠原 晶子
- YP-16-2 腰痛を有する看護・介護職員に対する運動機能テストの取り組み ～ motor control テストに着目した評価項目の検討～  
社会医療法人慈恵会 聖ヶ丘病院 羅津 涼太
- YP-16-3 腰痛の際に患者は理学療法士に何を求め、どのような腰痛に対するセルフマネージメントをしているか？：質的研究  
埼玉県立大学 伊藤 晴紀
- YP-16-4 腰痛を有する看護・介護職員に対する運動機能テストの取り組み ～アンケート調査による取り組み効果の検討～  
社会医療法人慈恵会 聖ヶ丘病院 成兼 結
- YP-16-5 内容分析手法を用いた形態素解析と構文分析及び共起分析の提案－仕事と腰痛のツイートデータを例として－  
千葉大学、法政大学 原田 裕輔

10月29日(日) 11:10~12:10 予防ポスター17(サービス) メインアリーナ(ポスター会場)

座長：小林 聖美(つくば国際大学医療保健学部)

- YP-17-1 当通所リハビリで心身機能の低下に関与する因子とは - 4年間の経過を後ろ向き調査 -  
敬愛会 介護老人保健施設シルバーケア敬愛 瀧澤 快至
- YP-17-2 当通所リハビリは在宅生活の延長に寄与できているのか - 4年間の経過を後ろ向き調査 -  
介護老人保健施設 シルバーケア敬愛 加藤 友希
- YP-17-3 介護予防のための地域ケア個別会議有用化に関する横断的研究 - 第2報 -  
医療法人瑞心会渡辺病院 壹岐 英正
- YP-17-4 通所介護を週に3回以上利用し運動療法を継続することにより歩行率の変動が減少する  
湘南ホーム 杉 輝夫
- YP-17-5 通所型サービスC利用者の基本チェックリスト項目間の関連について  
金沢大学 横川 正美
- YP-17-6 リハビリテーション専門職によるデイサービススタッフに対する遠隔支援が利用者の心身機能に及ぼす影響  
目白大学 新井 武志

10月29日(日) 12:20~13:20 予防ポスター18(運動器) メインアリーナ(ポスター会場)

座長：福嶋 篤(公益社団法人 北海道理学療法士会)

- YP-18-1 人工膝関節全置換術後に短期間で身体機能が低下した患者の特徴～術前因子からの探索～  
苑田会人工関節センター病院 田中 友也
- YP-18-2 変形性膝関節症を有する高齢患者の座位行動パターンの記述疫学  
長谷川病院 長澤 康弘
- YP-18-3 人工膝関節置換術後の1日あたりの座位時間とパフォーマンステストとの関連  
苑田会人工関節センター病院 島根 幸依
- YP-18-4 回復期整形外科疾患患者の身体活動量と歩行時の疼痛の関連性  
千里中央病院 井戸田 弦
- YP-18-5 運動器疾患患者における初期評価による退院時の階段昇降可否要因の検討  
医療法人社団 小金井リハビリテーション病院 山田 亮佳
- YP-18-6 悪性骨腫瘍複数回再発により下腿切断となったが人工脛骨断端での義足歩行を獲得した症例について  
大阪国際がんセンター 富士 佳弘

10月29日(日) 10:00~11:00 予防ポスター19(運動器) メインアリーナ(ポスター会場)

座長：矢野 秀典(目白大学)

- YP-19-1 頸椎症性神経根症患者の座位姿勢に着目し、股関節の機能改善により疼痛が軽快した一例  
熊本リハビリテーション病院 赤崎 将太
- YP-19-2 高齢な腰椎術後患者における生活空間の経時的変化  
苑田第三病院 岡崎 陽海斗
- YP-19-3 手術前のpainDETECTとCentral Sensitization Inventoryは腰部脊柱管狭窄症術後3ヶ月の成績を予測するか？  
志匠会白山クリニック 岩崎 麟太郎
- YP-19-4 腰椎術後の遺残症状によりうつ状態にあった一例 -COPMを用いた目標設定と多面的介入による痛みの難治化予防 -  
東馬込しほ整形外科 佐々木 隆紘
- YP-19-5 RA患者に対する介護保険利用状況の変遷 - 過去10年間のTKA施行症例において -  
田窪リウマチ・整形外科 阿部 敏彦

10月29日 (日) 11:10~12:10 予防ポスター 20(中樞) メインアリーナ (ポスター会場)

座長：鈴木 良和 (北里大学病院)

- YP-20-1 回復期リハビリテーション病院退院時の脳卒中患者におけるサルコペニアと転倒関連自己効力感の関連  
赤羽リハビリテーション病院 小池 将
- YP-20-2 血液透析患者におけるオステオサルコペニアが抑うつ症状に与える影響：4年間の前向きコホート研究  
北里大学大学院 吉越 駿
- YP-20-3 急性脳卒中/TIA 発症後自宅退院患者の3か月後のIPAQを過小評価する患者の特徴  
国立循環器病研究センター 山下 遥
- YP-20-4 当院回復期リハ病棟に入棟した脳卒中者における骨格筋指数の変化とリハ効果  
旭川リハビリテーション病院 伊藤 一成
- YP-20-5 パーキンソン病患者に対するヘルスプロモーションに関する取り組み  
福井赤十字病院 岡崎 雅樹

10月29日 (日) 12:20~13:20 予防ポスター 21(内部) メインアリーナ (ポスター会場)

座長：小川 明宏 (東邦大学医療センター佐倉病院)

- YP-21-1 高齢心不全患者のSPPBには前頭葉機能が関連する  
湘南藤沢徳洲会病院 小林 直樹
- YP-21-2 保存期慢性腎臓病患者における生体電気インピーダンス法によるPhase angleと身体機能の関連について  
市立池田病院 横山 遥香
- YP-21-3 外来心臓リハビリテーション患者の再入院の要因における推算式を用いた骨格筋量の臨床的意義の検討  
医療法人社団苑田会 苑田第三病院 山下 耕平
- YP-21-4 急性期病院入院患者におけるPhase angleと入院関連機能障害との関連性について -予備的検証-  
日本生命病院 白川 桂
- YP-21-5 高齢高血圧者は3か月間の体操で心血管系の循環動態が正常血圧者に近づいたか？  
姫路獨協大学 田中 みどり
- YP-21-6 高齢心臓血管外科患者の術前骨格筋機能と退院後1年間の再入院との関連  
戸田中央総合病院 佐藤 亘

10月29日 (日) 10:00~11:00 予防ポスター 22(内部) メインアリーナ (ポスター会場)

座長：池永 千寿子 (製鉄記念八幡病院)

- YP-22-1 急性期呼吸器疾患患者における骨格筋量指数の変化に影響する因子の検討  
公立藤岡総合病院 馬場 健太
- YP-22-2 経カテーテル大動脈弁留置術後、入院・外来での理学療法により身体機能が向上し、術後6年間在宅生活を継続出来ている症例  
東京都健康長寿医療センター 江渕 貴裕
- YP-22-3 スリーブ状胃切除術における減量入院後の手術待期間中は術前後の減量効果に影響するか？  
春日井市民病院 北村 健人
- YP-22-4 当院急性期病棟における入退院支援カンファレンスの効果と理学療法士の役割  
医療法人大植会 葛城病院 久保 清資
- YP-22-5 当院における小児呼吸理学療法介入状況を振り返って  
市立砺波総合病院 碓井 孝治
- YP-22-6 大動脈解離術後の通所介護利用者に対し、二重積屈曲点を用いた運動療法を行った一考察  
社会医療法人 天神会 江崎 康介

10月29日(日) 11:10~12:10 予防ポスター 23(健康) メインアリーナ(ポスター会場)

座長： 笹野 弘美(奈良学園大学)

- YP-23-1 コロナ禍における小学児童の柔軟性の変化について  
介護老人保健施設白藤苑 三浦 智玄
- YP-23-2 幼児期肥満と粗大運動発達の関連性  
郡山健康科学専門学校 安中 聡一
- YP-23-3 ヒップリフトエクササイズによる尿もれ改善効果についての検討  
東京都立大学 神尾 博代
- YP-23-4 月経痛の重症度別にみた暖かい衣服の着用頻度に関する調査  
広島大学大学院 吉荒 瑠莉奈
- YP-23-5 運動習慣のない女子大学生における不活動時間、中高強度の身体活動量は骨格筋量の低下と関連する  
福岡大学大学院 安齋 実穂

10月29日(日) 12:20~13:20 予防ポスター 24(健康) メインアリーナ(ポスター会場)

座長： 唐沢 和彦(原町赤十字病院)

- YP-24-1 若年男女におけるロコモティブシンドローム高リスクの該当割合と関連要因  
国際医療福祉大学病院 坂主 竜生
- YP-24-2 勤労世代の生活習慣と下肢筋力  
豊橋創造大学 辻村 尚子
- YP-24-3 自覚的強度を指標とした非最大努力による握力および膝伸展筋力の特徴  
湘南医療大学 大森 圭貢
- YP-24-4 コロナ禍における北海道在住大学生の抑うつ症状と関連要因  
北海道文教大学 水本 淳
- YP-24-5 コロナ禍における医療系大学生の運動習慣と精神的健康の実態調査  
東京保健医療専門職大学 重國 宏次
- YP-24-6 コロナ禍の大学生における体組成と運動機能の調査 - 高齢者ロコモの基準を用いた検討 -  
大阪河崎リハビリテーション大学 峰久 京子

10月29日(日) 10:00~11:00 予防ポスター 25(基礎) メインアリーナ(ポスター会場)

座長： 田中 和哉(帝京科学大学)

- YP-25-1 家庭用体組成計による筋量測定の結果は妥当か？  
北里大学 上出 直人
- YP-25-2 足底に貼付した伸縮性テーピングが片脚起立の実施可否に及ぼす影響  
株式会社麻生 飯塚病院 小樋 雅隆
- YP-25-3 年齢と姿勢制御の様式が方向転換動作の運動戦略に与える影響  
青森県立保健大学大学院 渋谷 佳彦
- YP-25-4 ダイナペニア高齢者の起立テストにおける運動学的特徴—OpenPose を利用した検討—  
北アルプス医療センターあづみ病院 野池 貫志
- YP-25-5 起立動作と立位における制御可能な骨盤移動距離との関連  
医療法人北辰会西条市民病院 尾藤 志帆
- YP-25-6 腹部引き込み運動における効果的な口頭指示について  
JA 新潟厚生連 新潟医療センター 渡邊 博史

10月29日(日) 11:10~12:10 予防ポスター 26(基礎) メインアリーナ(ポスター会場)

座長：深澤 雄希(医療法人 笹本会 おおさと通所介護)

- YP-26-1 体組成計の機種別測定差について  
公立大学法人 埼玉県立大学 井上 和久
- YP-26-2 慢性期病院におけるレンタルクッションのシステム導入について  
公益社団法人 福岡医療団 たたらリハビリテーション病院 山田 乃里子
- YP-26-3 腰背部への皮膚刺激ツール貼付による指床間距離への効果検討  
令和あらかわ病院 本田 伊織
- YP-26-4 緩消法の筋弛緩効果に対する諸要因の検討  
東京国際大学 杉本 諭
- YP-26-5 地域在住高齢者の降段動作の表現型は高度なバランス能力と筋力によって決定づけられる  
関西医科大学 田中 貴広

10月29日(日) 12:20~13:20 予防ポスター27(予防未来) メインアリーナ(ポスター会場)

座長：廣滋 恵一(九州栄養福祉大学)

- YP-27-1 Modified Prone Press Up Test の再現性の検討  
社会医療法人仁生会 西堀病院 佐藤 嶺
- YP-27-2 地域在住高齢者における立ち上がり能力に影響する骨格筋機能指標  
順天堂大学医学部附属浦安病院 武田 晃一
- YP-27-3 同時に複数の利用者へ運動を提供する体制の中で、運動機能向上を図るための工夫  
社会医療法人社団 堀ノ内病院 小林 崇邦
- YP-27-4 「ぶら体」の青年男子への効果検討  
医療法人財団 東京勤労者医療会 代々木病院 長澤 良介

10月28日 (土)	11:30~12:40	産業セレクション	小ホール (B会場;サブ会場)
座長： 明日 徹 (岡山医療専門職大学)			
佐藤 友則 (東北労災病院治療就労両立支援センター)			
SS-1	就業年代層における身体活動量と疾患管理に対する自己効力感との関連についての検討	株式会社 PREVENT	奈良 香菜子
SS-2	医療福祉複合施設における医療従事者と関連職種の腰痛の関連因子の検討	福井総合病院	久保 直之
SS-3	第三次産業に従事する高齢労働者における職業性転倒とフレイルとの関係	産業医科大学	松垣 竜太郎
SS-4	医療従事者における e ラーニングを活用した腰痛教育の効果 - 愛知県理学療法士会と協同で実践した腰痛対策 -	JA 愛知厚生連足助病院	田上 裕記

10月28日 (土)	10:20~11:20	産業口述 1 (健康)	小ホール (B会場;サブ会場)
座長： 野村 卓生 (関西医科大学)			
今井 祐子 (国際医療福祉大学)			
SO-01-1	新型コロナウイルス感染症流行前・流行中における医療従事者の運動習慣の変化と自己効力感の関連性：地域中核病院の職員を対象とした縦断研究	霧島市立医師会医療センター	福榮 竜也
SO-01-2	心不全入院患者の退院後，再入院するまでの日数に関連する因子の検討	東京警察病院	鈴木 伸治
SO-01-3	座位姿勢による頸部伸筋の経時的筋硬度変化～ Shear wave elastography を用いた計測～	北海道医療大学病院	新田 麻美
SO-01-4	腰痛と自己危険行動の関連—労働者を対象とした疫学研究—	国際医療福祉大学大学院	田村 拓之
SO-01-5	通所リハビリテーション利用者の就労状況と身体機能の調査	岩室リハビリテーション病院	野口 涼太
SO-01-6	高齢者の就労状況と 5 年後の要介護認定状況との関連：傾向スコアマッチング法による分析	城西国際大学	大杉 紘徳

10月29日 (日)	8:50~9:50	産業口述 2 (労働災害)	小ホール (B会場;サブ会場)
座長： 佐々木 嘉光 ((公社) 日本理学療法士協会)			
下田 栄次 (湘南医療大学)			
SO-02-1	産業保健領域における理学療法士の認知度調査	神戸労災病院	和中 秀行
SO-02-2	コロナ禍における特別支援学校職員の腰痛実態調査 ～ 3 年間の経時的変化～	運動器ケア しまだ病院	石川 大輔
SO-02-3	歯科衛生士における腰痛有症者の実態と関連因子	令和健康科学大学	森下 元賀
SO-02-4	化学工業従業員に対する転倒・腰痛対策	株式会社三菱総合研究所	川村 有希子
SO-02-5	ノーリフティングケア導入施設における腰痛の有訴率と痛みが出る作業場面との関連性の検討	榛名荘病院	立花 智也
SO-02-6	腰痛予防に着目したアクティブ・ラーニング型ヘルスリテラシー講義の効果	榛名荘病院	柳澤 海志

**10月28日 (土) 14:00~15:00 産業ポスター 1 (健康) メインアリーナ (ポスター会場)**

座長： 渡部 潤一 (山形県立保健医療大学)

- SP-01-1 頭頸部がん患者の治療と仕事の両立支援に関する介入 システマティックレビュー  
産業医科大学病院 船津 康平
- SP-01-2 消化器がん患者の治療と仕事の両立支援に関する介入 システマティックレビュー  
株式会社 SENSTYLE 樋口 周人
- SP-01-3 乳がん患者の治療と仕事の両立支援に関する介入 システマティックレビュー  
産業医科大学病院 村上 武史
- SP-01-4 婦人科がん患者の治療と仕事の両立支援に関する介入 ~システマティックレビュー~  
産業医科大学病院 久原 聡志
- SP-01-5 都道府県理学療法士会・作業療法士会を対象とした地域や職場における予防・健康づくり等  
へのリハビリテーション専門職の関わりや役割に関する調査  
公益社団法人日本理学療法士協会 佐々木 嘉光
- SP-01-6 中高年齢学校給食調理員に対する就労支援事業の活動報告 ~運動支援アプリケーション  
「リハサク」を使用した取り組み~  
岡山市立市民病院 谷中 則之

**10月28日 (土) 15:10~16:10 産業ポスター 2 (疾病) メインアリーナ (ポスター会場)**

座長： 山崎 重人 (マツダ株式会社 マツダ病院)

- SP-02-1 介護職員における仕事の支障度に関連する就労状況および腰痛関連因子の多角的分析ー連関  
分析を用いてー  
京都橋大学 重藤 隼人
- SP-02-2 病院内職員の腰痛に関連する因子の検討  
JR 仙台病院 田中 慎也
- SP-02-3 高齢女性直腸脱症例の脊柱アライメントからみた直腸脱の予防についての検討  
大腸肛門病センター高野病院 槌野 正裕
- SP-02-4 建設業に関わる現場作業員の身体的特性と労働生産性に関する探索的調査  
川崎病院 木村 倅晴
- SP-02-5 自宅系高齢者施設職員の心身状況の経時的変化について  
岡山医療専門職大学 明日 徹
- SP-02-6 スマートフォン使用時間と頸部屈曲角度の関連について ー理学療法学科学生を対象とした  
予備研究ー  
岡山医療専門職大学 明日 徹

**10月28日 (土) 16:20~17:20 産業ポスター 3 (その他) メインアリーナ (ポスター会場)**

座長： 田中 みどり (姫路獨協大学)

- SP-03-1 実習指導に対する自己効力感の低下によってワークエンゲージメントへ影響が生じた従業員  
へ実行したマネジメントの事例  
株式会社 ARCE 山 健斗
- SP-03-2 医療系学生における学生版プレゼンティーズム尺度と大学生生活不安尺度 (CLAS) の関係  
性  
大和大学白鳳短期大学部 藤本 昌央
- SP-03-3 産業保健領域における理学療法士のニーズ調査  
大和大学白鳳短期大学部 藤本 昌央
- SP-03-4 健康経営度調査を用いた健康経営に関わる理学療法士の普及実態  
株式会社三菱総合研究所 川村 有希子
- SP-03-5 製造業における産業理学療法  
長野保健医療大学 佐藤 剛章
- SP-03-6 医療職における主観的健康感と労働生産性に関する要因  
大阪急性期・総合医療センター 岡原 聡

**10月29日 (日) 10:00~11:00 産業ポスター 4(労働) メインアリーナ (ポスター会場)**

座長： 下曾山 香織 (介護老人保健施設 寿夢の郷)

- SP-04-1 当院介護・看護職員に対する職業性腰痛予防に向けた実態調査  
医療法人社団 朗愛会 こが病院 田中 亮人
- SP-04-2 介護職員における痛みと専門職アドバイス希望の調査  
仙台青葉学院短期大学 坂上 尚穂
- SP-04-3 当施設の看護・介護職員における腰痛の特徴と腰痛対策に関する課題についての検討  
医療法人並木会 介護老人保健施設メディコ阿久比 榊原 和真
- SP-04-4 腰痛予防の取り組み 廃棄物関連施設の職員に対して 第四報  
インターリハ株式会社 (株式会社リプレ) 大田 幸作
- SP-04-5 腰痛を有する労働者における慢性化有無での身体組成・身体機能の比較検討  
医療法人社団 いずみ会 北星病院 澤野 純平
- SP-04-6 メンタルヘルスケア対応、社員の生産性向上に寄与する“元気を取り戻す旅”の創出に向けたモニターツアーの試み  
一般財団法人 琉球生命済生会 琉生病院 喜瀬 真雄

**10月29日 (日) 11:10~12:10 産業ポスター 5(健康) メインアリーナ (ポスター会場)**

座長： 矢倉 千昭 (聖隷クリストファー大学)

- SP-05-1 外反母趾に対する舟状骨パッドの有用性を労働前後で検討した一症例  
済生会宇都宮病院 高野 直
- SP-05-2 産業理学療法士の育成を目的としたケースメソッド教育の教材開発の試み  
公益財団法人 豊田地域医療センター 木村 圭佑
- SP-05-3 理学療法士の運動指導により病院職員の運動習慣者が増加した取り組み—特定保健指導改定に向けて—  
医療法人徳洲会 札幌徳洲会病院 高橋 廣彰
- SP-05-4 安全衛生委員会が取り組む健康課題に理学療法士が貢献できる可能性  
医療法人徳洲会 札幌徳洲会病院 垣見 尚宏
- SP-05-5 日本人宇宙飛行士健康管理運用における バイオメディカルエンジニアおよび生理的対策担当業務実施報告  
有人宇宙システム株式会社 森 貴史
- SP-05-6 現役世代 (就労者) を対象とした運動器検診導入へ向けた取り組み  
堀江病院 青木 真也

**10月29日 (日) 12:20~13:20 産業ポスター 6(労働) メインアリーナ (ポスター会場)**

座長： 澤邊 泰 (大崎市民病院鹿島台分院)

- SP-06-1 リハビリテーション専門職の身体活動量調査  
医療法人社団 総合会 武蔵野中央病院 細井 匠
- SP-06-2 座位および立位での軽作業における主観的疲労感と筋活動量・筋疲労に関する実験研究  
帝京平成大学 徳田 良英
- SP-06-3 姿勢評価を用いた一次予防領域への介入  
医療法人社団山斗会 山中整形外科内科クリニック 藤田 由貴子
- SP-06-4 重度肢体不自由児が就学する普通小学校におけるリフト導入の効果  
びわこリハビリテーション専門職大学 川崎 浩子
- SP-06-5 自動車製造工場に勤務する労働者の転倒・転落予防事業への関わり  
コミュニティーホスピタル甲賀病院 石川 響
- SP-06-6 体組成の測定は従業員の生活習慣の見直しのきっかけになる  
整体&トレーニング Salud (サルー) 鈴木 翔

10月29日(日) 12:20~13:20 産業ポスター7(健康) メインアリーナ(ポスター会場)

座長：江戸 優裕(千葉県立保健医療大学健康科学部)

- SP-07-1 「あなたの更年期実態調査」結果報告～更年期不調とヘルスリテラシーの関連について  
山本記念病院 大塚 扶美
- SP-07-2 産業理学療法のエビデンス構築に向けた学術大会演題からみえる傾向分析―第1回～第5回日本産業理学療法研究会学術大会演題より  
名古屋女子大学 加藤 芳司
- SP-07-3 肥満脳卒中患者に対して共有意思決定に焦点を置き運動指導を行った一事例  
地方独立行政法人 市立吹田市民病院 松本 浩希
- SP-07-4 睡眠時間, 残業時間, 運動習慣, ストレスが慢性疼痛へ与える影響と業種別関連性  
三省会 堀江病院 渡 良太
- SP-07-5 東北大学産業医学研修会にて「腰痛対策」に関する講師を経験して  
東北大学病院 新國 悦弘
- SP-07-6 リハビリテーション専門職のためのリワークプログラムの取り組み  
札幌溪仁会リハビリテーション病院 秋元 健太郎



# 自由集会一覧

## 予防自由集会①

### 災害予防理学療法のエビデンス創出は可能か？

2023年10月28日(土) 17:30～18:30 大会議室(C会場；口述会場)

世話人：池田 登顕(山形大学医学部医療政策学講座)

## 予防自由集会②

### 古名丈人先生追悼記念集会「北海道の介護予防戦略と学び直し教育」

2023年10月28日(土) 17:30～18:30 武道館1(E会場；講演会場)

世話人：井平 光(札幌医科大学)

## 予防自由集会③

### メンタルヘルスの理学療法(こころの健康のための予防)

2023年10月28日(土) 17:30～18:30 武道館2(F会場；講演会場)

世話人：堀 寛史(びわこリハビリテーション専門職大学)

## 予防自由集会④

### 要配慮者の防災・減災を考える

2023年10月28日(土) 17:30～18:30 多目的会議室A(G会場；セミナー会場)

世話人：西山 知佐(名南病院)

## 予防自由集会⑤

### 0次予防と運動指導

2023年10月28日(土) 17:30～18:30 多目的会議室B(H会場；セミナー会場)

世話人：大淵 修一(東京都健康長寿医療センター研究所)

## 産業自由集会

### 保健文化賞を受賞された松平浩先生が提唱する 「新たな視点に立った職場の腰痛対策」

2023年10月28日(土) 17:30～18:30 展示室(D会場；口述会場)

世話人：高野 賢一郎(一般社団法人 働く人の健康と安全を守る会)

## 自由集会の日程

お申し込み・お問い合わせはホームページ・各代表世話人へご連絡ください。

### 第10回日本予防理学療法学会学術大会

10月28日(土) 17:30～18:30

集会名	会場・定員	世話人(所属)	代表世話人連絡先
① 災害予防理学療法のエビデンス創出は可能か?	C会場 (函館市民会館 大会議室) 定員: 300人	池田 登顕 (山形大学医学部医療政策学講座)	tikeda@med.id.yamagata-u.ac.jp
概 要			
2024年6月1日に開催予定の第8回日本予防理学療法学会 サテライト集会 in Fukushima のプレリミナリー企画です。災害予防理学療法分野を確立するための第一歩として、実績ある3名の講師をお呼びします。			

10月28日(土) 17:30～18:30

集会名	会場・定員	世話人(所属)	代表世話人連絡先
② 古名丈人先生追悼記念集会「北海道の介護予防戦略と学び直し教育」	E会場 (函館アリーナ 武道館) 定員: 200人	井平 光 (札幌医科大学)	ihira@sapmed.ac.jp TEL: 011-611-2111
概 要			
古名丈人先生(札幌医科大学保健医療学部教授)が2019年に逝去なされました。門下生やご縁の深かった方々にお集まり頂き、古名先生が歩んだ足跡を振り返りたいと思います。 共同主催者: 牧迫飛雄馬(鹿児島大学)			

10月28日(土) 17:30～18:30

集会名	会場・定員	世話人(所属)	代表世話人連絡先
③ メンタルヘルスの理学療法(こころの健康のための予防)	F会場 (函館アリーナ 武道館) 定員: 200人	堀 寛史 (びわこリハビリテーション専門職大学)	hiromumi@gmail.com TEL: 0749-46-2311
概 要			
メンタルヘルスの理学療法は、理学療法を用いて心理的な問題や身体の不調を改善します。しかし、この方法はあまり知られていません。予防の分野で有効な方法も多く、皆さんと一緒にメンタルヘルスについて対話したいと考えています。			

10月28日(土) 17:30～18:30

集会名	会場・定員	世話人(所属)	代表世話人連絡先
④ 要配慮者の防災・減災を考える	G会場 (函館アリーナ 多目的会議室A) 定員: 100人	西山 知佐 (名南病院)	chisa.24.may@gmail.com
概 要			
要配慮者(障害者・高齢者・小児・妊婦など)は災害から身を守るのが難しい場合が多く、健康被害や生活困難等も生じやすいため、これらを予防する観点で防災・減災の在り方を参加者の皆さんと一緒に考える予定です。			

10月28日(土) 17:30～18:30

集会名	会場・定員	世話人(所属)	代表世話人連絡先
0次予防と運動指導	H会場(函館アリーナ 多目的会議室B) 定員：100人	大淵 修一 (東京都健康長寿医療セ ンター研究所)	obuchipc@tmig.or.jp TEL：03-3964-3241 FAX：03-3964-1844
<b>⑤ 概 要</b>			
<p>二次予防が機能するには、地域で高齢者が承認される環境が求められる。それぞれの役割があつてこそその二次予防である。この自由集会では行動変容ステージの無関心期、関心期に焦点を当てて0次予防の意義を議論し、運動を媒介にどのような関わりができるのかディスカッションしたい。簡単な導入プレゼンテーションの後、グループワークで議論をファシリテーションしていく予定である。</p>			

## 第6回日本産業理学療法研究会学術大会

10月28日(土) 17:30～18:30

集会名	会場・定員	世話人(所属)	代表世話人連絡先
保健文化賞を受賞された松平浩先生が提唱する「新たな視点に立った職場の腰痛対策」	D会場 (函館市民会館 展示室) 定員：500人	高野 賢一郎 (一般社団法人 働く人の 健康と安全を守る会)	movement@cwa.bai.ne.jp
<b>① 概 要</b>			
<p>腰痛は、もっとも就労に影響を与える症状であり、労働生産性を低下させます。現状、アブセンティーズム、プレゼンティーズムとも第一位であり、健康寿命にも直結し、本邦における大きな社会課題といえますが、多くの事業主は仕方がないとあきらめているようです。腰痛予防と慢性腰痛の治療の両者に対し科学的検証から推奨される介入は、エクササイズのみであることを、産業保健、安全衛生に関わるすべてのステークホルダーが認識する必要があります。</p> <p>今回は労働安全衛生における腰痛を新たな視点からどのように捉えて対処していくべきかを第74回保健文化賞を受賞された松平浩先生より分かりやすくお話しいたします。腰痛などの疼痛疾患に縁の深い理学療法士には必須の情報と言えるでしょう。</p>			



# そ の 他

## イベント案内

本学術大会では、学術大会に参加される方だけでなく、ご家族も会場に来て楽しめるようさまざまなイベントも企画されています。ぜひ、家族そろってご来場ください！

**【開催場所：函館アリーナ (サブアリーナ2F)】**

### 【イベント内容】

#### ①【ボッチャ】を体験しよう！

障がい者スポーツとして人気の高いボッチャ。日本理学療法士協会も全国ボッチャ選抜甲子園を支援しています。独特のボールの感触、触れてみるチャンスです！

**開催日**：10月28日(土曜日) 11:00～15:30

**協力**：函館ボッチャ協会

#### ②【スポーツウエルネス吹矢】を体験しよう！

呼吸を整え、介護予防の視点でも注目を集めるスポーツウエルネス吹矢。的に向かって集中し、自らの呼吸に意識を向ける。学会の合間に、ふっと一息吹いてみませんか？

**開催日**：10月28日(土曜日) 11:00～15:30

**協力**：一般社団法人 日本スポーツウエルネス吹矢協会

#### ③【バルシューレ・ドッジボール】で交流しよう！（お子様が対象です ※事前申し込み）

ドイツ生まれのバルシューレを取り入れたボール遊びや、(ころがし)ドッジボールで函館の子どもたちと交流してみませんか？旅の思い出に、友達を作ろう！

**開催日**：10月29日(日曜日) 10:00～11:00(途中休憩あり)

**協力**：総合型潮スポーツクラブ

※①、②は直接会場へご来場いただいで体験となります。

③は事前申し込みとなります(申し込み先：yobougakkai.family@gmail.com)

学会参加者の氏名、会員番号、お子様の氏名、年齢を記載しお申込みください。

※必ずお子様だけでなく、大人のお連れ様とご来場ください。また、イベント内容は感染状況などに応じて、予告なく変更となる場合もございます。ご了承ください。



## 協賛ご芳名

### スポンサードセミナー

旭化成ホームズ株式会社  
インターリハ株式会社  
株式会社InfoDeliver  
株式会社カーブスジャパン  
花王株式会社  
酒井医療株式会社  
システム・インスツルメンツ株式会社  
CPC 株式会社  
住友理工株式会社  
セントラルスポーツ株式会社  
地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所  
株式会社バックテック  
パナソニックホールディングス株式会社  
マイクロストーン株式会社  
株式会社ルネサンス

### 企業展示

株式会社アコース  
インターリハ株式会社  
インテグラ株式会社  
株式会社 walkey  
ORPHE  
花王株式会社  
一般社団法人健康長寿支援センター  
酒井医療株式会社  
株式会社サプリム  
システム・インスツルメンツ株式会社  
セノー株式会社  
タック株式会社  
DUPLODEC 株式会社  
地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所  
東京の介護予防を進める高齢者の会

東洋レヂン株式会社  
株式会社トーカイ  
株式会社 4 DIN  
株式会社ホームイオン研究所  
マイクロストーン株式会社  
ミナト医科学株式会社  
株式会社ルシファ

### 書籍展示

有限会社 昭和書房

### 広告掲載

アーカイブティップス株式会社  
株式会社あかさか義肢  
株式会社アコース  
医歯薬出版株式会社  
株式会社 walkey  
カマチグループ  
一般社団法人健康長寿支援センター  
株式会社常光  
市立函館病院  
セノー株式会社  
医療法人大庚会 今整形外科  
ノボ ノルディスク ファーマ株式会社  
函館市医師会看護・リハビリテーション学院  
羽立工業株式会社  
目白大学保健医療学部理学療法学科,  
目白大学大学院リハビリテーション学  
学研究科

### 寄付

株式会社アコース  
アルケア株式会社  
EPS ホールディング株式会社  
株式会社InfoDeliver

花王株式会社  
株式会社カーブスジャパン  
カマチグループ  
一般社団法人健康長寿支援センター  
システム・インスツルメンツ株式会社  
株式会社太陽生命少子高齢社会研究所  
TDK 株式会社  
地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所  
一般社団法人日本スポーツウエルネス  
吹矢協会  
野村不動産ウエルネス株式会社  
羽立工業株式会社  
マイクロストーン株式会社  
株式会社メディカルシステムネットワーク

### 協力

総合型潮スポーツクラブ  
一般社団法人日本スポーツウエルネス  
吹矢協会  
函館ボッチャ協会

### 後援

公益社団法人日本歯科衛生士会  
一般社団法人日本老年医学会  
函館市  
公益社団法人函館市医師会  
一般社団法人函館歯科医師会  
一般社団法人函館薬剤師会  
公益社団法人北海道看護協会  
公益社団法人北海道理学療法士会

(敬称略/50音順/2023年8月25日現在)

マーカーレス&マーカーベース両対応型ハイブリッド・モーションキャプチャーの登場

# Hybrid mocap

**QUALISYS**  
Motion Capture Systems

[www.archivetips.com](http://www.archivetips.com)



Miquis Hybrid

- ・マーカーレス & マーカーベース両対応
- ・だれでも簡単！ワンクリック自動動作解析  
※Theia/Visual3D/MATLAB/エクセル/webなど連動可能
- ・フレキシブルな骨格解析カスタマイズ対応
- ・たった1分簡単キャリブレーション
- ・いつでもどこでも高精度/高速サンプリング
- ・自由なマーカーセット対応 [Anybody/PGなど]  
※マーカーレスからマーカー情報へのフィードバック可
- ・各種 筋電図/床反力/アイトラッカー連動
- ・多chアナログ信号入力可/外部同期入出力

■■■多彩な研究機器ラインナップ■■■



近赤外分光法NIRS  
**artinis**



**cometa**  
ワイヤレス筋電計



StretchSense  
手・指モーション計測



**BERTEC**  
床反力・制御系トレッドミル

設置のための相談や、デモンストレーションを常時実施しております。お気軽にお問い合わせください。



[www.archivetips.com](http://www.archivetips.com)

**アーカイブティップス株式会社**

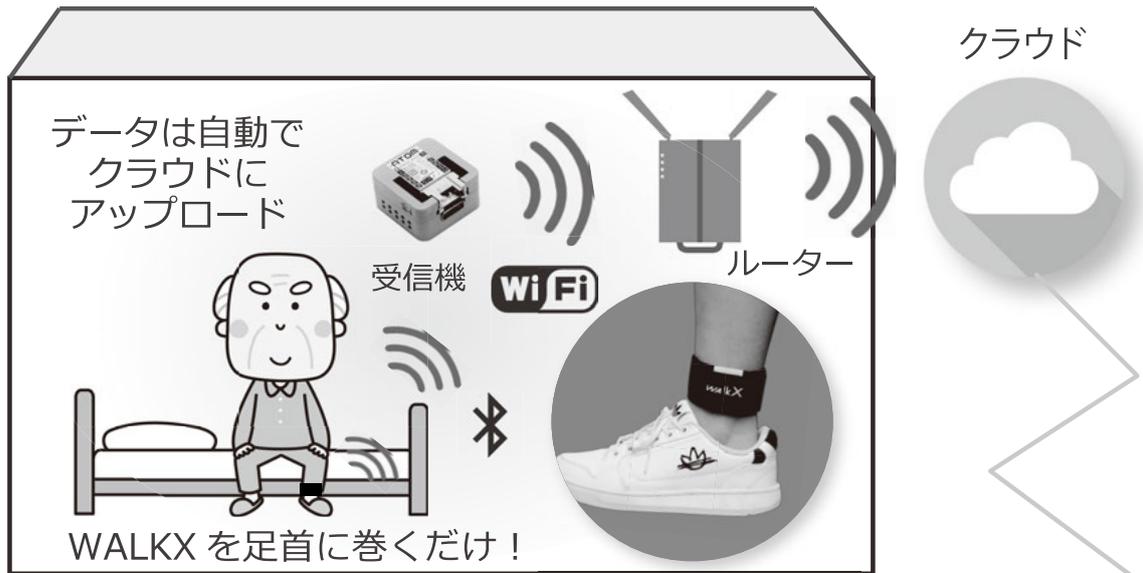
技術的なご質問やご導入に関するお問い合わせは、[sales@archivetips.com](mailto:sales@archivetips.com)

義手・義足・コルセット・整形装具一般・杖・車いす

## 株式会社 あかさか義肢

〒040-0025 函館市堀川町28番3号

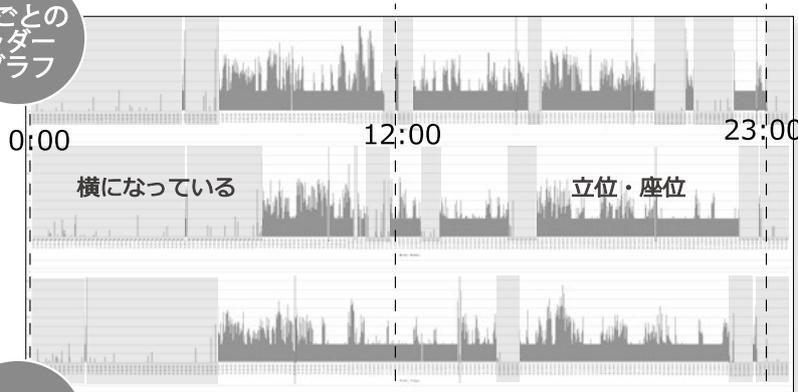
TEL 0138-83-6566 FAX 0138-83-6714 E-mail akasakagisi@outlook.jp



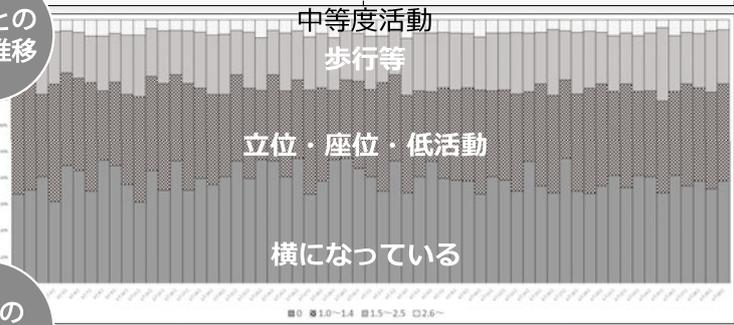
# みまもり WALKX

施術後・指導後の生活リズム、歩行速度、歩幅などが遠隔地からもリアルタイムでわかります

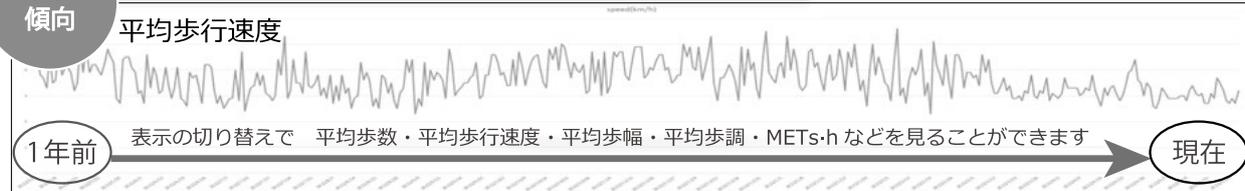
日ごとのラダーグラフ



日ごとの活動推移



長期の傾向



パソコンやスマホから簡単に確認!



遠くに暮らす家族



介護ヘルパー



指導者



株式会社 **アコース** TEL.0265-53-6571 FAX.0265-53-6573 URL: <http://www.acos.co.jp/>  
 〒395-0807 長野県飯田市鼎切石4376-4 Mail: [info@acos.co.jp](mailto:info@acos.co.jp)

# 予防理学療法学要論

大淵修一・浦辺幸夫 監修／吉田剛・井上和久 編

定価 5,060 円 (本体 4,600 円+税 10%)

ISBN978-4-263-21740-5 B5 判 248 頁

**健康長寿の延伸と社会的ニーズを見据えた  
本邦初の「予防理学療法学」テキスト!**

- 予防理学療法学にかかわる領域・制度の理解, 理学療法士の役割, 各項の必要知識を網羅.
- 詳細な用語解説や豊富な図表を盛り込み, 初学者にも理解しやすい工夫をこらした.
- 学際的内容から実際の取り組み例までを紹介し, 臨床家の興味と意欲にも応える内容.



## イチからわかる! フレイル・介護予防 Q&A

山田実 著

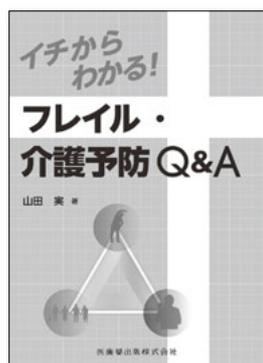
A5 判 120 頁

定価 2,200 円

(本体 2,000 円+税 10%)

ISBN978-4-263-26650-2

「どのくらい運動を実施すればよいでしょう?」「体幹筋の強化方法は?」「なぜ, たんぱく質の摂取が必要なの?」最新の研究成果やエビデンスに基づいた知識・ノウハウを現場に活かす!



## 国立長寿医療研究センター開発 コグニサイズ入門 楽しく取り組む認知症予防

島田裕之・李相命 編

B5 判 76 頁

定価 1,980 円

(本体 1,800 円+税 10%)

ISBN978-4-263-26658-8

楽しくできる認知課題と運動方法をまとめた, 最もやさしいコグニサイズ入門書. 認知症予防に関する最新研究や, コロナ禍での「集いの場」の工夫も解説し, 指導者にもぴったりの一冊.



## ポジティブ心理学と リハビリテーション栄養

**強みを活かす! ポジティブリハ栄養**

若林秀隆 編著

B5 判 168 頁

定価 4,180 円

(本体 3,800 円+税 10%)

ISBN978-4-263-26670-0

強みを伸ばすポジティブ心理学を活用して患者の行動変容と成果につなげる“ポジティブリハ栄養”は, 患者の生活機能やQOLを高めるだけでなく, 医療者自身の精神衛生にもつながる!



## はじめてのリハビリテーション 臨床倫理ポケットマニュアル

藤島一郎 編集責任者

新書判 240 頁

定価 3,520 円

(本体 3,200 円+税 10%)

ISBN978-4-263-26668-7

リハビリテーション医療における倫理的ジレンマは多数存在するが, 気づかれていないか, どうしてよいかわからないまま放置されている. 本書では, 浜松市リハビリテーション病院における取り組みを紹介する.





## クリニックでも居宅でも、 この1台で始められる予防リハビリ

上肢・下肢を連動させた運動機能向上トレーニング

1台で130種類以上のトレーニングができる専用マシン

専用アプリで手軽に運動指導、運動履歴も自動で記録

歩行専用トレーニング



株式会社walkey

〒152-0035 東京都目黒区自由が丘1-14-14 原田ビル2階

HP : <https://walkey.co.jp/>

mail : [info@walkey.co.jp](mailto:info@walkey.co.jp)



所沢明生病院と狭山中央病院が合併し、  
2023年12月新規開院予定

社会医療法人社団 埼玉巨樹の会

## 所沢美原総合病院 (急性期病院)

病床数：221床

※令和4年度

〒359-0045 埼玉県所沢市美原町2丁目2934-3  
TEL:04-2928-9110 <http://tmgh.jp/mihara/>



埼玉県北部の皆様から高い信頼を得られるよう“断らない病院”を実現します!

社会医療法人社団 埼玉巨樹の会

## 新久喜総合病院 (急性期・回復期病院)

病床数：391床 職員数：約1,200名

※令和4年度

〒346-8530 埼玉県久喜市上早見418-1  
TEL:0480-26-0033 <https://www.shinkuki-hp.jp/>



人を思いやる気持ちで、24時間・365日  
患者さまとともに取り組んでいきます。

社会医療法人社団 埼玉巨樹の会

## 明生リハビリテーション病院 (回復期病院)

病床数：111床 職員数：約210名

※令和4年度

〒359-1106 埼玉県所沢市東狭山ヶ丘4丁目2681番2号  
TEL:04-2929-2220 <http://www.meisei-reha.jp/>





在宅復帰に徹した  
回復期リハビリテーション。

一般社団法人 巨樹の会

## 八千代リハビリテーション病院 (回復期病院)

病床数：240床 職員数：約480名

※令和4年度

〒276-0015 千葉県八千代市米本1808番地  
TEL:047-488-1555 <http://www.yachiyo-reha.com/>



東京湾を望むリハビリ病院。

一般社団法人 巨樹の会

## 千葉みなとりハビリテーション病院 (回復期病院)

病床数：180床 職員数：約360名

※令和4年度

〒260-0024 千葉県千葉市中央区中央港1丁目17番18号  
TEL:043-245-1555 <http://www.minato-reha.com/>



限りある病床数を最大限に利用した  
回復期リハビリテーション。

一般社団法人 巨樹の会

## 松戸リハビリテーション病院 (回復期病院)

病床数：180床 職員数：約300名

※令和4年度

〒270-2232 千葉県松戸市和名ヶ谷1009番地-1  
TEL:047-703-1555 <http://www.matsudo-reha.com/>





北関東最大のリハビリテーション病院  
充実した医療の提供を目指します。

一般社団法人 巨樹の会

## 新宇都宮リハビリテーション病院 (回復期病院)

病床数：240床 職員数：約430名

※令和4年度

〒321-0941 栃木県宇都宮市東今泉2丁目5番31号  
TEL:028-666-4880 <https://shin-utsunomiya.jp/>



整形外科とリハビリ機能を兼ね備え  
一貫した医療を提供。

一般社団法人 巨樹の会

## 新上三川病院 (急性期・回復期病院)

病床数：209床 職員数：約500名

※令和4年度

〒329-0611 栃木県河内郡上三川町上三川2360番地  
TEL:0285-56-7111 <https://www.kaminokawa-hp.jp/>



宇都宮で10年以上の実績を誇る  
回復期リハビリテーション専門病院。

一般社団法人 巨樹の会

## 宇都宮リハビリテーション病院 (回復期病院)

病床数：96床 職員数：約200名

※令和4年度

〒321-0982 栃木県宇都宮市御幸ヶ原町43番2号  
TEL:028-662-6789 <http://www.utsunomiyarh-hp.jp/>





企業のための病院から「信頼される、  
地域に根差した総合病院」をめざして

社会医療法人社団 東京巨樹の会

## 東京品川病院

(急性期・回復期病院)

病床数：400床

職員数：約1,180名

※令和4年度

〒140-8522 東京都品川区東大井6丁目3番22号  
TEL:03-3764-0511 <https://tokyo-shinagawa.jp/>



若者の街「原宿」にそびえたつ  
回復期リハビリテーション病院。

医療法人社団 巨樹の会

## 原宿リハビリテーション病院

(回復期病院)

病床数：332床

職員数：約600名

※令和4年度

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前6-26-1  
TEL:03-3486-8333 <https://harajuku-reha.com/>



東京駅から東に7km、利便性高く  
緑あふれる江東区で地域医療を目指します。

医療法人社団 巨樹の会

## 江東リハビリテーション病院

(回復期病院)

病床数：300床

職員数：約560名

※令和4年度

〒136-0073 東京都江東区北砂2丁目15番15号  
TEL:03-6880-1555 <https://www.koto-reha.com/>



JR山手線五反田駅  
徒歩8分の都心部に開設!

医療法人社団 巨樹の会

## 五反田リハビリテーション病院

(回復期病院)

病床数：240床

職員数：約470名

※令和4年度

〒141-0031 東京都品川区西五反田8丁目8番20号  
TEL:03-3779-8820 <http://www.gotanda-reha.com/>





医療の中心は患者さま。患者さまにいつも寄り添いサポートできる医療を目指して。

医療法人社団 巨樹の会

## 赤羽リハビリテーション病院

(回復期病院)

病床数：240床

職員数：約480名

※令和4年度

〒115-0055 東京都北区赤羽西6丁目37番12号  
TEL:03-5993-5777 <http://www.akabane-rh.jp/>



地域に貢献できる病院として。

医療法人社団 巨樹の会

## 小金井リハビリテーション病院

(回復期病院)

病床数：220床

職員数：約400名

※令和4年度

〒184-0013 東京都小金井市前原町1丁3番2号  
TEL:042-316-3561 <http://www.koganei-rh.net/>



安心・良質な医療とリハビリテーションの提供で地域貢献を。

医療法人社団 巨樹の会

## 蒲田リハビリテーション病院

(回復期病院)

病床数：180床

職員数：約300名

※令和4年度

〒143-0015 東京都大田区大森西4丁目14番5号  
TEL:03-5767-7100 <http://www.kamata-rh.net/>



患者さまの社会・在宅復帰のお手伝いをいたします。

医療法人社団 銀緑会

## みどり野リハビリテーション病院

(回復期病院)

病床数：136床

職員数：約280名

※令和4年度

〒242-0007 神奈川県大和市中央林間2丁目6番17号  
TEL:046-271-1221 <http://www.midorino-hp.jp/>





# 『お達者健診PLUS®』とは

「運動・口腔・認知・栄養・社会」の五つの機能から「健康長寿度」を測定します

東京都健康長寿医療センターの高齢者データに基づく偏差値として  
測定結果はその場でアドバイスと共にお返し致します。

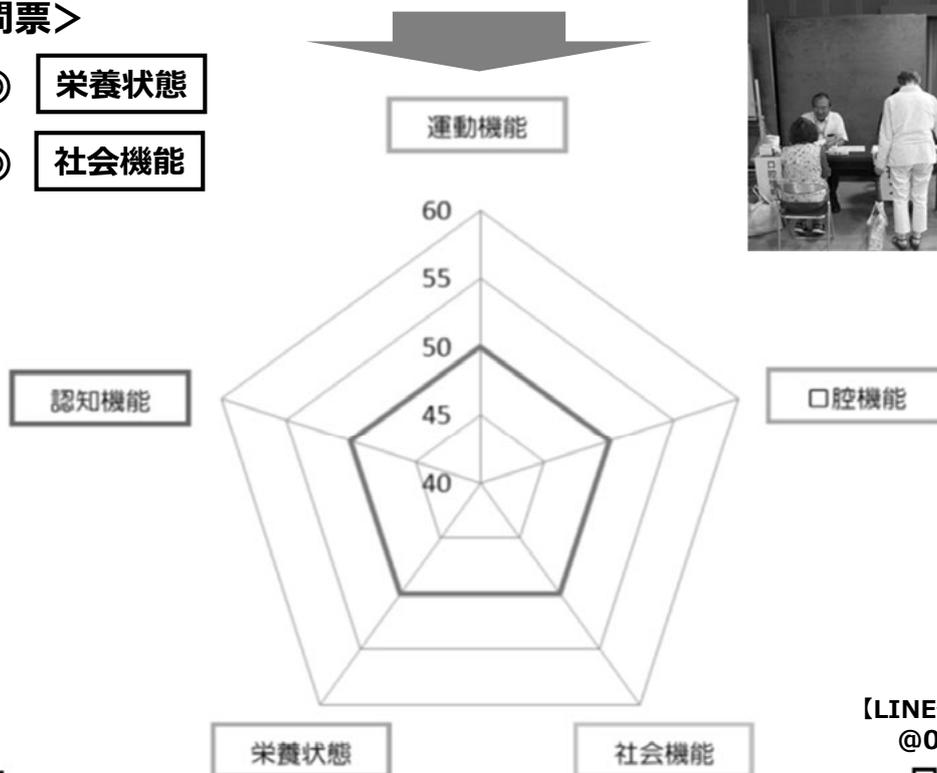
## 【(簡易版)お達者健診測定会】

### <測定項目>

- ◎ **身体測定** 身長・体重
- ◎ **運動機能測定** 握力・TUG(身軽さ)・開眼片足立ち(バランス能力)・歩行速度
- ◎ **口腔機能測定** ガム(噛む力)・オーラルディアドコキネシス(口の器用さ)
- ◎ **認知機能測定** 順唱・逆唱・ものの記憶・ストループ・遠隔記憶

### <質問票>

- ◎ **栄養状態**
- ◎ **社会機能**



一般社団法人 健康長寿支援センター  
【お問い合わせ】 kenko-choju@otasshaplus.jp

【LINE公式アカウント】  
@048txrpm



## コードレスバイク BFU/BFR

### <特長>

- ・30年以上の実績を有する脈拍管理トレーニング
- ・発電機能を搭載しスマホ充電が可能
- ・直観的に操作しやすく見やすいコンソール表示
- ・乗り降りしやすいウォークスルー構造

Senoh オリジナルプログラム「定脈拍数」は、トレーニング中の脈拍の変化をリアルタイムに表示し、設定した目標脈拍数の応じて、バイクの負荷を自動的にコントロールします。一定の強度でトレーニングが実施できるため、目的や体力に合わせた効果的なトレーニングが行えます。

また、「体力測定」プログラムでは脂肪燃焼時、体力向上時の脈拍数を知ることが出来ます。



BFU

BFR

## NuStep T4r®

### <特長>

- ・四肢が連動して動く事で、健側の手足で患側の手足を自分のペースで動かすことが出来る
- ・小刻みな運動から可動域の広い運動ができ、5W～800Wまでの負荷がかかる
- ・これ1台で運動機能のリハビリテーション、低体力者の健康増進トレーニング、アスリートのリハビリトレーニングに対応可能
- ・回転するシートとアシストバーで高齢者や車いすの方でも移乗が容易



低負荷・長時間の全身運動から、高負荷での短時間運動まで対応し、全身の有酸素運動と無酸素運動が行える訓練器です。



【HPからの問合せ】



【公式 Twitter】



【公式 YouTube】



【公式 Facebook】



SENOH\_OFFICIAL

Instagram始めました！  
\*\* 随時更新中 \*\*

セノ一株式会社 〒270-2214 千葉県松戸市松飛台250 Tel: 047-311-8912 <https://www.senoh.jp>

 **Senoh**

# 医療法人 大 庚 会

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・放射線科 理事長 今 均



# 今 整 形 外 科

函館市本町30番36号(ホテル法華クラブ向い入る)

TEL.52-7551 FAX.52-9764

日本整形外科学会整形外科専門医  
財団法人日本体育協会公認スポーツドクター  
日本医師会認定健康スポーツ医  
日本リハビリテーション医学会認定臨床医  
日本リウマチ学会リウマチ専門医

□通所リハビリテーション今整形外科 □訪問リハビリテーション今整形外科 TEL.52-7577 FAX.35-5385

内科・外科 往診・訪問診療随時受付中

## こんクリニック 時任

函館市時任町35番24号 TEL.33-1233

□短期入所施設こん TEL.33-0020

□通所リハビリテーションこん TEL.33-0021

## 訪問看護ステーションこん

函館市時任町35番24号 TEL.52-4555

## グループホーム 街

函館市時任町35番3号 TEL.33-1317

整形外科・リウマチ科・リハビリテーション科・内科

## こんクリニック 松濤

函館市松風町18番17号 TEL.27-0123

□訪問リハビリテーションこんクリニック松濤

## ケアプランセンターこん

函館市本町30番36号 TEL.33-5557

## グループホーム こん松濤

函館市宇賀浦町16番20号 TEL.30-2277

## 福祉拠点 函館市地域包括支援センター

### こん中央 (中央部第1)

函館市松風町18番14号 TEL.27-0777

### ときとう (中央部第2)

函館市時任町35番24号 TEL.33-0555

## 社会福祉法人 函館大庚会

特別養護老人ホーム  
しょうとう

## 「松濤」

### 短期入所施設「松濤」

函館市松風町18番15号 TEL.27-0077

### グループホーム こんはこだて

函館市時任町35番4号 TEL.33-1234

### 小規模多機能ハウス こん

函館市本町29番7号 TEL.33-0888

### 介護付有料老人ホーム こん

函館市本町29番7号 TEL.33-0777

### デイサービスセンター 松濤

函館市松風町18番15号 TEL.27-6616

### ヘルパーステーション 松濤

函館市松風町18番15号 TEL.27-2121

特別養護  
老人ホーム

## 俱 有

### 短期入所施設 俱有

函館市松風町19番18号 TEL.24-2255

# 目白大学大学院 リハビリテーション学 研究科

新宿キャンパス

リハビリテーション学専攻 修士課程 教育訓練給付制度指定講座

Mejiro University Graduate School of Rehabilitation Master's Program in Rehabilitation

特色  
1

総合的な支援力を備えた  
リハビリテーション専門家を養成

本専攻は理学療法、作業療法、言語聴覚療法の3分野において、各分野での専門性を深めるとともに総合的な支援力を持つリハビリテーションの高度専門職業人を養成することを目指しています。そのため、各分野で専門性の高い研究を展開しつつ、多彩な分野に関わる共通科目を設けて、分野相互の職種間連携を視野に入れた教育課程を編成しています。



特色  
2

有職者に配慮した立地と  
カリキュラム

臨床の現場で活躍する有職者が修学しやすいように、基本的に授業を平日夜間のみに設定。交通至便な新宿キャンパスで受講できるため、さまざまな経歴や専門分野を持つ人材が集まりやすい環境です。日々の学修や研究だけでなく、学生同士の交流が、知見の拡大や将来にわたる広範な人脈形成につながるのも大きなメリットと言えます。

厚生労働省指定規則の専任教員の要件の  
「教育学に関する科目」を履修することができます。

特色  
3

有資格者がさらなる  
キャリアアップを目指す

本専攻は、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のいずれかの資格を有することが入学条件となっています。本専攻を修了後は、リハビリテーションの各分野で高度の専門性を持つ職業人、インクルーシブな社会を実現するリーダー、あるいはリハビリテーション職種教育機関などの教員、研究者として活躍することが期待されます。また本専攻は、教育訓練給付制度の対象講座として指定されています。

※ 詳細は厚生労働省、中央職業能力開発協会のWebサイトなどでご確認ください。

## 社会人のための 修学支援制度

### 社会人特別入試

社会人経験を活かしたブレゼンテーションなどを利用して受験することができます。

### 長期履修制度

個々のペースに合わせて、最大4年まで学ぶことが可能。学納金は総額を在籍年数で割った額となり、長期在籍により学納金が増えることはありません。  
※就業中の社会人、育児・介護などの必要がある方が利用できます。

### 大学卒業資格を お持ちでない方へ

4年制大学の卒業資格を持たない場合(短期大学・専門学校の卒業生など)でも、社会人経験に基づき入学資格を認定し、受験を認めることがあります。

### 2023年度入試

リハビリテーション学研究科では、以下のとおり入学試験を実施します。詳細は入学試験要項をご確認ください。

### 試験日

第II期 2023/12/10 ㊤

第III期 2024/2/23 ㊤㊤

お問い合わせ

目白大学入学センター 〒161-8539 東京都新宿区中落合4-31-1 TEL 03-3952-5115

目白大学  
保健医療学部

さいたま岩槻  
キャンパス



理学療法学科



作業療法学科



言語聴覚学科

【お問い合わせ】

さいたま岩槻キャンパス 入試課

〒339-8501 埼玉県さいたま市岩槻区浮谷320 TEL 048-797-2222

## 準備委員会

### ■準備委員会

役 職	氏 名	所 属
大会長（予防理学療法学会）	大 淵 修 一	東京都健康長寿医療センター研究所
大会長（産業理学療法研究会）	佐 藤 友 則	東北労災病院治療就労両立支援センター
副大会長	新 井 武 志	目白大学
準備委員長	河 合 恒	東京都健康長寿医療センター研究所
準備委員長	森 山 武	市立函館病院
<b>学術局</b>		
企画部長	新 井 智 之	埼玉医科大学
企画部員	森 田 泰 裕	埼玉医科大学
企画部員	小 牧 隼 人	馬場病院
演題部長	解 良 武 士	高崎健康福祉大学
演題部員	今 村 慶 吾	東京都健康長寿医療センター研究所
企画・演題部長（産業）	加 藤 剛 平	東京保健医療専門職大学
<b>運営局</b>		
運営部長	齊 藤 亨	介護老人保健施設やわらぎ苑西桔梗
運営部長（産業）	澤 野 純 平	北星病院
<b>事務局</b>		
総務部長	上 出 直 人	北里大学
総務部員	鈴 木 良 和	北里大学病院
渉外部長	福 嶋 篤	北海道理学療法士会
渉外部員	井 平 光	札幌医科大学
渉外部員	松 崎 由里子	日本医療大学
渉外部員	水 本 淳	北海道文教大学
財務部長	植 田 拓 也	東京都健康長寿医療センター研究所
情報管理部長	稲 葉 康 子	昭和大学
情報管理部員	三 宅 英 司	昭和大学
広報部長	白 部 麻 樹	東京都健康長寿医療センター研究所
広報部員	安 藤 雅 峻	北里大学
総務・渉外部長（産業）	川 村 有希子	株式会社三菱総合研究所
財務部長（産業）	加 藤 芳 司	名古屋女子大学
広報・情報管理部長（産業）	木 村 圭 佑	豊田地域医療センター